

# 知多厚生病院 | 年報

(平成30年度)



# 知多厚生病院 | 年報

---

(平成30年度)

## 発刊にあたり

知多厚生病院 院長 水野 志朗



知多厚生病院は、1964年（昭和39年）6月に愛知県厚生連9番目（当時）の病院として開設され、以後知多半島南部における急性期医療と救急医療の拠点病院として診療に携わってまいりました。平成11年からは知多半島医療圏の第二種感染症指定医療機関、平成14年からは篠島や日間賀島など離島医療を支援するへき地医療拠点病院、平成16年からは臨床研修指定病院、平成19年からは災害拠点病院に指定されるなど、知多半島南部の公的医療機関として重要な責務を果たしております。

当院の主な診療圏である美浜町・南知多町では、愛知県の平均よりも人口減少・少子高齢化が大きく進行しております。また、この地域の各医療機関では医師の高齢化も進み、医療の確保が難しくなってくることが予想されています。

今年度は当院自体も医師不足が顕著となり、内科医が9名から5名に減少するなど大変な苦境を強いられる年となりました。

そうした地域情勢と院内実情をふまえ、平成30年12月には既存の病床機能を見直す病床再編を実施いたしました。これは、2階、4階、6階にあった急性期病棟3病棟を3階と4階に集約し、3階の地域包括ケア病棟を2階へ移動させたものです。これにより、急性期病棟49床を一時的に休床とし、集約化による運営の効率化を図りました。今後は、この休床部分を地域にとってより良い機能への転換等を検討していく所存です。

また、医師不足により、対応が困難になったものの、地域からの強い要望が伴う救急医療については、職員自らが志願する「救急ファーストタッチトリアージチーム」を結成し、文字通り「病院職員一丸」となってこの難局に立ち向かいました。これら

が実行できたのは、ひとえに、全職員の懸命な努力と、地域の方々からの多大なご理解とご支援があるお陰であり、私たちが担うべき役割と使命が皆さんの支えによって成り立っていることに、あらためて感謝する次第です。

その他にも、国家戦略特区におけるオンライン診療とオンライン服薬指導の同時実施による実証事業や、従来から実施している住民公開講座の開催、美浜町、武豊町の産業まつりに参加して地域との繋がりを強化するとともに、今年度は新たにケーブルテレビとのタイアップにより医療に関わるミニ番組を設けるなど、地域医療の可能性を探究するとともに地域との積極的な関わりを強化した年でもありました。これら地域との交流は、当院の存在意義を再確認するうえでも貴重な機会であり、今後さらに強化していくべきものと考えています。

知多厚生病院は『保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する』という病院理念に基づき、地域とともに地域を考え、『Aging in Place 知多半島モデル』を構築し、さらにこの地域の一員として『まちづくりの拠点』としてもお役に立てますよう、職員一同全力を尽くし取り組んでまいります。今後とも皆様のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

令和元年 5 月

# 目 次

---

## 1. 発刊にあたり

## 2. 病院基本情報

理念・基本方針	1
病院概要	2
病院沿革	4
組織・機構図	6
会議・委員会組織図	8
平成 30 年度事業計画	9

## 3. 統計資料

職員数推移	13
過去 3 か年の推移	14
診療科別延べ患者数	14
科別時間外患者取扱数	15
市町村別時間外患者取扱数	15
市町村別時間外患者数 救急車搬入件数	15
診療科別在院延べ患者数及び新入院患者数	16
診療科別退院患者数及び平均在院日数	17

## 4. 診療科別医療実績

内科	21
小児科	24
外科	25
整形外科	28
脳神経外科	30
皮膚科	32
泌尿器科	33
産婦人科	34
眼科	35
耳鼻いんこう科	37
麻酔科	39

## 5. 部署別業務実績

放射線技術科	43
臨床検査技術科	48
リハビリテーション技術科	52
臨床工学技術科	54
栄養科	60
薬剤部	62
看護部	65
医療安全管理部	71
感染制御部	74
事務部	76
医療情報部	84
保健事業部	85
地域医療福祉連携部	87

## 6. 委員会活動報告

篠島診療運営委員会	105
手術部運営委員会	105
放射線運営委員会	106
救急・診療委員会	106
健康管理支援センター運営委員会	107
臨床検査技術科運営委員会	107
栄養管理委員会	108
保育所運営委員会	108
生活改善センター運営委員会	109
母子支援センター運営委員会	109
地域医療福祉連携センター運営委員会	110
リハビリテーション科運営委員会	110
資材委員会	111
倫理委員会	111
治験審査委員会	112
購買委員会	112
医療安全対策委員会	113
安全衛生委員会	113
防災対策委員会	114

院内感染対策委員会	114
廃棄物管理委員会	115
輸血療法委員会	115
医療ガス安全管理委員会	116
広報委員会	116
教育研修委員会	117
臨床研修管理委員会	117
臨床研修委員会	118
患者サービス向上委員会	118
医療情報システム委員会	119
診療情報管理委員会	119
コンプライアンス委員会	120
在宅療養支援委員会	120
人事考課制度推進委員会	121
クリニカルパス委員会	121
栄養・スキンケア委員会	122
糖尿病教育委員会	122
肝臓病教育委員会	123
摂食・嚥下障害委員会	123
緩和ケア委員会	124
化学療法委員会	124
権利擁護対策委員会	125
医師業務軽減検討委員会	125
保険診療委員会	126
D P C コーディング部会	126
D S T 委員会	127
経営改善委員会	127
病床運営管理委員会	128

## 7. 学術統計

患者教室・院内講座	131
学会・研究会発表	134
院外講演会・勉強会講師	137
論文・雑誌掲載	143

# 病院基本情報

---

理念・基本方針	1
病院概要	2
病院沿革	4
組織・機構図	6
会議・委員会組織図	8
平成30年度事業計画	9



## 知多厚生病院 理念

私たちは保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

## 知多厚生病院 基本方針

- 1、地域住民のニーズに応える診療体制の充実に努めます。
- 1、救急医療・災害医療の充実に努めます。
- 1、医療技術と接遇向上に努めます。
- 1、患者の権利とプライバシーを尊重し、安全で快適な、患者中心の医療サービスを提供します。

### ● ロゴマークについて

ロゴマーク全体で、知多厚生病院（Chitakosei Hospital）の頭文字“C”と、知多半島を表しています。

また、右下の2つの四角は、篠島・日間賀島を、丸は、知多半島における当院の位置を表しています。

全体として、知多半島をイメージさせる海・空の色である明るい青を基調に、開放感・希望を、知多半島全域で盛んな農業（JA）をイメージさせる明るい緑は安心・安全・癒しを、美浜町を中心に栽培が盛んなみかんや、太陽をイメージさせる明るいオレンジは、躍動感・歓喜・溢れる生命感を表しています。



# 知多厚生病院 概要

平成31年3月31日 現在

## 名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院

## 所在地

〒470-2404

愛知県知多郡美浜町大字河和字西谷81番地6

TEL 0569-82-0395

FAX 0569-82-4333

E-MAIL c-hospital@chita.jaaikosei.or.jp

ホームページ <http://www.jaaikosei.or.jp/chitakosei/>

## 設立年月日

昭和39年6月1日

## 病床数

259床(一般199床(地域包括ケア病棟42床含む) 療養54床(医療15床・  
介護39床) 感染症6床)

## 診療科(25科)

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・血液内科・  
小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・肛門外科・内視鏡外科・血管外科・整形外科・  
リウマチ科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・  
リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

## 各種指定

救急告示病院、地域災害拠点病院、へき地医療拠点病院、臨床研修指定病院、  
労災指定医療機関、母体保護法指定医療機関、生活保護法指定医療機関、  
指定自立支援医療機関、更生・育成医療指定医療機関、養育医療指定医療機関、  
性病予防法指定医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、健康保険法指定医療機関、  
国民健康保険指定医療機関、第2種感染症指定医療機関、指定介護療養型医療施設、  
肝疾患専門医療機関、病院群輪番制病院、特定疾病治療研究医療機関、  
小児慢性特定疾病治療研究医療機関、愛知DMAT指定医療機関、  
人間ドック健診施設機能評価認定、医療被ばく低減施設認定

## 関連施設

知多厚生病院健康管理支援センター  
知多厚生病院介護保険センター  
南部知多訪問看護ステーション  
知多厚生病院附属篠島診療所

## 管理者

病院長： 水野 志朗  
副院長： 脇田 郷、高橋 佳嗣、丹村 敏則、村元 雅之  
第1診療部長： 村元 雅之                      第2診療部長： 冨本 茂裕  
診療協同部長： 福島 庸行                      医療情報部長： 冨本 茂裕  
地域医療福祉連携部長： 保里 恵一              薬剤部長： 齋藤 宏明  
看護部長： 近藤 貴代                              事務部長： 池田 智志

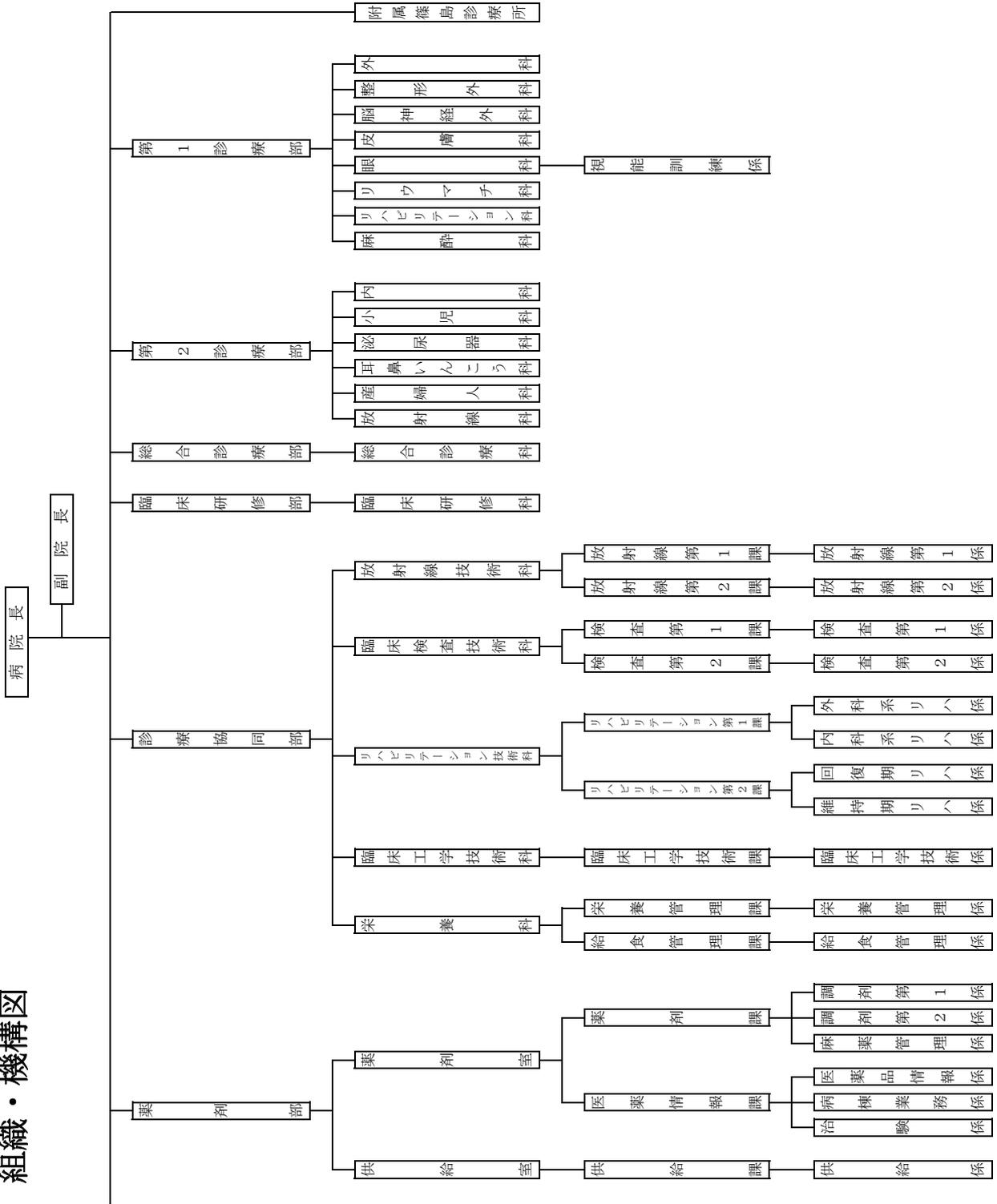
# 知多厚生病院 沿革

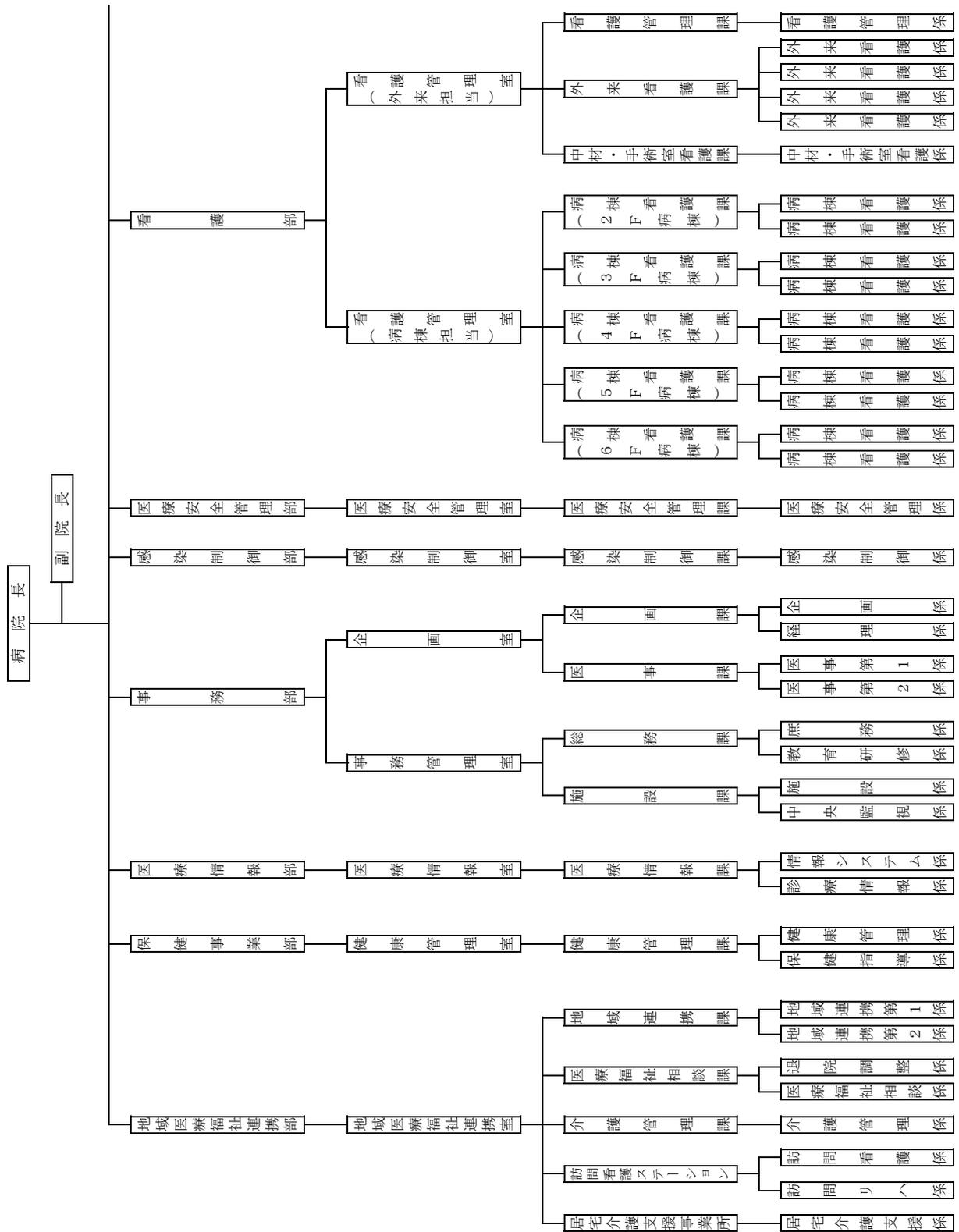
平成31年3月1日 現在

昭和38年	3月	知多郡美浜町河和に厚生連病院建設決定
昭和39年	6月	知多厚生病院診療開始 内科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科 病床数 113床
昭和42年	3月	美浜町・南知多町伝染病組合伝染病舎24床併設 (病床数 137床)
昭和43年	10月	病棟増築(病床数 179床)
昭和49年	7月	救急医療施設開設 整形外科開設 病棟・リハビリ棟増築(病床数 217床)
昭和54年	2月	総合病院として認可
昭和55年	6月	厨房の整備 病棟増築(病床数 222床)
昭和57年	3月	診療棟増改築
	4月	小児科開設
	6月	皮膚科開設
昭和58年	1月	放射線科開設
	2月	病棟増改築・伝染病舎改築(病床数 277床)
平成3年	10月	知多厚生病院附属篠島診療所開設
平成6年	4月	脳神経外科開設
平成8年	4月	泌尿器科開設
平成9年	10月	南部知多訪問看護ステーション開設
平成10年	3月	病棟改築(病床数 一般260床・伝染8床)
平成11年	4月	第2種感染症指定医療機関指定 (病床数 一般260床・感染6床)
平成11年	10月	居宅介護支援事業所 知多厚生病院介護保険センター開設
平成14年	2月	療養型病床開設(病床数 一般212床・療養48床・感染6床)
	4月	へき地医療拠点病院指定
平成15年	5月	病床区分変更(病床数 一般206床・療養54床・感染6床)
	10月	臨床研修病院指定
平成16年	5月	オーダリングシステム稼働

平成19年	3月	災害拠点病院指定
	7月	病院機能評価認定（Ver. 5.0）
平成21年	8月	診療棟改築
		電子カルテシステム稼働
		ID-Link導入
平成22年	9月	病床区分変更（病床数 一般199床・療養54床・感染6床）
平成23年	7月	病院機能評価認定（Ver. 6.0）
平成23年	9月	7対1入院基本料取得
平成25年	12月	DMA T（災害派遣医療チーム）結成
平成26年	4月	DPC（診断群分類）対象病院
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設
		（一般 [7対1看護基準] 149床、回復期リハ50床、療養54床、感染6床）
	9月	開院50周年記念式典・病院祭開催
	11月	美浜町産業まつりのほか、武豊町産業まつりへも新規出展
平成27年	7月	認知症対応力向上事業実施病院
平成28年	4月	DMA Tを派遣（熊本地震）
平成29年	1月	厨房改修工事完工
	3月	電子カルテシステム更新
平成29年	5月	医療被ばく低減施設認定
	7月	人間ドック健診施設機能評価認定
平成30年	2月	地域包括ケア病棟開設
		（回復期リハビリテーション病棟より転換）
		（一般 [7対1看護基準] 149床、地域包括ケア50床、療養54床、感染6床）
平成30年	12月	病床区分変更
		（一般 [7対1看護基準] 157床、地域包括ケア42床、療養54床、感染6床）
平成31年	2月	オンライン診療・オンライン服薬指導開始

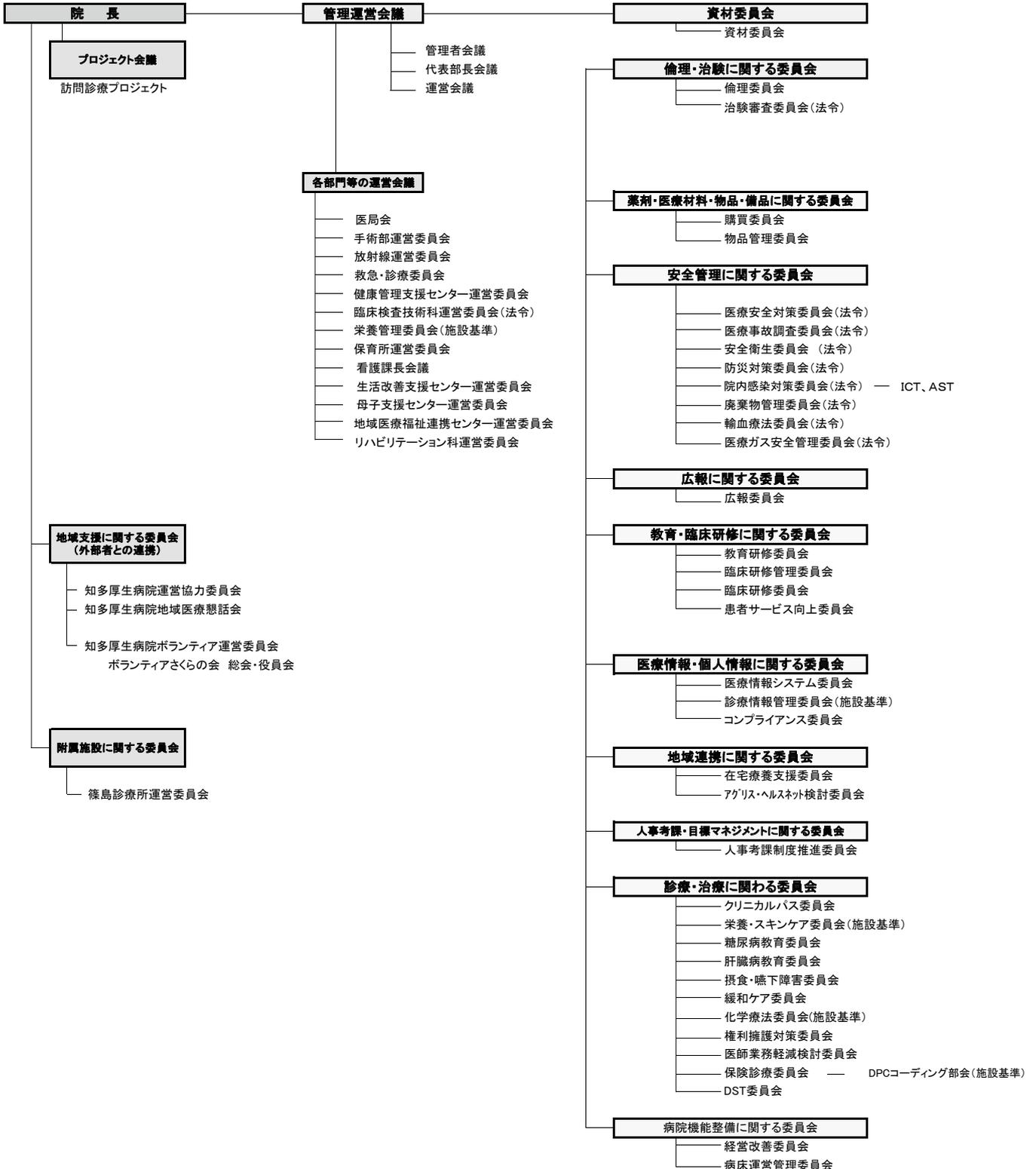
# 組織・機構図





# 会議・委員会組織図

平成21年 8月 1日制定	平成23年11月 1日改正
平成21年10月 1日改正	平成24年 3月 1日改正
平成22年 4月 1日改正	平成24年 4月 1日改正
平成22年 6月 1日改正	平成24年 9月21日改正
平成22年 7月 1日改正	平成25年 6月14日改正
平成22年 9月 1日改正	平成26年 4月 1日改正
平成22年10月 1日改正	平成26年 7月 1日改正
平成22年12月 1日改正	平成27年 1月 1日改正
平成23年 4月 1日改正	平成28年 4月 1日改正
平成23年 7月 1日改正	平成29年 4月 1日改正
平成23年10月 1日改正	平成30年 7月 1日改正



## 平成30年度 事業計画

1	<b>理 念</b>	私たちは、保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。
2	<b>基本方針</b>	1. 地域住民のニーズに応える診療体制の充実に努めます。 1. 救急医療・災害医療の充実に努めます。 1. 医療技術と接遇向上に努めます。 1. 患者の権利とプライバシーを尊重し、安全で快適な、患者中心の医療サービスを提供します。
3	<b>環境の認識</b>	<p>知多半島医療構想区域においては、県全体とほぼ同様に総人口が減少している中、当院の主な診療圏である美浜町、南知多町は少子高齢化、人口減少が著しく進んでいる地域である。また、この構想区域における2025年の予想では、急性期が過剰となる一方、高度急性期、回復期、慢性期病床の不足が見込まれている。当院が立地する南部の美浜町、南知多町では医師の高齢化も進み、診療所が減少し医療の確保が難しくなることが予想され、当院においても安定的に医師の確保が懸念される状況となってきている。この地域において安全で良質な医療を提供しつづけるためには経営の安定化が重要であるが、当院の経営状況は厳しく経営改善が必要である。こうした状況の中で知多半島南部地域における唯一の中核病院かつ公的医療機関として、地域医療構想を踏まえた病床機能の方向性や地域包括ケアシステムの構築に向け、今後果たすべき役割を整理していく必要がある。また、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指すことが求められている。</p>
4	<b>基本方針(病院運営の基本姿勢及び目標)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急医療、周産期医療、急性期医療・回復期・慢性期・在宅医療にいたるまでの医療サービスを提供する。</li> <li>・これまで培ってきた災害医療の分野、へき地医療の分野、及び感染症医療の分野について継続して知多半島医療圏における中心的な役割を担う。</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築に取り組み、治し・支える医療を多職種で行い、この地域で完結できない機能を補完する。</li> <li>・患者に安全で良質な医療を提供することを第一とし、継続的に医療の質向上に取り組む。</li> <li>・業務の効率化、コスト削減に取り組み経営の安定化を図る。</li> <li>・診療報酬改定への対応、経営改善を目的として病床再編を行う。</li> <li>・職員の一人ひとりがやりがいを持って働ける病院づくりを目指す。</li> <li>・予防を含めた健康づくり等の健康管理支援活動の充実に取り組む。</li> </ul>

### 5 病院運営の重点実施事項

No.	重点実施事項		主な実行計画
	具体的実施事項	内容	
1	<b>診療機能の充実</b>		
	救急医療体制の維持	◇断らない救急の体制づくりの検討 ◇院内のトリアージ機能の充実	
	小児医療・周産期医療の確保	◇知多半島南部地域の周産期医療の維持 ◇助産師業務の拡大 ◇小児医療提供体制の維持	
	診療体制の整備	◇各科診療体制の検討 ◇初期研修医・専攻医の確保 ◇病床再編の検討・実施 ◇専門性の高い医療の提供(内視鏡検査、手術件数増加)	
	災害拠点病院の充実	◇知多半島南部地域全体の災害医療体制の充実(災害訓練や職員に対する研修) ◇DMATの活動が円滑にできるよう講習会参加など必要な支援提供	
	へき地医療拠点病院の充実	◇離島医療(篠島診療所)の維持 ◇へき地医療研修の継続	
	第二種感染症指定医療機関として感染症医療の充実	◇保健所・検疫所・地域の医療機関との連携強化 ◇患者搬送訓練や研究会開催 ◇感染防止対策の情報提供 ◇結核感染対策の整備 ◇患者や市民への啓発活動の実施	
	電子カルテの安定稼働	◇電子カルテ、部門システムの安定稼働 ◇遠隔画像診断の検討	
	チーム医療の推進	◇専門的ケアチームの充実 ◇治療業務の充実 ◇医師業務軽減の充実 ◇ペースメーカー遠隔モニタリングシステムの導入	
	リハビリテーションの充実	◇急性期・回復期・維持期リハビリテーションの充実 ◇短時間通所リハの検討	
	認知症患者への対応	◇認知症サポートチームの活用 ◇院内研修会の開催	
	相談支援機能の強化	◇効率的な薬剤管理指導 ◇服薬アドヒアランスの改善 ◇栄養指導の充実 ◇コメディカル外来の充実	
	在宅医療への支援	◇訪問診療の充実 ◇訪問看護ステーションの充実 ◇ICT電子@連絡帳活用の検討	
2	<b>医療の質・安全強化</b>		
	医療安全の充実	◇医療安全教育・研修の積極的な実施 ◇医療安全管理者養成 ◇薬剤師によるポリファーマシーの関わり強化 ◇ICTチーム活動の充実 ◇感染管理システムの活用 ◇医療機器安全使用の推進 ◇セーフティレポートシステムの活用	
	医療の質向上	◇クリニカルパス使用の推進・見直し・改善 ◇クリニカルインディケータ活用検討 ◇DWHを用いた診療情報の二次利用についての検討 ◇診療録点検の強化	

No.	重点実施事項	主な実行計画	
	具体的実施事項	内容	
3	地域との連携強化		
	地域連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域の医療機関・福祉施設と顔の見える関係の構築と連携強化を図るために医師・地域医療福祉連携部を中心とした定期的な訪問</li> <li>◇退院支援、在宅復帰支援体制の充実</li> <li>◇地域連携システム(ID-LINK)の活用を検討</li> <li>◇保険薬局との連携</li> </ul>	
	行政・医師会・JA・住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇美浜町・南知多町との定期協議の継続</li> <li>◇地元医師会との連携強化</li> <li>◇記念行事(55周年)の開催検討</li> <li>◇JAとの連携強化</li> <li>◇住民公開講座や多職種による講座等を開催し地域住民への情報発信</li> <li>◇アドバンス・ケア・プランニングの普及啓発</li> </ul>	
4	保健事業		
	JA組合員への健康管理活動の充実	◇JAポイントカードを活用したJA組合員への健康管理活動の拡大	
	健診事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇特定健診の充実、特定保健指導の充実</li> <li>◇オプション項目の充実</li> <li>◇人間ドック機能評価認定施設として質の維持</li> </ul>	
	保健事業活動の充実	◇健康講話・生活改善支援・母子支援活動の充実	
5	福祉・介護事業		
	福祉・介護事業の充実	◇介護医療院の検討	◇地域包括ケアシステムの推進
6	経営管理		
	経営の安定化に向けた取り組み強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇効率的な病床運営(病床再編後の効果的な病床運用)</li> <li>◇診療報酬、介護報酬改定への適切な対応</li> <li>◇診療圏拡大(武豊町)に向けた取り組み</li> <li>◇各部署の必要人員の精査及び要員管理の徹底</li> <li>◇計画的な医療機器の更新</li> <li>◇経費削減などコスト管理及び職員個々のコスト意識の醸成</li> <li>◇CT・MRI利用促進</li> <li>◇共同購入の実施</li> <li>◇試薬コストの削減</li> <li>◇医療機器適性台数の検証</li> <li>◇薬品在庫管理の強化</li> <li>◇DPCデータの経営管理への活用</li> </ul>	
	職場環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇職員のニーズを把握し職員にとって魅力ある職場づくり</li> <li>◇仕事と生活の調和を支援し離職防止・人材確保に取り組む</li> </ul>	
7	その他		
	教育研修機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇認定看護師の育成</li> <li>◇ナーシングスキルの活用</li> <li>◇学生実習(医師・看護・コメディカル)の受け入れによる地域医療を担う人材の育成</li> </ul>	
	患者サービス向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇職員の接遇の向上や患者・家族から意見などの迅速な把握</li> <li>◇改善につなげるシステム(ご意見箱、患者アンケート)の充実</li> </ul>	
	広報活動の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇当院の魅力をアピールする広報機能充実の検討</li> <li>◇診療科のPR</li> <li>◇ホームページのリニューアルの検討</li> </ul>	

# 統計資料

---

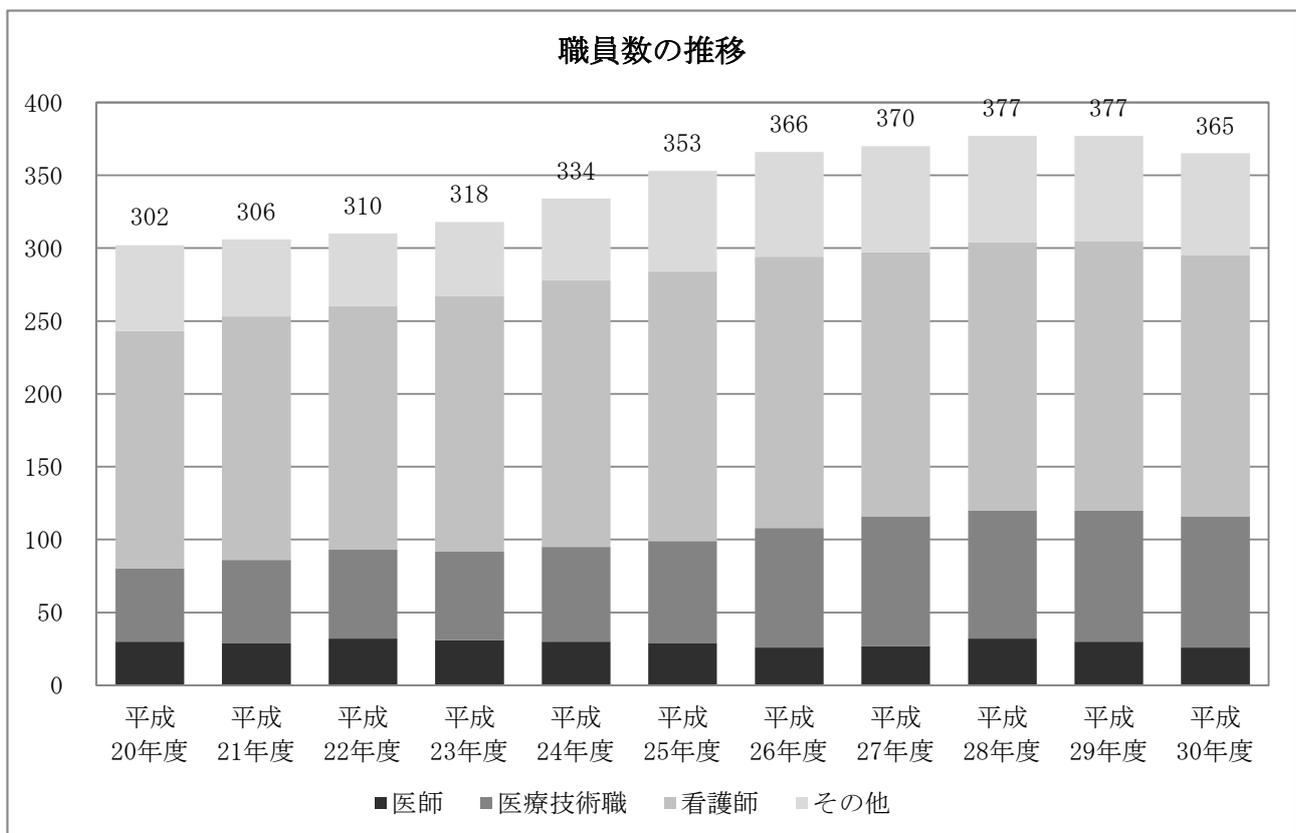
職員数の推移 .....	13
過去3か年の推移	
診療科別延べ患者数 .....	14
科別時間外患者取扱数 .....	15
市町村別時間外患者取扱数 .....	15
市町村別時間外患者 (救急車搬入件数) .....	15
診療科別在院延べ患者数 及び新入院患者数 .....	16
診療科別退院患者数 及び平均在院日数 .....	17



## ■ 職員数の推移

	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
医師	30	29	32	31	30	29	26	27	32	30	26
医療技術職	50	57	61	61	65	70	82	89	88	90	90
看護師	163	167	167	175	183	185	186	181	184	185	179
その他	59	53	50	51	56	69	72	73	73	72	70
総数	302	306	310	318	334	353	366	370	377	377	365

※ その他・・・事務職、技能職、作業職



## ■ 過去3か年の推移

### 1. 診療科別延べ患者数（医療＋介護）

年 度	28 年度		29 年度				30 年度			
	外来	入院	外来		入院		外来		入院	
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	47,502	26,562	46,851	98.6%	25,851	97.3%	43,422	92.7%	23,871	92.3%
小児科	10,625	275	10,363	97.5%	282	102.5%	9,207	88.8%	52	18.4%
外科	7,952	6,213	7,437	93.5%	5,004	80.5%	7,408	99.6%	5,598	111.9%
整形外科	28,327	10,371	27,816	98.2%	11,378	109.7%	25,469	91.6%	9,396	82.6%
脳神経外科	19,821	17,438	19,049	96.1%	17,533	100.5%	17,029	89.4%	15,885	90.6%
皮膚科	12,356	98	14,071	113.9%	165	168.4%	7,227	51.4%	3	1.8%
泌尿器科	8,253	680	8,049	97.5%	762	112.1%	7,702	95.7%	636	83.5%
産婦人科	4,919	808	4,824	98.1%	632	78.2%	4,609	95.5%	431	68.2%
眼科	10,980	1,281	10,237	93.2%	1,029	80.3%	9,405	91.9%	811	78.8%
耳鼻 いんこう科	14,432	896	14,555	100.9%	799	89.2%	13,650	93.8%	813	101.8%
篠島/ 療養介護	4,420	11,090	4,164	94.2%	11,502	103.7%	3,945	94.7%	13,206	114.8%
合 計	169,587	75,712	167,416	98.7%	74,937	99.0%	149,073	89.0%	70,702	94.3%
平均患者数 (病院のみ)	618.6	207.4	609.1	98.5%	205.3	99.0%	547.7	89.9%	193.704	94.3%
※診療日数 (病院)	267	365	268		365		265		365	

## 2. 科別時間外患者取扱数

年 度	平成28年度				平成29年度				平成30年度			
	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
診療科												
内科	2,403	98.2	380	81.2	2,291	95.3	375	98.7	2,202	96.1	260	69.3
小児科	1,194	87.9	7	350.0	1,082	90.6	5	71.4	751	69.4	0	0.0
外科	163	99.4	36	90.0	106	65.0	33	91.7	179	168.9	33	100.0
整形外科	843	91.2	65	86.7	808	95.8	83	127.7	667	82.5	60	72.3
脳神経外科	426	91.4	104	82.5	436	102.3	126	121.2	393	90.1	160	127.0
皮膚科	439	91.1	2	200.0	365	83.1	1	50.0	281	77.0	1	100.0
泌尿器科	214	109.2	3	50.0	198	92.5	1	33.3	167	84.3	4	400.0
産婦人科	70	98.6	42	100.0	49	70.0	36	85.7	40	81.6	4	11.1
眼科	77	64.7	0	0.0	81	105.2	0	0.0	25	30.9	0	0.0
耳鼻 いんこう科	452	86.8	9	450.0	362	80.1	14	155.6	234	64.6	14	100.0
合 計	6,281	93.1	648	85.0	5,778	92.0	674	104.0	4,939	85.5	536	79.5

## 3. 市町村別時間外患者取扱数

年 度	平成28年度				平成29年度				平成30年度			
	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
市町村名												
美浜町	2,990	93.1	257	89.9	2,714	90.8	253	98.4	2,283	84.1	183	72.3
南知多町	2,126	93.0	295	82.9	1,994	93.8	332	112.5	1,769	88.7	289	87.0
武豊町	394	95.9	28	70.0	353	89.6	37	132.1	341	96.6	28	75.7
半田市	98	91.6	7	50.0	89	90.8	5	71.4	79	88.8	9	180.0
常滑市	96	85.7	6	85.7	94	97.9	6	100.0	70	74.5	9	150.0
その他	577	93.4	55	94.8	534	92.5	41	74.5	397	74.3	18	43.9
合 計	6,281	93.1	648	85.2	5,778	92.0	674	104.0	4,939	85.5	536	79.5

## 4. 市町村別時間外患者（救急車搬入件数）

年 度	平成28年度				平成29年度				平成30年度			
	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
市町村名												
美浜町	222	107.8	132	95.0	211	95.0	130	98.5	172	81.5	100	76.9
南知多町	237	97.9	150	72.5	243	102.5	186	124.0	193	79.4	171	91.9
その他	225	110.3	52	71.2	194	86.2	41	78.8	142	73.2	37	90.2
合 計	684	104.9	334	79.7	648	94.7	357	106.9	507	78.2	308	86.3

5. 診療科別在院延べ患者数及び新入院患者数

	在院延患者数			新入院患者数		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
内科	23,476	22,605	21,628	1,557	1,414	1,153
小児科	205	198	27	69	82	25
外科	5,728	4,395	5,270	382	341	314
整形外科	10,095	11,026	9,117	286	306	268
脳神経外科	15,134	15,442	13,009	300	370	432
皮膚科	91	153	2	6	12	1
泌尿器科	645	684	605	35	27	27
産婦人科	704	549	376	101	80	55
眼科	1,041	823	589	238	206	222
耳鼻いんこう科	824	726	587	75	73	62
一般計	57,943	56,601	51,210	3,049	2,911	2,559
療養	14,713	15,401	16,832	53	38	30
感染	0	0	0	0	0	0
合計	72,656	72,002	68,042	3,102	2,949	2,589

## 6. 診療科別退院患者数及び平均在院日数

	退院患者数			平均在院日数		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
内科	1,505	1,351	1,149	15.3	16.4	18.8
小児科	70	84	25	3.0	2.4	1.1
外科	400	355	321	14.7	12.6	16.6
整形外科	266	284	280	36.6	37.4	33.3
脳神経外科	295	344	407	50.9	43.3	31.0
皮膚科	7	12	1	14.0	12.8	2.0
泌尿器科	33	28	26	19.0	24.9	22.8
産婦人科	103	83	55	6.9	6.7	6.8
眼科	240	206	222	4.4	4.0	2.7
耳鼻いんこう科	72	73	65	11.2	9.9	9.2
一般計	2,991	2,820	2,551	19.2	19.8	20.0
療養	118	110	92	171.4	208.1	275.9
感染	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合計	3,109	2,930	2,643	23.4	24.5	26.0



# 診療科別医療実績

---

内科	21
小児科	24
外科	25
整形外科	28
脳神経外科	30
皮膚科	32
泌尿器科	33
産婦人科	34
眼科	35
耳鼻いんこう科	37
麻酔科	39



## ■ 内 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
宮本 忠壽	名誉院長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会認定専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本医師会認定産業医 日本消化器病学会東海支部評議員 日本消化器内視鏡学会東海支部評議員	昭和 52 年
高橋 佳嗣	副院長兼感染制御部長兼内科代表部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医	昭和 62 年
丹村 敏則	副院長兼保健事業部長兼内分代謝科部長 日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本東洋医学会専門医・指導医 産業衛生学会専門医・指導医 日本プライマリケア連合学会認定医 日本人間ドック学会認定医・指導医 日本病態栄養学会 NST コーディネーター 労働衛生コンサルタント	昭和 57 年
冨本 茂裕	第2診療部長兼循環器内科部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本高血圧学会指導医	平成 2 年
今井 宗憲	消化器内科部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会認定消化器病専門医・胃腸科専門医	平成 15 年

	日本消化器内視鏡学会認定専門医 日本肝臓学会認定肝臓専門医 ※平成 30 年 5 月退職	
伊賀 登志峰	循環器内科医長 ※平成 31 年 3 月退職	平成 19 年
藤岡 一敏	消化器内科医長 一般内科	平成 23 年
西崎 章浩	一般内科 ※平成 30 年 7 月退職	平成 26 年
伊藤 謙	一般内科 ※平成 30 年 7 月退職	平成 27 年
中村 宜隆	一般内科 ※平成 30 年 9 月退職	平成 28 年

## 2. 専門外来・主な取り組み

神経内科（月曜日、金曜日）

呼吸器内科（月曜日、木曜日）

循環器内科（火曜日）

膠原病内科（水曜日）

血液内科（火曜日）

消化器・肝臓病（第 1・3 土曜日）

ペースメーカークリニック（第 1・3 土曜日）

## 3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	47,502	46,851	43,422
	一日平均患者数	177.9	174.8	164
入院	延べ患者数	26562	25851	23871
	一日平均患者数	72.8	70.8	65.4
	平均在院日数	15.3	16.4	18.8

## 4. 平成 30 年度クリニカルインディケータ (DPC データより)

## (1)入院症例トップ 3

傷病名	患者数
小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	168
肺炎等	127
心不全	81

## (2)手術症例トップ 3

傷病名	患者数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径 2cm 未満)	160
内視鏡的消化管止血術	15
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	11
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径 2cm 以上)	11

## ■ 小 児 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
安井 奈津子	小児アレルギー科医長 日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法 「専門」コース（Aコース）修了 小児科全般・アレルギー疾患	平成 20 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・慢性疾患（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、低身長、甲状腺疾患、夜尿症、てんかんなど）：月曜午後、木曜午後
- ・乳児健診：水曜午後
- ・1ヶ月健診：水曜午後
- ・予防接種：火曜午後・金曜午後

### 3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	10,625	10,363	9,207
	一日平均患者数	39.8	38.7	34.7
入院	延べ患者数	275	282	52
	一日平均患者数	0.8	0.8	0.1
	平均在院日数	3	2.4	1.1

### 4. 平成 30 年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

#### （1）入院症例トップ 3

傷病名	患者数
食物アレルギー	17
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	5
下垂体機能低下症	2

## ■ 外 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
村元 雅之	副院長 兼 第1診療部長 兼 外科代表部長 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本静脈経腸栄養学会認定医・評議員 愛知臨床外科学会評議員	昭和 61 年
保里 恵一	地域医療福祉連携部長 兼 乳腺外科部長 兼 篠島診療所長 日本外科学会専門医・指導医 日本乳癌学会専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 マンモグラフィ読影認定医 日本化学療法学会評議員 日本医師会産業医	昭和 56 年
杉戸 伸好	中央手術部長 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 日本がん治療認定医	平成 10 年
小森 徹也	内視鏡外科医長 日本外科学会専門医 ※平成 31 年 3 月退職	平成 19 年

2. 専門外来・主な取り組み

乳腺専門外来      栄養サポート外来      褥瘡外来      血管外科  
 腹腔鏡手術      内痔核手術      化学療法

3. 診療実績

(1) 基本指標

(単位：人、日)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	7,952	7,743	7,408
	一日平均患者数	29.8	28.9	28
入院	延べ患者数	6213	5004	5598
	一日平均患者数	17	13.7	15.3
	平均在院日数	14.7	12.6	16.6
手術	全手術件数	293	300	
	全身麻酔	210	229	
	胃癌（うち腹腔鏡下手術）	15(2)	15(3)	
	大腸癌（うち腹腔鏡下手術）	43(32)	35(30)	
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	38	32	
	肝切除術	5	12	
	膵切除術	4	1	

4. 平成 30 年度クリニカルインディケーター（DPC データより）

(1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
胃の悪性腫瘍	34
鼠径ヘルニア	28
胆嚢疾患(胆嚢結石など)	28

## (2) 手術症例トップ3

傷病名	患者数
腹腔鏡下胆嚢摘出術	31
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	25
腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	6
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	6
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	5

## 5. その他

## (1) 手術件数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
全手術件数	323	281	260	263	290	293	300	253
全身麻酔	180	197	190	187	220	210	229	191
胃癌(うち腹腔鏡下手術)	16(1)	9(0)	12(4)	14(9)	11(1)	15(2)	15(3)	11(3)
大腸癌(うち腹腔鏡下手術)	31(7)	36(18)	34(18)	26(21)	48(41)	43(32)	35(30)	27(18)
腹腔鏡下胆嚢摘出術	14	31	28	24	34	38	32	43
肝切除術(うち腹腔鏡下手術)	5	3	6	10	11	5	12	8(1)
膵切除術	7	2	4	4	4	4	1	6
乳癌手術	25	22	19	19	21	23	20	13

## (2) 施設認定

- 平成14年1月～ 日本外科学会外科専門医制度数連施設(指定施設)
- 平成15年～ 第1回日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設、教育施設
- 平成23年11月～ 日本静脈経腸栄養学会 NST 委員会 NST 稼働施設
- 平成24年1月～ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設(認定施設)

## ■ 整 形 外 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
脇田 郷	副院長兼医療安全管理部長兼整形外科代表部長 日本整形外科学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 日本リウマチ財団登録医	昭和 56 年
服部 一希	リハビリテーション科部長 日本整形外科学会専門医 ※平成 30 年 12 月退職	平成 15 年
大口 怜央	リハビリテーション科医長 骨粗鬆症学会認定医 日本整形外科学会専門医 ※平成 30 年 6 月退職	平成 17 年
岡本 康義	整形外科医長 日本整形外科学会専門医	平成 20 年
酒井 貴央	一般整形外科 ※平成 31 年 3 月退職	平成 27 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・リウマチ科（毎週火曜日）

### 3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	28,327	27,816	25,469
	一日平均患者数	106.1	103.8	96.1
入院	延べ患者数	10,371	11,378	9,396
	一日平均患者数	28.4	31.2	25.7
	平均在院日数	36.6	37.4	33.3
手術件数		232	234	219

## 4. 平成 30 年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

## (1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
股関節・大腿近位の骨折	90
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)	34
前腕の骨折	13
膝関節症(変形性を含む)	13

## (2) 手術症例トップ 3

手術名	症例数
骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	43
骨折観血的手術(前腕、下腿、手舟状骨)	22
人工骨頭挿入術(肩、股)	20

## ■ 脳 神 経 外 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
水野 志朗	副院長兼臨床研修部部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 脳神経血管内治療専門医	昭和 56 年
福島 庸行	診療協同部長兼脳神経外科代表部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医	昭和 60 年
大島 望	脳神経外科医長	平成 20 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

脳血管障害一般・神経外傷・認知症への対応

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	19,821	19,049	17,029
	一日平均患者数	74.2	71.1	64.3
入院	延べ患者数	17,438	17,533	15,885
	一日平均患者数	47.8	48	43.5
	平均在院日数	50.9	43.3	31
手術件数		38	41	28

### 4. 平成 30 年度クリニカルインディケータ (DPC データより)

#### (1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
脳梗塞	143
頭蓋・頭蓋内損傷	71
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	30

## (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭)、穿孔洗浄術	13
頭蓋内血腫除去術(開頭)(硬膜下)	4
経皮的頸動脈ステント留置術	4

## ■ 皮膚科

### 1. 診療体制

平成30年4月より常勤医師不在となり、非常勤医師による外来診療のみ実施。

外来診察日：月・水・金・土（第1・3週）

※完全予約制

### 2. 診療実績

（単位：人、日）

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
外来	延べ患者数	12,356	14,071	7,227
	一日平均患者数	46.3	52.5	27.3
入院	延べ患者数	98	165	—
	一日平均患者数	0.3	0.5	—
	平均在院日数	14.0	12.8	—

## ■ 泌尿器科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
本間 秀樹	泌尿器科代表部長 日本泌尿器科学会専門医	平成1年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・内視鏡手術の実施

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
外来	延べ患者数	8,253	8,049	7,702
	一日平均患者数	30.9	30	29.1
入院	延べ患者数	680	758	636
	一日平均患者数	1.9	2.1	1.7
	平均在院日数	19	24.8	22.6

### 4. 平成30年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

#### (1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
膀胱腫瘍	10
前立腺の悪性腫瘍	9
男性生殖器疾患	4
腎臓または尿路の感染症	4

#### (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他)	9
経尿道的尿管ステント留置術	3

## ■ 産婦人科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
菱田 克己	産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医	昭和 48 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・産科（自然分娩のみ受け入れ）
- ・婦人科（不妊症・更年期障害・子宮内膜症など）

### 3. 診療実績

（単位：人、日、件）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	4,824	4,919	4,609
	一日平均患者数	18	18.4	17.4
入院	延べ患者数	632	808	431
	一日平均患者数	1.7	2.2	1.2
	平均在院日数	6.8	6.9	6.8
分娩件数		68	55	40

### 4. 平成 30 年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

#### （1）入院症例トップ 3

傷病名	患者数
分娩の異常	11
流産	4
早産、切迫早産	4

#### （2）手術症例トップ 3

手術名	症例数
子宮内容除去術（不全流産）	5
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	2
吸引娩出術	2

## ■ 眼 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
加藤 房枝	眼科医長 日本眼科学会専門医	平成 20 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・白内障手術

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	10,980	10,237	9,405
	一日平均患者数	41.1	38.2	35.5
入院	延べ患者数	1,281	1,029	811
	一日平均患者数	3.5	2.8	2.2
	平均在院日数	4.4	4	2.7
白内障手術件数				

### 4. 平成 30 年度臨床インディケータ (DPC データより)

#### (1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
白内障、水晶体の疾患	212
硝子体疾患	5
脈絡膜の疾患	2

#### (2) 手術症例トップ 3

手術名	症例数
水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	207
硝子体切除術, 水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	4
硝子体注入・吸引術	2
硝子体切除術, 水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない)	2

## 5. その他

- ・常勤医師の育児休暇に伴い、平成31年1月より外来を非常勤医師にて実施。  
(完全予約制)

## ■ 耳鼻いんこう科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
小森 克彦	耳鼻いんこう科代表部長 耳鼻いんこう科一般・頭頸部腫瘍・補聴器 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医	平成 5 年
油井 健宏	耳鼻いんこう科医長 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医	平成 19 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

慢性疾患外来（アレルギー性鼻炎・滲出性中耳炎など）： 火曜日・木曜日の午後  
難聴・補聴器外来： 火曜日の午前

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	延べ患者数	14,432	14,555	13,650
	一日平均患者数	54.1	54.3	51.5
入院	延べ患者数	896	799	813
	一日平均患者数	2.5	2.2	2.2
	平均在院日数	11.2	10	9.2

### 4. 平成 30 年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

#### (1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
前庭機能障害	23
睡眠時無呼吸	11
扁桃、アデノイドの慢性疾患	7

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
口蓋扁桃手術(摘出), アデノイド切除術	5
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	4
口蓋扁桃手術(摘出)	2
甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術(片葉のみ)	2

## ■ 麻 酔 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
成宮なつみ	麻酔科部長代理 日本麻酔科学会専門医	平成 19 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・麻酔科診察
- ・救急ファーストタッチ

### 3. 診療実績

(単位：件)

項目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
麻酔管理料 1 (脊椎麻酔を行った場合または硬膜外麻酔を行った場合)	6	11	7
麻酔管理料 1 (マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔を行った場合)	82	175	226



# 部署別業務実績

---

## 【診療協同部】

- 放射線技術科 ..... 43
- 臨床検査技術科 ..... 48
- リハビリテーション技術科 ..... 52
- 臨床工学技術科 ..... 54
- 栄養科 ..... 60

【薬剤部】 ..... 62

【看護部】 ..... 65

【医療安全管理部】 ..... 71

【感染制御部】 ..... 74

【事務部】 ..... 76

【医療情報部】 ..... 84

【保健事業部】 ..... 85

【地域医療福祉連携部】 ..... 87



## ■ 診療協同部（放射線技術科）

### 1. 部署目標

- ・デジタル X 線撮影システムの円滑な更新
- ・個々の資質向上と教育研修体制の充実
- ・機器管理の充実による安全な医療環境の提供
- ・経営安定化への参画
- ・良質な医療の提供

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 『デジタル X 線撮影システムの円滑な更新』について

- ・採用メーカーの選定後にデジタル X 線撮影システム更新の工程表が作成され、この工程に基づき必要な準備を行った。更新前の装置の設定を基に、新しいシステムの設定を行った。更新後の運用を想定した機器レイアウトや撮影条件などは、診療放射線技師全員が関与して行い、ほぼ希望通りのものとなった。

新しいシステムを導入したことにより、長尺撮影が可能となり全脊柱、下肢全長の撮影が可能となった。更にこのシステムの機能により、検査によっては20%、全体でも10%程度の被曝低減が実現できた。

#### (2) 「各自が企画した放射線技術科勉強会の継続的な実施」について

- ・11月を除き毎月、放射線技術科勉強会を開催した。この11回のうちの6回は診療放射線技師が講師で行う勉強会を開くことができ、スライド作成から発表方法までを各自で行うことにより全体のスキルアップにつながっている。今後も継続して取り組んでいきたいと考える。

#### (3) 「認定技師取得・学会発表の推進」について

- ・新しい認定資格である「画像等手術支援認定診療放射線技師」の第1回の認定試験を受験し2名が取得できた。さらに別の技師により、放射線管理士と放射線機器管理士の認定を取得できた。

#### (4) 「有給休暇の取得アップと、時間外勤務の平均化」について

- ・放射線技師の有給休暇の取得状況は年間平均で10.8日となっており、年間取得目標の10日が達成された。時間外勤務は、一般撮影装置更新時の担当者は増加したがそれ以外の時間外勤務は平均化されている。今後もよりよい職場作りのために環境整備に努めていきたいと考える。

(5) 他部署との連携強化

- ・ 9月より30分の早出を行い、健診業務の混雑解消、円滑な受診者の流れを作るため、従来の胸部X線撮影に加え 視力、血圧、体組成検査に協力している。

3. 業務実績

(1) 検査件数

平成30年度 放射線技術科 検査件数

全検査数

項目	平成30年度合計	平成29年度合計	前年度比較
一般撮影	23,684	25,967	91.2%
マンモ	1,508	1,585	95.1%
TV検査	3,408	3,546	96.1%
血管検査	37	61	60.7%
CT検査	7,502	8,522	88.0%
MRI検査	4,620	5,120	90.2%
骨塩定量	760	883	86.1%
画像処理	1,444	1,610	89.7%
術中透視	7	11	63.6%
合計	42,970	47,305	90.8%

健診検査件数

項目	平成30年度合計	平成29年度合計	前年度比較
胸部	2,897	2,758	105.0%
マンモ	948	1,031	91.9%
胃透視	1,232	1,100	112.0%
胃内視鏡	974	985	98.9%
CT検査	250	299	83.6%
MRI検査	478	525	91.0%
骨塩定量	175	237	73.8%
合計	5,980	5,950	100.5%

健診合計件数には胃内視鏡件数は含まず

#### 4. その他

##### (1) 人員体制について（平成31年3月31日現在）

診療放射線技師	9名（女性2名、男性7名（1名は健診専属））
放射線（1Bブロック）看護師	4名
SPD（午前）	1名
受付事務員（1Bブロック）	2名（午後1名）

(2) 画像診断関連機器一覧

撮影室	室番号	装置名(用途)	機種名	メーカー	取得年月日
一般撮影室6	6	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE1:立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE2:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE7:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE10:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PRIMA(カセッテリーダー)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オコパトセフメディカル	2018/10/15
一般撮影室7	7	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE3立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE4:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE8:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE11:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オコパトセフメディカル	2018/10/15
		マンモ・骨塩定量撮影室8	8	撮影装置	MAMMOMAT1000
画像処理装置	Console Advance			富士フイルムメディカル	2018/10/15
CR読取装置	FCR PROPECT CS(カセッテリーダー)			富士フイルムメディカル	2018/10/15
8	撮影装置		Dichroma Scan DCS-600EXV	日立アロカ	2009/7/30
健康管理支援センター(胸部撮影)		撮影装置	RADIOTEX CH-200	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE5)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オコパトセフメディカル	2018/9/25
病棟用		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2010/6/1
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE9:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE12:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
手術室		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2011/4/10
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE6)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		OPE用透視装置	SIREMOBIL Compact L	シーメンス	2007/8/10

撮影室	室番号	装置名(用途)	機種名	メーカー	取得年月日
TV室2	2	撮影装置	ZEXIRA II Version (I.I.)	キヤノン	2009/7/30
		撮影制御装置	ADR-1000A	キヤノン	2009/7/30
TV室9	9	撮影装置	ZEXIRA FPD Version (F.P.D.)	キヤノン	2009/7/30
		撮影制御装置	HDR-1000A	キヤノン	2009/7/30
CT室	5	撮影装置	TSX-101A Aquillion64	キヤノン	2007/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION610	アミン	2007/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2Crassic	アミン	2012/7/21
		テラステーション	TerastationPro	パップアロー	2009/7/7
		Xe-CT測定装置	コールドキセノンガス吸入装置AZ-725N	安西	1996/11/10
MRI室	4	撮影装置	Ingenial.5T	フィリップス	2015/9/25
		ワークステーション	バーチャルプレイス風神RM-01123791	AZE	2015/9/25
		生体情報モニタ	Invivo Essentil	コニカミノルタ	2015/9/25
血管撮影室	3	撮影装置	AXIOM Artis dTA	シーメンス	2009/7/30
		ポリグラフ	RMC-4000M	日本光電	2008/8/4
		ワークステーション	LEONARDO	シーメンス	2009/7/30
一般撮影 操作室		film読み取り装置	AOC Scan1.5	アレイ	2017/3/21
		ドライイメージャー	DRY PIX EDGE	富士フイルムメディカル	2018/9/18
		画像検像装置	iRad-QA	インフォコム	2017/3/21
倉庫		携帯型X線撮影装置	PHT-1003 2011/12/1より故障中	日立	2002/2/1
篠島診療所		診断用X線装置	エクシープロMバック	島津	2011/11/1
		読み取り装置	REJIUS 190 (カセットリーダー)	コニカミノルタ	2007/12/1
		現像機	ドライイメージャー	コニカミノルタ	2007/12/2

## ■ 診療協同部（臨床検査技術科）

### 1. 部署目標

- ・業務改善により作業の効率化とコスト削減行なう。
- ・チーム医療への貢献（感染制御部・医療安全・糖尿病委員会・輸血療法委員会等）
- ・人材育成を充実し、質の高い検査報告を目指す。
- ・検査精度の向上
- ・医療安全の充実

### 2. 活動内容と評価

#### （1）コスト削減について

- ・厚生連技師長会主導による厚生連統一価格の設定により当院においても試薬、材料費の削減ができたが、昨年度は医師不足による検体数の減少から、大きな効果が見られなかった。

#### （2）チーム医療への貢献について

- ・糖尿病療養指導をはじめ、NST、ICT ラウンドなどのチーム医療にも積極的に参加できた。輸血療法委員会では輸血管理料の継続的な取得のために、アルブミン製剤の濃度を下げることで成果を上げた。また輸血拒否患者に対する対応マニュアルの改訂にも取り組んだ。次年度はさらに DST 活動にも参加予定である。

#### （3）人材育成の充実について

- ・少人数で全ての部門を運営していくにはどうしても複数部署の兼務が必要となる。昨年は1人2部門担当の実践を目指してトレーニングを積み重ね、多くのスタッフが目標を達成できた。

#### （4）検査精度の向上について

- ・3つの外部精度管理事業に参加し、良好な結果を得た。その他にもメーカーが主催するミニサーベイ等にも積極的に参加できた。

#### （5）医療安全の充実

- ・まずはレポート報告しやすい職場環境作りと、迅速なカンファレンスを心掛けたが、一部同様な事例の繰り返しがみられた。次年度は繰り返し事例の再発防止に努めた。

## 3. 業務実績

稼動件数		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
一般検査	尿	51,072	108.3	39,368	77.1	38,744	98.4
	便	4,323	105.1	4,243	98.1	4,424	104.3
	体液	488	151.6	488	100.0	429	87.9
血液検査	血液	118,566	100.4	118,162	99.7	111,052	94.0
輸血検査	輸血	3,011	109.6	2,716	90.2	2,453	90.3
臨床化学	化学1	836,899	101.1	858,531	102.6	809,202	94.3
	化学2	32,295	104.2	33,502	103.7	33,489	100.0
	血液ガス	1,000	112.1	754	75.4	588	78.0
	負荷試験	36	59.0	27	75.0	9	33.3
微生物検査	一般細菌	11,177	97.2	11,240	100.6	9,873	87.8
	微生物核酸検査	0		0	--	0	--
	その他	688	100.7	702	102.0	743	105.8
免疫検査	免疫	52,747	100.0	54,547	103.4	50,465	92.5
病理	病理組織	1,825	90.6	1,726	94.6	1,327	76.9
	細胞診	2,953	96.7	2,956	100.1	2,813	95.2
生理検査	肺機能	3,912	104.9	4,040	103.3	4,092	101.3
	心電図	7,965	103.3	9,062	113.8	8,590	94.8
	超音波	4,994	105.8	5,229	104.7	4,889	93.5
	脳波	181	100.0	146	80.7	127	87.0
	その他	3,609	105.1	3,734	103.5	3,750	100.4
その他	病理解剖	1	50.0	1	100.0	0	0.0
	採血	30,739	99.8	31,165	101.4	29,025	93.1
	輸血製剤管理	1,520	126.7	1,178	77.5	1,010	85.7
	その他(DM指導等)	145	117.9	208	143.4	265	127.4
<b>稼働件数合計</b>		<b>1,170,146</b>	<b>101.4</b>	<b>1,183,725</b>	<b>101.2</b>	<b>1,117,359</b>	<b>94.4</b>

稼働点数		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
一般検査	尿	1,714,150	105.9	1,410,925	82.3	1,385,359	98.2
	便	163,605	105.2	159,724	97.6	165,907	103.9
	体液	5,349	155.9	7,020	131.2	6,062	86.4
血液検査	血液	3,080,986	102.4	2,985,171	96.9	2,807,192	94.0
輸血検査	輸血	167,097	115.4	140,802	84.3	140,809	100.0
臨床化学	化学1	10,944,452	99.8	11,119,040	101.6	10,334,978	92.9
	化学2	4,486,081	102.1	4,621,415	103.0	4,509,504	97.6
	血液ガス	146,130	112.2	108,576	74.3	82,320	75.8
	負荷試験	7,200	59.0	5,400	75.0	1,800	33.3
微生物検査	一般細菌	1,329,912	103.9	1,300,382	97.8	1,105,082	85.0
	微生物核酸検査	0	--	0	--	0	--
	その他	0	--	0	--	0	--
免疫検査	免疫	2,862,553	100.3	3,045,678	106.4	2,828,538	92.9
病理	病理組織	1,939,520	96.1	1,771,810	91.4	1,377,540	77.7
	細胞診	476,390	96.2	474,920	99.7	450,670	94.9
生理検査	肺機能	371,640	104.9	383,800	103.3	388,740	101.3
	心電図	1,223,720	105.5	1,454,420	118.9	1,416,950	97.4
	超音波	2,406,350	106.7	2,515,790	104.5	2,350,160	93.4
	脳波	133,420	104.4	103,740	77.8	116,186	112.0
	その他	594,620	105.0	604,860	101.7	599,490	99.1
その他	病理解剖	25,000	50.0	25,000	100.0	0	0.0
	採血	768,475	124.7	779,125	101.4	870,750	111.8
	輸血製剤管理	0	--	0	--	0	--
	その他(CGM)	0	--	89,600	--	138,600	154.7
<b>稼働点数合計</b>		<b>32,846,650</b>	<b>102.0</b>	<b>33,107,198</b>	<b>100.8</b>	<b>31,076,637</b>	<b>93.9</b>

判断料 件数		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	10,204	100.0	10,174	99.7	10,008	98.4
	血液学的検査	30,245	99.2	30,801	101.8	28,864	93.7
	生化学的検査（Ⅰ）	29,853	99.3	30,513	102.2	28,660	93.9
	生化学的検査（Ⅱ）	9,919	99.7	10,530	106.2	10,110	96.0
	免疫学的検査	14,989	97.4	16,211	108.2	15,147	93.4
	微生物学的検査	3,057	81.5	3,644	119.2	2,320	63.7
	病理学的検査	2,019	88.3	1,037	51.4	997	96.1
	呼吸機能検査	323	102.2	317	98.1	305	96.2
	脳波検査	117	90.7	92	78.6	87	94.6
	神経・筋検査	37	105.7	52	140.5	34	65.4
<b>検査判断総件数</b>		<b>100,763</b>	<b>98.2</b>	<b>103,371</b>	<b>102.6</b>	<b>96,532</b>	<b>93.4</b>

その他加算 件数		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
病理診断料		870	77.7	1,267	145.6	1,163	91.8
細胞診診断料				504		499	99.0
検体検査管理加算Ⅰ		38,871	98.1	39,742	102.2	36,815	92.6
検体検査管理加算Ⅱ		289	79.0	314	108.7	328	104.5
パルスドプラ法加算		97	140.6	133	137.1	101	75.9
乳幼児加算		72	64.9	86	119.4	90	104.7
時間外緊急院内検査加算		1,594	94.9	1,654	103.8	1,724	104.2
生化学入院時初回加算		101	78.9	120	118.8	152	126.7
外来迅速加算		34,965	99.2	35,262	100.8	34,496	97.8
輸血管理料Ⅰ		277	118.9	279	100.7	223	79.9
輸血適正使用加算Ⅰ		277	118.9	279	100.7	223	79.9
<b>合計 件数</b>		<b>77,413</b>	<b>98.2</b>	<b>79,640</b>	<b>102.9</b>	<b>75,814</b>	<b>95.2</b>

判断料 点数		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	346,936	100.0	345,916	99.7	340,272	98.4
	血液学的検査	3,780,625	99.2	3,850,125	101.8	3,608,000	93.7
	生化学的検査（Ⅰ）	4,298,832	99.3	4,393,872	102.2	4,127,040	93.9
	生化学的検査（Ⅱ）	1,428,336	99.7	1,516,320	106.2	1,455,840	96.0
	免疫学的検査	2,158,416	97.4	2,334,384	108.2	2,181,168	93.4
	微生物学的検査	458,550	81.5	546,600	119.2	348,000	63.7
	病理学的検査	302,850	88.3	155,550	51.4	149,550	96.1
	呼吸機能検査	45,220	102.2	44,380	98.1	42,700	96.2
	脳波検査	21,060	90.7	16,560	78.6	15,660	94.6
	神経・筋検査	6,660	105.7	9,360	140.5	6,120	65.4
<b>検査判断総点数</b>		<b>12,847,485</b>	<b>98.0</b>	<b>13,213,067</b>	<b>102.8</b>	<b>12,274,350</b>	<b>92.9</b>

その他加算 点数	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
病理診断料	400,950	89.6	570,150	142.2	523,350	91.8
細胞診診断料			100,800		99,800	99.0
検体検査管理加算Ⅰ	1,546,200	97.6	1,589,680	102.8	1,472,600	92.6
検体検査管理加算Ⅱ	144,000	78.7	31,400	21.8	32,800	104.5
パルスドプラ法加算	19,800	143.5	26,600	134.3	20,200	75.9
乳幼児加算	1,050	100.0	1,204	114.7	2,250	186.9
時間外緊急院内検査加算	318,800	172.5	330,800	103.8	344,800	104.2
生化学入院時初回加算	1,940	75.8	2,400	123.7	3,040	126.7
外来迅速加算	1,549,570	99.3	1,532,270	98.9	1,496,640	97.7
輸血管理料Ⅱ	60,060	111.4	61,380	102.2	49,060	79.9
輸血適正使用加算	32,760	111.4	33,480	102.2	26,760	79.9
<b>合計 点数</b>	<b>4,075,130</b>	<b>100.3</b>	<b>4,280,164</b>	<b>105.0</b>	<b>4,071,300</b>	<b>95.1</b>

検査委託		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
委託件数	保険収載件数	16,370	116.6	17,931	109.5	15,072	84.1
	未保険収載件数	914	114.5	792	86.7	503	63.5
	管理料件数	0		0		0	
<b>総件数</b>		<b>17,284</b>	<b>116.5</b>	<b>18,723</b>	<b>108.3</b>	<b>15,575</b>	<b>83.2</b>
委託支払額	保険項目支払小計	15,476,098	107.5	16,395,303	105.9	15,164,245	92.5
	未保険項目支払計	1,952,666	79.5	2,236,431	114.5	1,184,693	53.0
	管理料支払計	0		0		0	--
<b>総支払い額</b>		<b>17,428,764</b>	<b>103.4</b>	<b>18,631,734</b>	<b>106.9</b>	<b>16,348,938</b>	<b>87.7</b>
委託検査収入	総保険点数請求額	33,103,470	112.9	37,805,370	114.2	32,417,680	85.7
	利益差	15,674,706	125.7	19,173,636	122.3	16,068,742	83.8
消費額	薬品費	65,258,321	95.6	63,115,109	96.7	57,638,500	91.3
	医療材料費	4,919,558	106.4	4,991,067	101.5	5,345,082	107.1
<b>薬品費材料費合計</b>		<b>70,177,879</b>	<b>96.2</b>	<b>68,106,176</b>	<b>97.0</b>	<b>62,983,582</b>	<b>92.5</b>

## ■ 診療協同部（リハビリテーション技術科）

### 1. 部署目標

- ・地域包括ケアシステムの強化
- ・各チーム力の強化

### 2. 活動内容と評価

中期計画では、「急性期から慢性期リハビリの充実」と「短時間通所リハの検討」が挙げられているなか、特に診療報酬改定による「要介護者等の維持期・生活期リハビリ」の介護保険への移行を受けて、その対応の検討が喫緊の課題であった。

病棟再編による地域包括ケア病棟の病床数減少に伴う、リハビリ対象患者数の変化等を受けながら、期首の部署目標に沿って以下の事柄について活動を行った。

- (1) 外来機能の再構築と短時間通所リハビリの検討(診療報酬改定への対応)について
  - ・外来患者の実態調査、施設基準と他施設運用状況の把握、開設の起案を経て次年度より開設することとなった。
- (2) 訪問リハビリテーション開設の検討(需要増加等への対応)について
  - ・検討の結果、本年度中の立ち上げは見送り、非常勤登録職員の変更とシフトの見直しにより対応枠の増加と、専従者不在時の応援体制の強化を図った。
- (3) 各チーム力の強化について
  - ・地域包括ケア病棟でのマネジメント、コーディネート推進について、病棟担当者による毎月の改善会議、環境整備やケースカンファ等への参画を継続している。
  - ・内科チーム、外科チームで人員の変更と診療パスの運用定着については、欠員発生により、変更は見合わせ、内科チーム内での「がんのリハビリ」のガイドライン編集などを継続した。
  - ・各種学会の認定資格取得の奨励について、1名が日本理学療法士協会「運動器認定理学療法士」の認定を取得した。
  - ・医師、看護部の協力をいただき、当科職員4名が「がん患者リハビリテーション研修」を修了して、診療報酬の算定が可能となった。
  - ・学会発表、院外での症例報告では各種学会・症例検討会で4題の発表がなされた。
- (4) 地域包括ケアシステム推進への参画について
  - ・美浜町、南知多町等の要請により「地域ケア会議」「介護予防リーダー養成講座」「介護予防地域ケア個別会議」等に職員派遣を実施した。

## 3. リハビリテーション技術科 業務実績

			理学療法	作業療法	言語聴覚療法	
実施単位数	外来	12,063	単位	6,433	3,258	2,372
	前年	13,673		7,282	3,860	2,531
	対前年比	88%		88%	84%	94%
	入院	81,691	単位	49,525	26,720	5,446
	前年	91,489		53,895	27,894	9,700
	対前年比	89%		92%	96%	56%
	摂食機能療法	1,406	回			1,406
	前年	1,576				1,576
	対前年比	89%				89%
	計	95,160	単位	55,958	29,978	9,224
前年	106,738	61,177		31,754	13,807	
対前年比	89%	91%		94%	67%	

		新患者数	延べ患者数	総単位数	実施単位/患者
患者数 と 実施単位数	外来	315	8,803	12,063	1.37
	前年	575	9,970	13,673	1.37
	対前年比	55%	88%	88%	1.00
	入院	1,482	43,414	81,691	1.88
	前年	1,626	48,435	91,489	1.89
	対前年比	91%	90%	89%	1.00
	計	1,797	52,217	93,754	1.80
	前年	2,201	58,405	105,162	1.80
対前年比	82%	89%	89%	1.00	

リハ料別	計	外来		理学療法	作業療法	言語聴覚療法
		入院				
脳血管	33,975	6,710		1,733	2,605	2,372
		27,265		12,583	11,100	3,582
廃用	18,136	15		15	0	0
		18,121		12,437	4,536	1,148
運動器	26,898	5,338		4,685	653	0
		21,560		13,826	7,734	0
呼吸器	8,184	0		0	0	0
		8,184		6,290	1,894	0
がんリハ	1,815	1,815		1,597	205	13
介護(療養)	4,746	4,746		2,792	1,251	703
摂食機能	1,406	1,406				1,406
合計	95,160			55,958	29,978	9,224

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法
訪問リハ件数		1,485	449	0
前年実数		1,418	432	0

## ■ 診療協同部（臨床工学技術科）

### 1. 部署目標

- ・医療機器の保守・点検・管理を計画的に実施し、安全に医療機器が使用できる環境を整える
- ・医療機器の取り扱い方法、トラブル対応方法など医療機器の安全使用に係る勉強会を定期的に開催し医療安全の向上を図る
- ・医療機器や医療材料の管理・運用方法を検討し、適正台数・適正在庫数・業務の効率化・コスト削減を図る
- ・医師・看護師・他職種との連携を図り、臨床支援業務を実施し、安全で円滑な医療を行う
- ・部署内での臨床支援業務の勉強会を定期開催し、臨床工学技士の知識と技術の向上を図る

### 2. 活動内容と評価

#### （1）医療機器の保守・点検・管理について

- ・臨床工学技士による定期点検実施医療機器は、人工呼吸器 4 台、除細動器 7 台、電気メス 12 台、低圧持続吸引器 8 台、自動血圧計 2 台、MRI 対応パルスオキシメータ 2 台、AED13 台の合計 48 台実施した。また、メーカー依頼定期点検実施医療機器は、IABP1 台、人工呼吸器 6 台、麻酔器 4 台、血液浄化装置 2 台、閉鎖式保育器 3 台、輸液ポンプリース契約 54 台、シリンジポンプリース契約 30 台、ポリグラフ 1 台の合計 101 台予定通り実施した。

#### （2）医療機器の安全使用に係る勉強会の実施について

- ・医療機器の安全使用に係る勉強会は、合計 43 回実施した。

詳細については以下の通りである。

<臨床工学技術科主催勉強会>

NPPV 関連×7 回、経管経腸栄養ポンプ×9 回、人工呼吸器関連×3 回  
輸液ポンプ×8 回

<臨床工学技士講師勉強会>

輸液ポンプ・シリンジポンプ×1 回、除細動器×2 回、ペースメーカー×1 回  
新人看護師研修会×1 回、低圧持続吸引器×2 回、医療安全全体研修会×2 回  
閉鎖式保育器×2 回、人工呼吸器関連×4 回、麻酔器×1 回

(3) 医療機器・医療材料について

- ・医療機器の適正台数について、今年度は経管経腸栄養ポンプの更新があり、日常業務として医療機器の稼働状況を管理しており、その結果、保有台数を30台から15台へと減少させることができた。今後も、人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプの稼働状況を管理し適正台数について検討を続ける。

(4) 医師・看護師・他職種との連携を図った臨床支援業務について

- ・循環器関連では心臓カテーテル検査8件、PCI1件、ペースメーカ植込み・交換4件、体外式ペースメーカ3件、ペースメーカチェック（遠隔モニタリング含む）282件を実施した。
- ・血液浄化療法関連では、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）8日間、胸水腹水濾過濃縮再静注療法（CART）7件を実施した。

(5) 部署内での勉強会を開催し、臨床工学技士の知識と技術の向上を図る

- ・今年度は実施できなかったため、来年度は、定期的を開催するよう検討する。

### 3. 業務実績

#### (1) 臨床工学技術科 年度別業務件数 (平成21年度～平成30年度)

##### 心臓カテーテル関連業務

業務分類	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
CAG	36	26	17	21	17	8	13	15	8	7
PCI	0	14	3	0	3	2	0	5	7	1
EPS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

##### ペースメーカー関連業務

業務分類	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ペースメーカーチェック	108	162	159	138	133	149	153	157	166	282
ペースメーカー新規	4	7	6	7	9	3	5	9	4	3
ペースメーカー交換	3	5	3	2	5	3	1	5	4	1
ペースメーカー体外式	5	3	5	4	4	3	1	4	1	3
ペースメーカー生活指導	0	11	9	9	13	4	5	9	8	2

##### 血液浄化療法関連業務

業務分類	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
GCAP	25	22	30	85	32	7	5	0	6	0
LCAP	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0
エンドトキシン吸着	8	15	12	0	2	4	4	0	1	0
CART(胸水・腹水濾過濃縮)	22	13	50	21	13	1	16	4	19	7
CHDF(日数)	1	0	17	3	7	7	11	10	0	8
HD・HF・HDF	4	26	0	0	0	9	11	23	0	0
PE(血漿交換)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0

##### 手術協働関連業務

業務分類	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
経皮的ラジオ波焼灼療法	16	15	5	6	8	10	11	5	4	2
手術立ち会い							151	168	147	12
セルセーバー(自己血回収装置)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

##### 人工呼吸器関連業務

業務分類	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人工呼吸器使用中点検	1,721	2,580	1,732	2,761	1,293	915	965	1,122	1,211	1,551
人工呼吸器回路交換	144	175	88	100	53	40	33	49	53	61
人工鼻フィルター交換	1,046	1,196	537	416	67	36	38	27	13	7
バクテリアフィルター交換							317	475	580	695
カテーテルマウント交換	511	552	377	473	266	163	123	159	203	264
NIPPV対応			16	3	13	14	14	8	6	1
CPAP説明					30	27	19	21	21	22
新規導入(NPPV含む)								45	64	54

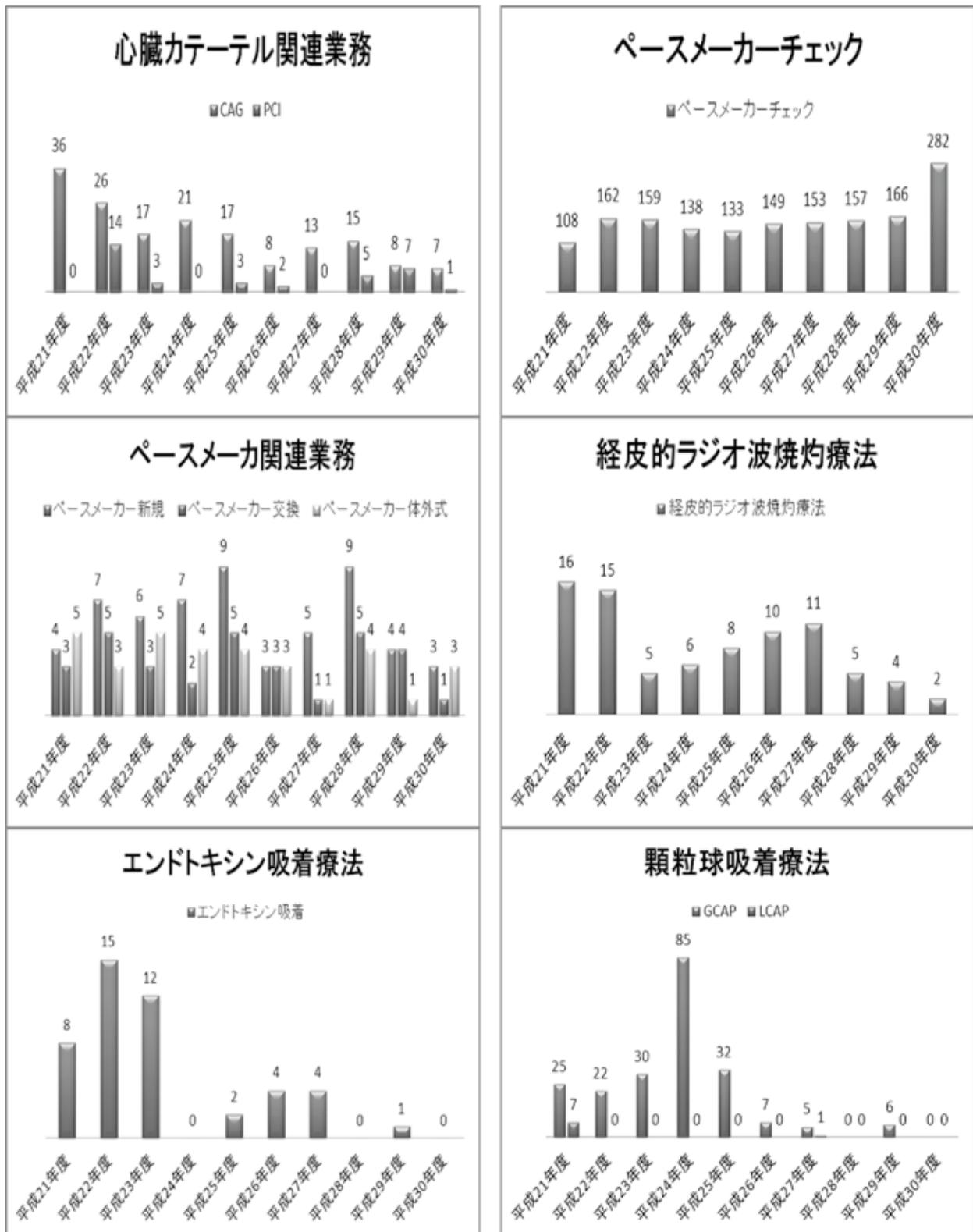
##### MEセンター関連業務

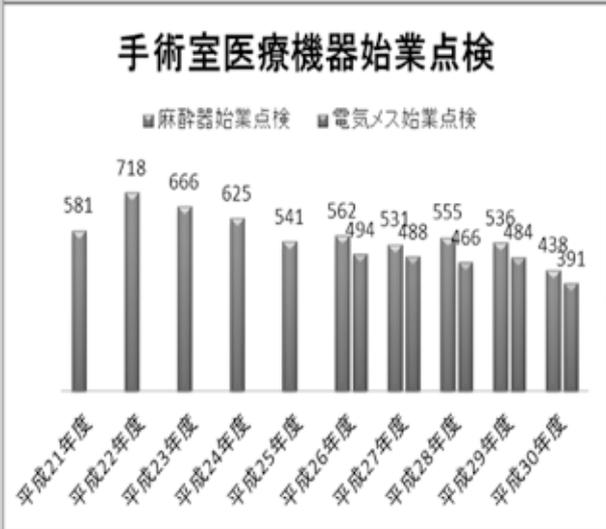
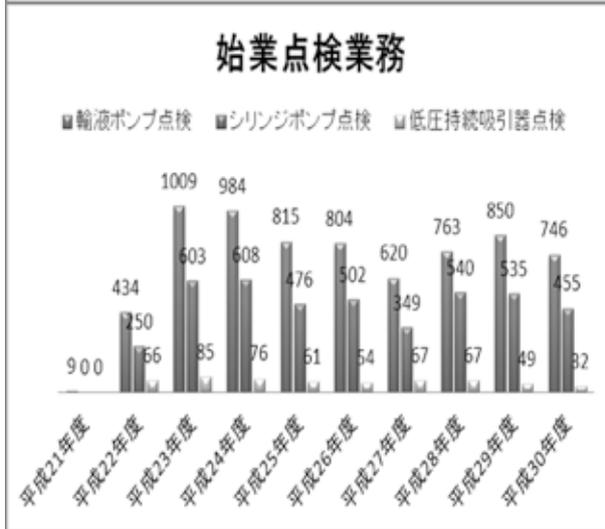
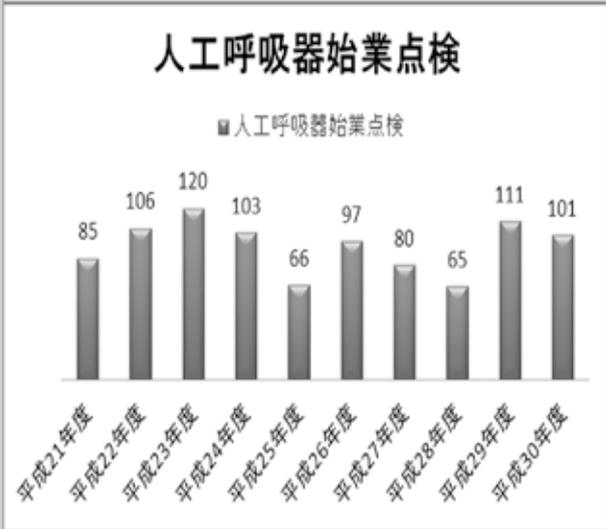
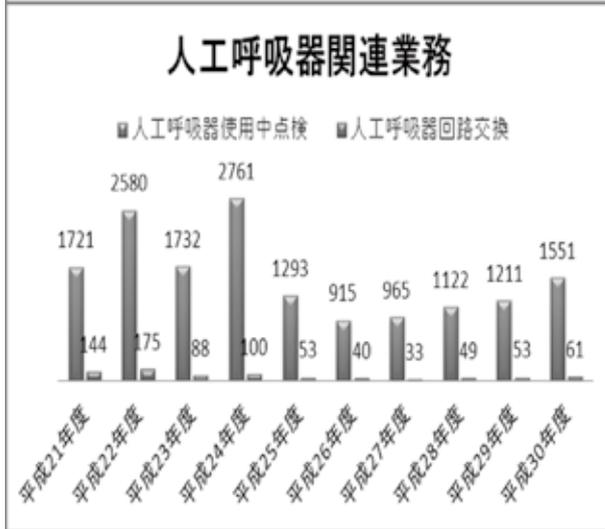
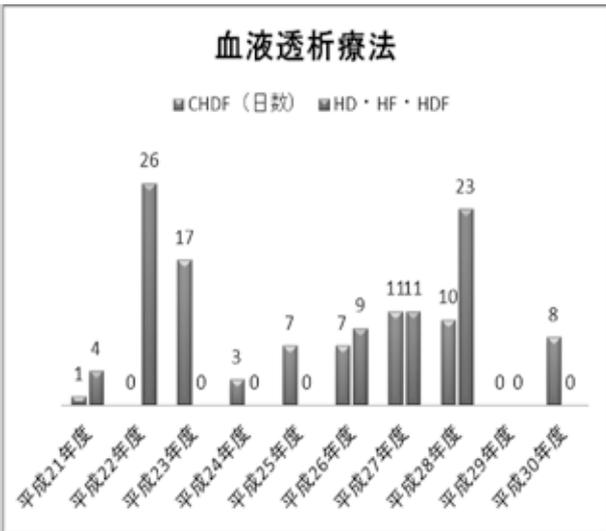
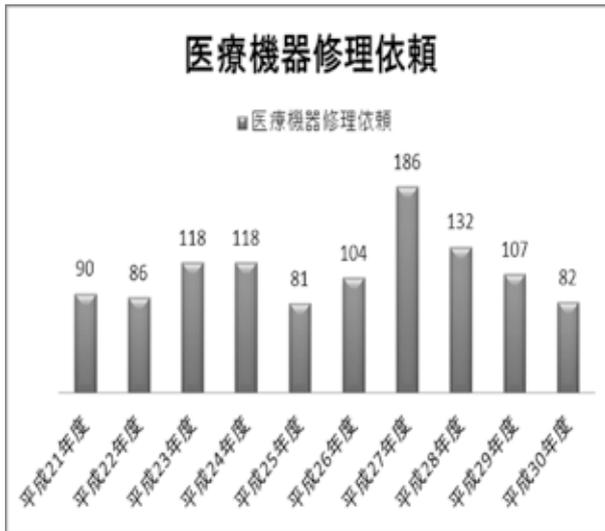
業務分類	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
麻酔器始業点検	581	718	666	625	541	562	531	555	536	438
電気メス始業点検						494	488	466	484	391
人工呼吸器始業点検	85	106	120	103	66	97	80	65	111	101
IABP点検	7	12	12	12	8	10	11	10	12	11
除細動器点検	74	75	81	88	74	85	82	81	82	83
閉鎖式保育器点検	41	48	45	35	31	28	32	28	34	30
AED点検	558	1,084	1,820	2,720	2,747	2,722	123	109	134	122
輸液ポンプ点検	9	434	1,009	984	815	804	620	763	850	746
シリンジポンプ点検	0	250	603	608	476	502	349	540	535	455
低圧持続吸引器点検	0	66	85	76	61	54	67	67	49	32
医療機器修理依頼	90	86	118	118	81	104	186	132	107	82

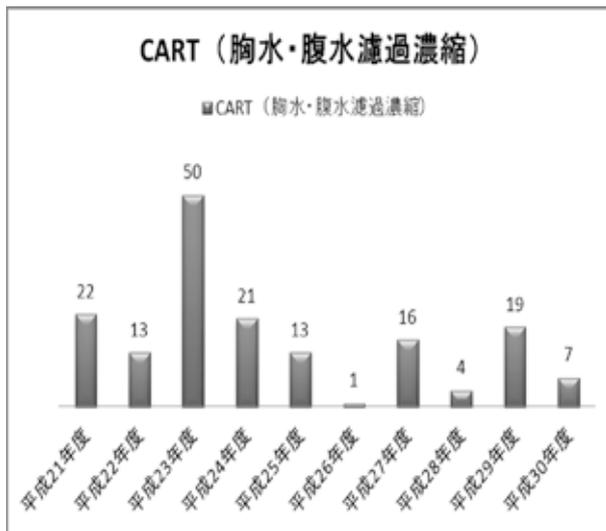
##### 緊急対応業務

業務分類	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
夜間・休日 対応				6	14	13	15	19	10	17

(2) 臨床工学技術科 年度別業務件数グラフ (平成 21 年度～平成 30 年度)







#### 4. その他

- (1) 3学会合同呼吸療法認定士更新 大倉嗣也
- (2) テルフェュージョン輸液ポンプ TE-161S メンテナンス講習修了証 杉浦正生
- (3) 平成29年度医療機器安全基礎講習会修了証書 杉浦正生

## ■ 診療協同部（栄養科）

### 1. 部署目標

- ・安全な食事の提供
- ・栄養指導加算件数の増加
- ・経費削減に向けた消耗備品の見直し
- ・インシデント、アクシデントの減少
- ・残業時間の削減

### 2. 活動内容と評価

#### (1) スタッフに対する衛生教育について

- ・スタッフ全体の衛生管理へ意識向上に向けた取り組みを行った。手洗いの徹底、温度記録の記載漏れが減少した。

#### (2) 栄養指導件数増加に向けた取り組みについて

- ・医師へのオーダーの依頼と合わせ、入院患者の振り分けを行い積極的に栄養指導を実施し指導件数増加に向けて取り組んだ。

#### (3) 消耗備品の見直しについて

- ・使用している2種類の使い捨て手袋の用途を見直し、安価な手袋の使用を推奨することにより使い捨て手袋全体の購入量削減に取り組んだ。

#### (4) 残業時間削減に向けた取り組み

- ・厨房スタッフの業務内容の検討を行い最終の勤務人員を4名から3名へ変更して、残業時間減少の取り組みを行った。

### 3. 業務実績

#### (1) 給食数

##### 患者食

食 種	平成 30 年度		平成 29 年度	
	食 数	比 率 (%)	食 数	比 率 (%)
常 食	28,202	15.5	35,461	18.2
軟 食	64,912	35.8	68,339	35.1
流 動 食	504	0.3	687	0.4
特別食 A	54,588	30.0	51,642	26.5
特別食 B	33,498	18.4	38,563	19.8
合 計	181,704	100.0	194,692	100.0

## 賄食

食 種	平成 30 年度		平成 29 年度	
	食 数	比 率 (%)	食 数	比 率 (%)
職 員 食	47,757	99.8	46,614	98.4
付 添 食	79	0.2	736	1.6
合 計	47,836	100.0	47,350	100.0

## (2) 栄養指導件数

	栄養指導及び相談件数 (件)	食事指導料加算件数 (件)
外 来 栄 養 食 事 指 導	785	785
入 院 栄 養 食 事 指 導	417	417
糖 尿 病 透 析 予 防 指 導	579	579
そ の 他 の 栄 養 相 談	68	
小 児 科 健 診 相 談	13	
保 健 指 導	66	
生 活 改 善 調 理 実 習	120	

## (3) 栄養マネジメント加算

栄養マネジメント加算 (件)	12,442
----------------	--------

## ■ 薬剤部

### 1. 部門目標

平成 30 年度「知多厚生病院事業計画」に基づく進捗管理

#### ①経営安定化に向けた取り組み強化

- ・医薬品、医療材料 等の適正な購入管理および在庫管理
- ・職員個々のコスト意識の醸成を図る

#### ②相談支援機能の強化および在宅医療への支援

#### ③チーム医療の推進

#### ④地域連携の強化

#### ⑤医療の質向上および医療安全の充実

### 2. 活動内容と評価（主な取り組み）

#### （1）価格交渉を充実させることによる購入の効率化を図る

- ・厚生労働省から発出された流通改善ガイドラインの影響により、医療機関は大幅な原価率の上昇を招く結果となった。次年度については、これまで以上に厳しい姿勢で価格交渉をしていくことで原価率を抑える取り組みが求められる。

#### （2）後発医薬品について切り替えによる効率が良く、高品質かつ安定供給が可能な品目への切り替えを図る

- ・DPC における後発医薬品係数の廃止に伴い、経営的には後発医薬品使用体制加算と薬価差益のバランスを見極める必要があるため、現時点では積極的な後発医薬品への切り替えを控えてきた。来年度については中医協の今後の動向を鑑み、対策を検討する必要がある。

#### （3）在庫管理の強化（品目数・在庫数の見直し）による在庫金額や期限切れの削減および不動態在庫の解消

- ・外来および入院患者の減少に伴う影響により予想以上に回転が低下し、思うように在庫金額や期限切れを削減することができなかった。同様に不動態在庫の解消にもつなげることができなかった。来年度については、患者増によって回転が向上することにより改善につながるよう引き続き取り組んでいきたい。

#### （4）実地棚卸を病院全体で取り組むことにより、職員個々のコスト意識の醸成を図る

- ・事前に人員配置予定表を各部署と共に立案し、運営会議等を通じて院内全体への周知を図った結果、滞りなく全部署の棚卸しを実施することができた。来年度においては、会計監査人監査に耐えられるような業務記述書に沿った運用の完全実施が望まれる。

## (5) 病棟における薬剤業務実施加算の継続と薬剤管理指導の充実

- ・薬剤業務実施加算については引き続き継続することができた。また、薬剤管理指導算定件数については、前年度対比 120%と好調であった。

## (6) がん患者への診察前面談（薬剤師外来）および各種指導の充実

- ・前出の外来および入院患者の減少に伴う影響により、抗がん剤調製件数も若干減少した。年間の薬剤師外来件数：515 件、がん患者指導管理料（ハ）算定：63 件であった。

## (7) 日本文化連「治験ネットワーク」からの新たな治験案件取得および症例数の増加

- ・新規案件については 2 件のエントリーをしたが案件取得には至らなかった。症例数についても平成 30 年度においては特に医師不足が顕著であったため、医師への業務負担を考慮し現状維持とした。来年度については、医師数の改善が若干図られていくので、新規案件について積極的に取り組んでいきたい。

## (8) 各種マニュアル、手順書の見直し

- ・薬剤部マニュアルについては、全面改定をすることができた。特に棚卸し関係については、業務記述書に基づいて整合性を図ることができた。

## 3. 業務実績（算定件数）

平成30年度	上半期（月平均）	下半期（月平均）	年度合計（月平均）
薬剤情報提供料	34,293（5,716）	34,241（5,707）	68,534（5,711）
手帳記載	8,098（1,350）	19,782（3,297）	27,880（2,323）
薬剤管理指導料(1・2を含む)	2,232（372）	2,004（334）	4,236（353）
介護療養型医療施設(再掲)	200（33）	381（64）	581（48）
無菌製剤処理科(1・2を含む)	970（162）	788（131）	1,758（147）

特記事項：3月における手帳記載件数が、5,286件と過去最高であった。

※1月より電子カルテの規定値を原則、「手帳シール発行」に変更

#### 4. その他

- ・各種認定資格について

感染制御認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

生涯研修履修認定（日本病院薬剤師会）

緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会）

医療情報技師（日本医療情報学会）

N S T 専門療養士（日本静脈経腸栄養学会）

老年薬学認定薬剤師（日本老年薬学会）

骨粗鬆症マネージャー（日本骨粗鬆症学会）

糖尿病療養指導士（日本糖尿病療養指導士認定機構）

糖尿病薬物療法准認定薬剤師（日本くすりと糖尿病学会）

公認スポーツファーマシスト（日本アンチドーピング機構）

リウマチ財団登録薬剤師（日本リウマチ財団）

漢方薬生薬認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）

認定実務実習指導薬剤師（日本薬剤師研修センター）

研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）

日本DMA T 隊員（厚生労働省）

以上

## ■ 看護部

### 1. 部門目標

- ・看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する
- ・生き生きと働き続けることができる職場環境をつくる
- ・積極的に病院経営に参画する

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 対象ニーズを捉えた確かな看護の実践

- ・地域包括ケア病棟や療養型病棟の効率的な活用による退院支援の強化を図った。
- ・DINQL データを活用した転棟転落、誤薬、褥瘡、感染の防止に努めた。
- ・年々増加傾向にある認知症患者に対応するため、入院時スクリーニングから看護計画介入方法の見直しを行った。また DST による定期的な院内研修会の開催、病棟ラウンドを継続して行い看護ケアの知識や質の向上を図った。

#### (2) 部署に必要な看護実践能力を高める

- ・OJT 充実、ナーシングスキルなどを活用することにより看護実践能力の向上を図った。また、各種学会参加についても業務に支障がないよう各課長が中心となって業務調整を行い積極的に参加することができた。

#### (3) チーム医療の推進

- ・病病・病診・看護部の連携強化を図り、退院支援カンファレンス実施件数の増加に努めた。7 対 1 基準の在院日数単月クリアを目指すためにも早期介入が必要と考える。

#### (4) 一人一人が役割を認識し専門性を発揮する

- ・各課長が部下に対してキャリアアップシートを活用した面接を行うとともに、委員会業務を担当させることにより学ぶ意識や関連する研修会などへの自主的な参加につながった。

#### (5) 労働環境改善や教育環境の充実に向けた取り組み

- ・WLB（ワークライフバランス）推進検討会と課長会が中心となり時間外業務の削減、バースデイ休暇の取得率向上に取り組み、時間外業務は平成 30 年 12 月に実施した病床再編前後と比較し減少、またバースデイ休暇取得率も 100%となった。
- ・病床再編後は急性期 2 病棟で DAY-PNS を導入した。導入後、3 ヶ月後のアンケートでは部署で話しやすい雰囲気や協力して看護ができるなど前向きな意見が多く、労働環境改善の一助となっていると考える。

- ・ナーシングスキルを積極的に活用できるよう部署の専門分野に関する課題を月単位で設定し取り組みを行った。今後も新ラダー合格率の向上に向け取り組みを継続する。

#### (6) 経営の安定化に向けた病床管理

- ・経営の安定化、効率的な病床運営と職員の集約化を目的に平成 30 年 12 月に病床再編を行った。稼動病床数が減少したことにより、より一層ベッドコントロールの重要性が高まった。入院基本料 1 (7 対 1) の維持のため医事課と協力し、医師への働きかけを行い、在院日数や医療看護必要度の基準維持に努めた。

#### (7) 5S活動を推進し業務の効率化を図る

- ・病床再編に伴い、急性期病棟の物品配置を見直しスリム化を図った。
- ・業務体制の見直しなどにより、申し送り時間などの短縮に取り組んだ。部署間の差はあったものの、全体的に時間外業務の削減につながった。
- ・昨年に引き続き、夜勤帯は必要なPC以外は電源OFFを徹底するなど節電に取り組んだ。

### 3. 業務実績

- ・平成 30 年度 看護部院内教育研修一覧 (次項)

## 4. 平成30年度看護部研修

## (1) 新人看護師研修

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
4	2	月		厚生連新採用者入職オリエンテーション	厚生連本部	10	
	3～5	火～木	8:30～17:00	病院オリエンテーション	教育研修委員会	10	
	6	金	8:30～17:00	配属部署オリエンテーション	部署長	10	
	9	月	8:30～	看護部新入職員オリエンテーション	看護管理室	10	
			15:00～17:00	標準予防策・清潔操作・針刺し防止	看護部	10	
	10	火	9:00～10:30	経管栄養を受ける患者の看護	看護部	10	6
			10:30～12:00	食事援助・口腔ケア	看護部	10	6
	11	水	9:00～12:00	フィジカルアセスメント	看護部	10	4
	12	木	9:00～12:00	当院の褥瘡対策 排泄ケアの実際	看護部	10	6
			13:00～15:00	医療安全対策について	看護部	10	
	16	月	9:00～10:30	経口薬・外用薬・直腸内与薬 処方箋注射箋の見方	看護部	10	
			10:30～12:00	インスリン製剤の種類用法・血糖測定	看護部	10	
17	火	10:30～16:30	電子カルテの活用(別紙)	医療情報	6		
18	水	10:30～14:30	電子カルテの活用(別紙)	医療情報	4		
23	月	9:00～12:00	輸液ポンプ・シリンジ 心電図モニター管理・12誘導装着	看護部	10	2	
5	10	木	9:00～12:00	静脈血採血(実践)点滴・皮下・筋肉・皮内注射	看護部	10	1
			13:00～14:00	抗菌剤・輸血準備観察・造影剤の注意観察	看護部	10	
			13:00～17:00	演習:事例検討Q&A	看護部	10	
11	金	9:00～12:00	看護記録 看護必要度	看護部	10		
6	1	金	13:00～17:00	救急カート管理 人工呼吸器取り扱い説明	看護部	10	
	28	木	13:00～15:00	薬剤の取り扱い劇薬・毒薬・麻薬 抗がん剤曝露予防	看護部	10	
			15:00～17:00	安楽な体位・リラクゼーション・安楽促進ケア・死後のケア	看護部		
7	5	木	13:00～15:00	看護過程の展開	看護部	10	
			15:00～17:00	フォローアップ研修1.「医療安全KYT」	看護部	10	

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
8	2	木	15:00～ 17:00	入退院支援について	地域連携	10	1
9	6	木	14:00～ 16:00	フォローアップ研修2.「看護過程の展開」	看護部	10	
			16:00～ 17:00	RUNRUN会	看護部	10	
10	4	木	14:00～ 17:00	フォローアップ研修3.「血管確保」	看護部	10	
11	1	木	15:00～ 17:00	皮下・筋肉注射実践指導 (職員インフル接種に向けて)	看護部	9	
2	28	木	15:00～ 17:00	事例を通して看護を振り返る(発表会) RUNRUN会	看護部	9	
合計						278	26

## (2) ラダーレベル I 研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	17	木	13:00～ 15:00	看護過程	看護部	11
			15:00～ 17:00	メンバーシップ	看護部	11
6	7	木	13:00～ 15:00	医療安全	看護部	11
			15:00～ 17:00	コミュニケーション	看護部	11
8	9	木	15:00～ 17:00	感染対策	看護部	11
10	16	火	14:00～ 16:00	看護倫理とその実践	外部講師	12
2	14	木	15:00～ 17:00	事例を通して倫理綱領に基づく分析(発表)	看護部	10
合計						77

## (3) ラダーレベルⅡ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	24	木	13:00～ 15:00	リーダーシップ	看護部	13
			15:00～ 17:00	人材育成	看護部	13
6	14	木	13:00～ 15:00	コミュニケーション	看護部	12
			15:00～ 17:00	看護過程	看護部	12
7	12	木	13:00～ 15:00	医療安全	看護部	14
			15:00～ 17:00	感染対策	看護部	13
8	23	木	15:00～ 17:00	看護倫理	看護部	12
9	12	水	14:00～ 16:00	看護研究具体的方法と文献検索	外部講師	13
合計						102

## (4) ラダーレベルⅢ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
9	27	木	15:00～ 17:00	医療安全(発表)	看護部	7
合計						7

## (5) ラダーレベルⅣ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
9	4	火	13:00～ 16:30	看護管理	外部講師	2
合計						2

## (6)他研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
7	21	土	13:00～ 17:00	看護研究発表会	外部講師	75
7	19	木	17:30～ 18:30	看護クリパス学習会	小森医師	10
8	30	木	16:00～ 17:00	実施指導者チューター研修①	看護部	12
9	3	月	10:30～ 12:00	挿管介助	成宮医師	14
12	13	木	15:00～ 17:00	実施指導者チューター研修②	看護部	12
1	7	月	15:00～ 17:00	次年度臨地実習指導者研修	看護部	7
3	12	火	17:15～ 18:15	フィールドイノベーション活動と看護師の働き方	外部講師	53
合計						183

## ■ 医療安全管理部

### 1. 部門目標

- ・多職種間の連携を強化し、医療安全対策の実施と評価を行う。
- ・医療安全報告の推進・共有・分析を行う。
- ・医療安全教育を実施し、職員の安全意識の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携強化を図る。

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 多職種間の連携を強化、医療安全対策の実施と評価

- ・医療安全対策委員巡視による医療安全対策実施後の評価、潜在リスクの把握  
毎月1回、担当者が巡視を行い結果と対策を医療安全対策委員会で共有し  
各部署に周知している。

#### (2) 医療安全報告の推進・共有・分析

##### ①医療安全報告書件数

上半期

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
30年度	93	70	95	75	73	47
29年度	67	73	57	49	72	53

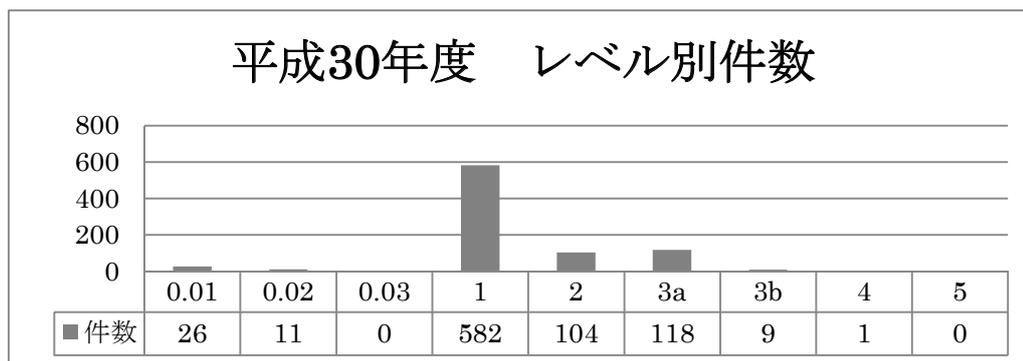
下半期

(件)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
30年度	68	58	80	66	53	71	849
29年度	76	58	60	80	53	66	764

- ・平成30年度の医療安全報告書は849件であり前年度と比較し85件増加した。  
発生場面は、薬剤250件で最も多く、次いで転倒転落の214件であった。
- ・事例カンファレンス開催件数は前年度の42件から146件に、評価カンファレンス  
も前年度14件から52件に増加し、部署での取り組みを行っている。

②レベル別件数



- ・医療事故の発生は前年度の12件から9件に減少した。  
内容分類では転倒転落による骨折の発症が9件中5件であった。

(3) 医療安全教育と職員の安全意識の向上

- ①前期医療安全全体研修：平成30年7月23日（月）・31日（火）参加者221名  
事例に学ぶ医療安全（当院における事例発表）・医薬品安全使用講習・医療機器安全使用講習
- ②後期医療安全全体研修：平成31年1月28日（月）・30日（水）参加者221名  
5Sから始める医療安全～事故を起こさない職場環境～
- ③看護部クリニカルラダー研修：計5回

(4) 地域医療機関との連携強化

- ①医療安全地域連携加算に伴う連携病院相互評価実施
- ②知多半島公立病院等5病院 医療安全担当者会議

3. 業務実績

- ・医療安全対策加算Ⅰ ・ 医療安全地域連携加算取得

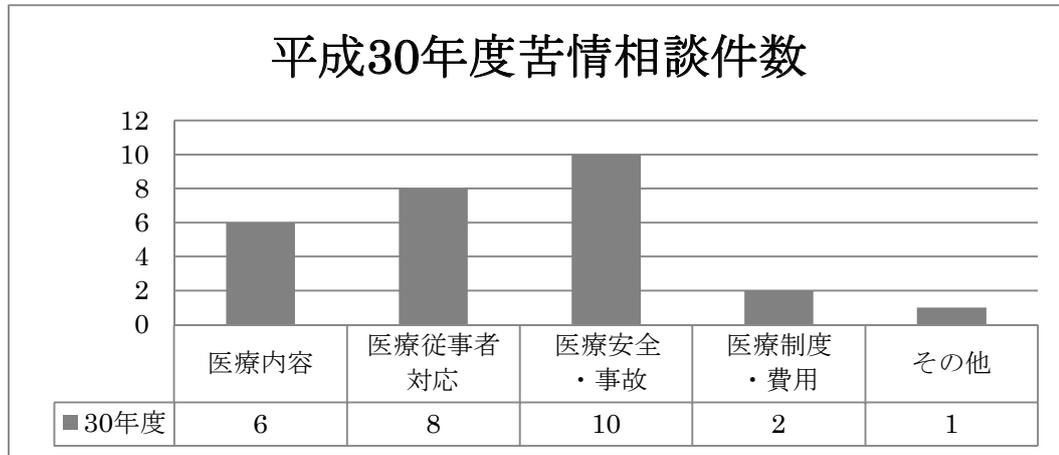
4. その他

(1) 監査

- ①東海北陸厚生局適時調査
- ②農業協同組合法第94条第4項の規定に基づく常例検査及び個人情報の保護に関する法律第40条第1項の規定に基づく検査

## (2) 苦情・相談件数

平成 30 年度の苦情相談件数は 27 件であった。その内、医療安全管理者による面談は 3 件、電話対応は 2 件であった。



## (3) 重大事故

- ・医療事故調査制度の対象となる報告はなし

## ■ 感染制御部

### 1. 部門目標

- ・第二種感染症指定医療機関として知多半島医療圏で中心的役割を担う
- ・感染管理支援システムの活用

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島医療圏で中心的役割を担うについて

- ・第二種感染症指定医療機関として、検疫と協働で新型インフルエンザ疑い模擬患者の引き渡し訓練を行った。
- ・地域の医療機関との連携の強化として、知多半島医療圏感染対策連携会議に参加した。加算 2 算定施設である医療法人瑞心会渡辺病院とは、カンファレンスを行った。加算 1 算定施設である半田市立半田病院とは、相互チェックを行った。又、特別養護老人ホーム大地の丘では、感染予防研修会を行った。

#### (2) 感染管理支援システムの活用について

- ・インフルエンザの流行状況をリアルタイムに発信することで、予防策の強化につながった。
- ・手指消毒使用量、CLABSI、CAUTI サーベイランスを実施し対策の評価を行った。
- ・耐性菌患者、医療器具使用者、環境、手指消毒直接観察のラウンドを実施した。
- ・特定抗菌薬使用者、有症者のモニタリングを実施した。

### 3. 業務実績

#### (1) 地域連携

##### <知多半島医療圏感染対策連携会議>

内容：AUD調査報告

乾性手指消毒剤払い出し状況について

耐性菌検出状況

職種別カンファレンス

開催日	担当病院
平成30年 5月16日	半田市立半田病院
平成30年 8月29日	公立西知多総合病院
平成30年11月21日	常滑市民病院
平成31年 2月20日	知多厚生病院

##### <連携カンファレンス>

開催日	
平成 30 年 10 月 30 日	医療法人瑞心会渡辺病院が来院
平成 30 年 11 月 20 日	医療法人瑞心会渡辺病院を訪問

## &lt;相互ラウンド&gt;

開催日	
平成 30 年 10 月 29 日	半田市立半田病院を訪問
平成 30 年 11 月 5 日	半田市立半田病院が来院

## (2) 新型インフルエンザ等模擬患者の引き渡し訓練

平成 30 年 12 月 14 日 中部空港検疫所との合同訓練

## (3) 教育活動

## &lt;職員&gt;

開催日	内容
平成 30 年 4 月 3 日	入職者研修
平成 30 年 5 月 15 日 平成 30 年 5 月 30 日	インフルエンザ、院内環境ラウンドの報告、薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランについて
平成 30 年 7 月 12 日	看護師教育ラダー II 感染対策研修
平成 30 年 8 月 9 日	看護師教育ラダー I 感染対策研修
平成 30 年 12 月 18 日 平成 30 年 12 月 27 日	薬剤耐性菌の検出状況について、院内ラウンドの報告「抗菌薬の使用状況と薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランについて

## &lt;地域医療機関&gt;

開催日	対象施設	内容
平成 30 年 6 月 14 日	大地の丘	麻疹について
平成 30 年 11 月 6 日	大地の丘	冬期に流行する感染症について

## (4) サーベイランス

- ・ 感染管理支援システムのラウンドチェックシートを活用したラウンドの実施
- ・ 日本看護協会 DiNQL に参画
- ・ JANIS の SSI、細菌検査部門に参画
- ・ 手指消毒サーベイランスの実施

## ■ 事務部

### 1. 部門目標

- ・必要回収額の確保
- ・病院経営や病院運営に積極的に参画
- ・効率的な病棟再編の検討
- ・業務の合理化・効率化と活気ある職場づくり
- ・職員満足度向上と患者サービス向上
- ・行政、医師会、JA等との連携強化

### 2. 企画課

#### (1) 活動内容と評価

##### 1) 病床再編の検討と実施

- ・平成30年度より医師不足が一層顕著となり、病床の空床が顕著となった。企画室の主管委員会である病床運営管理委員会を中心に協議を重ね、12月1日より職員と病床機能を集約化した効率化を目的に、病床再編を実施した。再編後の病床稼働率はどの病棟も92%前後の稼働を維持した。

##### 2) 新たな支援（補助金）の獲得に向けた協議

- ・平成28年度からの特別交付税を活用した補助金の継続はもとより、新たな支援（医療器機や設備に対する補助）の獲得に向けて美浜町、南知多町と協議を重ねた。次年度以降も継続協議となった。

##### 3) 産業まつりへの参画

- ・毎年、JAあいち知多美浜事業部、武豊事業部（平成26年度より）と連携し、JA組合員への健康増進を目的に両町の産業まつりへ参画しており、今年度も参加した。実施内容は骨密度測定、血糖測定、認知症チェック、血管年齢測定、訪問看護相談である。

##### 4) ACP研修会への参加

- ・当院の地域医療福祉連携部を中心に企画室も協力し、ACPの普及啓発に向けて7月に住民講演会（地域住民、医療関係者348名参加）、11月に人材育成研修会（医療従事者向け研修会・81名参加）を開催した。
- ・講演会、研修会を通して、地域住民や医療関係者へ医療においてACPを行うことの大切さを啓発することができ、また自身の終末期の医療やケアについて考える良い機会となり、知多半島内でのACP普及の一助になったと考える。

##### 5) ホームページリニューアルについて

- ・平成31年（令和元年）5月のリニューアルに向けて9月に業者選定会を開催した。

10月より業者と定期的に打ち合わせを行い、院内の各部署協力のもと、写真撮影や部署紹介を作成し、随時広報委員会にて進捗状況を報告した。今回のリニューアルに伴い、CMSを導入し、よりタイムリーな情報発信を行い、また、スマートフォンにも対応し、多くの方に見やすく分かりやすいデザインとなるよう協議を重ねた。  
(2019年5月7日(火) オープン)

#### 6) 次年度事業計画の作成

- 平成30年7月中旬～8月中旬にかけて各診療科、部門とヒアリングを行い、次年度での各部門の方針や目標など情報収集するとともに、各部門の適正な人員配置等についての考えを確認した。

#### 7) 経営管理（収支分析と報告）

- 毎月、収入・費用を前年対比、予算対比で増減分析を実施し、事務役付者会議や管理者会議、運営会議にて収支報告を行い、収入や費用に対する意識統一を図った。
- 全国の厚生連病院の中で同規模病院と様々な財務指標について比較・分析を加え、当院の課題の洗い出しを行った。

### (2) 実績報告

#### 1) 病床再編について

平成30年12月に経営資源の効率的活用を目的に、病床再編を実施した。

なお、病床再編に向けて設立した部会は以下の通りである。

- ・設備改修検討部会
- ・患者移動検討部会
- ・病室整理検討部会

#### 【病床再編前と後の病床機能変化】

	【再編前】	【再編後】
6 F	急性期病棟 54床	
5 F	医療療養病棟 15床 医療介護病棟 39床	医療療養病棟 15床 医療介護病棟 39床
4 F	急性期病棟 54床	急性期病棟 54床
3 F	地域包括ケア病棟 50床	急性期病棟 54床
2 F	急性期病棟 41床	地域包括ケア病棟 42床

2) 産業まつりについて

今年度も例年参加している産業祭りに参加した。

【美浜町産業まつり】 開催日：平成30年11月11日

実施内容	来場者数
①骨密度測定	142名
②認知症チェック	39名
③血糖測定	106名
④訪問看護相談	32名

【武豊町産業まつり】 開催日：平成30年11月10日、11日

実施内容	来場者数	
	(10日)	(11日)
①骨密度測定	189名	245名
②血糖測定	102名	161名
③血管年齢測定	154名	182名

3) JAポイントカード付与件数について

- ・当院の研修会等に参加された方の特典としてJAあいち知多のポイントカードにポイントを付与している。今年度のポイント付与件数は以下の通りである。

(件)

ポイント付与項目	月													計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
調理実習	8	7	8	7	8	8	6	7	6	10	6	7	88	
ミニレクチャー	18	11	11	6	10	6	14	12	2	13	3	3	109	
母親教室				1									1	
ベビーマッサージ													0	
マタニティーヨーガ													0	
糖尿病教室	24		27		19		17		14		22		123	
肝臓病教室		10		8		10		7		6		10	51	
住民公開講座						45					14		59	
計	50	28	46	22	37	69	37	26	22	29	45	20	431	

### 3.医事課

#### (1) 活動内容と評価

##### 1) 東海北陸厚生局 施設基準等に係る適時調査について

- ・適時調査とは、施設基準を届け出している保険医療機関等について、地方厚生局が当該保険医療機関等に直接赴いて、届け出られている施設基準の充足状況を確認するために行う調査である。

平成30年8月に適時調査が行われた。全ての施設基準を見直し、基準を充たしているか、人の配置、必要書類、掲示物の見直しを行った。全ての施設基準において最新の基準を充足していることを証明するための資料を作成し、質疑応答に備えた。また、他部門、他部署へは関係する施設基準を洗い出し、施設基準上必要な基準を一覧化し、公開されている適時調査における確認事項を各部門、各部署ごとにまとめた資料を提示した。事前準備する項目を依頼し、当日提示出来るように対応した。

今回の適時調査に対する返還、施設基準の取り消しなどは無く無事終了となった。

##### 2) 病床再編について

- ・当院の主な診療圏である美浜町、南知多町は人口減少と少子高齢化が顕著な地域であると同時に医療資源が乏しい地域であることから、急性期機能だけに取り組むのではなく、回復期機能、慢性期機能も提供することが当院にとって地域の中で求められ、必要とされる役割である。従って、地域の医療情勢にあった診療機能の検討と患者数の推移から地域の医療需要に見合った規模を現状と比較し検討を重ねてきた。そんな中、医師の退職が続き、診療機能は救急体制をはじめ急速に縮小を余儀なくされた。そこで、マンパワーを含めた診療機能の集中と集約を行い、より効率的な診療体制を構築することで病床稼働を上げ、収支改善に繋げる病床再編を実行に移した。

今後は、現状の患者数から導き出される病床数、地域ニーズを考慮した病床機能へと転換し、今後は損益分岐点をより意識し、更なる要員管理の徹底や各種費用削減を実行していく予定である。

##### 3) 業務の効率化について

###### ①領収証明書の運用の構築

依頼を受けた担当者が作成し対応していた。証明自体に問題はないが病院控えが存在せず、問い合わせに対応が出来なかった。

→ 作成書類の原本を見直し、作成者の押印、ナンバリング、病院控えを作成する運用へと変更した。医事課として管理していく運用を構築した。

## ②大地の丘新規入所・退所患者のコメント対応方法の構築

大地の丘である特別養護老人ホームに入所している場合、患者請求が変わってくる。入所中情報、退所情報を随時確認する必要がある。

→ 大地の丘との協議し、入退所情報を頂き、医事システムへ反映させる運用を構築した。

## ③皮膚科常勤医師不在に伴う運用の構築

皮膚科常勤医師不在となり、月・水・金・土曜日の代務体制となった。

→ 皮膚科医師は、曜日ごとに違うため、それぞれの医師に対応可能人数を確認し、予約枠人数を設定した。午後より大学で予定がある医師がいるため、受付時間の制限（終了時間を1時間早める）を考慮するなど、運用を構築した。また、診察できない患者さんへの配慮から近隣医療機関情報を一覧化し、配布、案内する対応へと変更した。

## ④入院中患者の一般診断書の運用の構築

病院が証明し作成した文書については、交付時に代金と交換する運用としている。しかし入院中の患者が診断書を希望した場合、病棟にて診断書を作成し直接渡していた。料金は入院請求書に含めていたため、病院が証明する公的文書である診断書が、料金と引換にならずに病院外で使用されていた。

→ 病棟担当者、病棟クラークと協議し、外来で一時的に請求書を作成し、他の書類、診断書と同様に代金と交換する運用へ変更した。医師、看護師へ周知し運用を開始した。

## ⑤薬引換券再発行の運用の構築

薬の引換券の再発行について、医事課では、支払いが後日となった場合、支払い日に薬を診察日にもらったかの有無を確認し、患者の申し出があれば「薬引換券」を再発行して渡している。再発行された「薬引換券」をもとに薬剤部では、薬を探し対応している。探す労力が薬剤部の業務に大きく影響がでるため、運用の見直しを依頼される。

→ 領収書の発行回数を把握し、1回でも領収書を発行していた場合は、「薬引換券」を再発行せず、薬剤部の窓口で確認してもらう。後日支払い、薬の追加などの場合、「薬引換券」を発行したものが、医事システムへコメントコード「薬引換券渡し済」を入力し、初回のみ「薬引換券」を発行する運用へと変更した。

## ⑥皮膚科外来診察の完全予約制への変更

皮膚科常勤医が不在となり、午前中のみの診察のため、人数制限による受付時間の変更し対応してきた。しかし診察人数制限、待ち時間の増加により患者さんに迷惑をかける結果が続いた。

→ 円滑な診療体制の構築を目的に、完全予約制へと変更した。皮膚科代務医師と協議を進め、予約枠数の見直し、地域の医療機関への周知、患者さんへの周知を行い、10月より運用開始に至った。

## ⑦物品金額と運用の変更

物品の請求のたびに看護師は伝票を起票していたが、伝票の種類によって、伝票の提出先が施設課、医事課、供給部門など提出先が複数であった。このため運用が複雑化し、認識不足によるコスト請求漏れが発生していた。

→ 料金の見直しを図り、患者請求可能な物品を洗い出した。また本部システムの自動仕分けに対応するようにNEC、本部情報システム課と協議を進めた。

現状の運用では、コスト請求漏れが発生するリスクがあるため、看護部と協議し、全ての伝票の提出先を医事課に統一することで、コスト確認をする運用へと変更した。

## 2) 実績報告

## ①保険査定減の減少（目標額：400,000円の削減）

→ 前年度に比べ 2,832,745円の削減となった

## ②返戻件数の減少（目標件数：事務誤り部分の返戻 前年度比10%減）

→ 前年度に比べ 53件の増（※南知多町役場より過誤返戻依頼13件分含む）となった

	査定減			返戻件数		
	2017年度	2018年度	前年比	2017年度	2018年度	前年比
4月	412,474	525,376	127.4	15	16	106.7
5月	829,134	442,796	53.4	14	17	121.4
6月	1,392,405	820,354	58.9	10	17	170.0
7月	456,683	301,000	65.9	23	30	130.4
8月	1,103,093	469,142	42.5	15	22	146.7
9月	1,499,456	1,286,615	85.8	8	15	187.5
10月	1,551,279	380,252	24.5	25	38	152.0
11月	1,154,907	547,054	47.4	31	25	80.6
12月	221,221	433,749	196.1	18	21	116.7
1月	294,107	598,082	203.4	26	19	73.1
2月	277,569	491,129	176.9	13	32	246.2
3月	211,189	275,223	130.3	14	13	92.9
合計	9,403,517	6,570,772	69.9	212	265	125.0

#### 4.総務課

##### (1) 活動内容と評価

###### 1) 要員管理について

- ・各部署とのヒアリング実施により、各部署、各職種における適正な人員を把握するとともに、要員計画に基づく適切な要員管理を行うことが出来た。

採用活動は、概ね計画通りの進捗となったが、一部の職種で不足が続いており、次年度も活動を継続する。

###### 2) 研修医の確保について

- ・各種説明会への参加等により、前年度に続いて1名の初期研修医を確保することが出来た。

次年度も、説明会への参加及び病院実習の受け入れ等を積極的に行い、初期研修医確保を目指す。

###### 3) 職員健診について

- ・職員に対して細やかな働きかけを行った結果、受診率100%を実現した。

次年度以降も継続して受診勧奨を行う。

## 5.施設課

### (1) 活動内容と評価

#### 1) 災害拠点体制強化

毎年実施している災害訓練では、美浜町、南知多町と隔年で訓練を実施してきたが、両町に働きかけを行ない美浜町、南知多町、半田保健所、知多南部消防組合消防本部と地域災害拠点病院災害連携訓練を実施した。災害訓練は過去の反省より、詳細な訓練シナリオを廃止し簡易なシナリオに変更しアクションカードを導入して実施した。

訓練の前には、各々の役割を災害時の動きを班ごとに理解するために、机上訓練を外部講師による訓練ではなく、施設課で企画し開催した。

災害訓練だけではなく、災害医療派遣チーム（DMAT）隊員の体制強化を図るため、愛知県医務課と協議し、日本 DMAT 隊員（医師 1 名）の増員を図ることができた。（当院の DMAT 隊員：医師 2 名、看護師 2 名、ロジスティック 3 名）

#### 2) 費用削減

費用削減を前提に清掃委託業者の変更を検討し、平成 30 年 4 月より病棟清掃委託業者を看護部等の他部署の協力を得て変更することとなった。

また、使用頻度の高い照明を LED に変更し、省エネ効果を高めた。

廃棄物では、厚生連全体の取り組みにて機密文書の廃棄先を変更することで、費用削減を達成した。

#### 3) 施設整備計画

平成 30 年度固定資産取得計画に基づき、メーカー間の価格競争を働かす手法を模索するなど、厳しい価格交渉を行ない、27 品目を予算内にて取得した。

## ■ 医療情報部

### 1. 部門目標

- ・電子カルテの安定稼働
- ・在宅医療への支援
- ・医療安全の充実、医療の質向上
- ・地域連携の強化
- ・経営の安定化に向けた取り組み強化
- ・診療録の量的、質的点検の強化
- ・個人のスキルアップと人材育成

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 電子カルテの安定稼働について

- ・定期再起動による停止以外に、電子カルテの障害停止はありませんでした。

#### (2) 経営の安定化に向けた取り組みについて

- ・電子カルテ、医事会計システムに蓄積されたデータから、種々のデータを抽出し、経営分析の基となる数値の提供を行った。

#### (3) 診療録の点検強化について

- ・サマリー作成システムで作成されたデータをもとに、サマリー未作成の医師に対して、定期的に電子カルテメールを送信する仕組みを作成、サマリー作成率の向上に寄与することができた。

### 3. 業務実績

#### (1) 篠島診療所でのインターネット参照時の印刷ができる仕組みを再構築した。

#### (2) カルテ開示について、開示の書類を見直すとともに、個々の開示がどのような状況にあるか、またその際に必要な書類を印刷できるシステムを構築、さらに、開示資料の複写を電子保存した後、印刷することで、人的コストおよび保管場所の削減に努めた。

## ■ 保健事業部

### 1. 部門目標

- ・ドック・健診受診者の利便性を高め、増収に繋ぐ
- ・JA 組合員及び病院職員への健康管理活動の拡大
- ・人間ドック機能評価認定施設として、質を維持する
- ・全国健康保険協会の保健指導活動による生活改善支援の充実

### 2. 活動内容と評価

#### (1) ドック・健診受診者の利便性を高める

- ・案内状送付時に、胃カメラへの変更、子宮癌・MRI の追加可能なオプションについて説明用紙を同封し案内するよう運用を変更した。  
連絡があれば、受診者の要望に極力沿うように対応し、当日の都合により健診を早く終えたい利用者さんやご夫婦で同時に健診を終了したい利用者さんなど多くの要望に答えるべく努めている。

#### (2) J A 組合員及び病院職員への健康管理活動の拡大

- ・11月10(土)、11日(日)美浜町・武豊町の産業まつりに参加。  
職員健診時、希望者に触診体験を実施。  
J A 組合員及び組合員家族の割引を継続し受診者は昨年同様に約 470 名  
病院職員の人間ドック受診者は約 2 割増加した。

#### (3) 人間ドック機能評価認定施設として、質を維持する

- ・各自が自主的に地域の研究会勉強会に参加するとともに、日本人間ドック学会、日本農村医学会で発表を行った。
- ・院内においては、多発性嚢胞腎、アレルギー検査についての部署内勉強会を実施した。

#### (4) 全国健康保険協会の保健指導活動による生活改善支援の充実

- ・前年対比 105%とわずかに増加した。

全国健康保険協会の保健指導活動（特定保健指導）			
	平成 30 年度（名）	平成 29 年度（名）	前年対比
動機付け	18	20	86%
積極的	25	21	119%
合計	43	41	105%

### 3. 業務実績

#### (1) 受診者数と収入

	受診者数（延人数）（通計）			収入（通計）		
	平成30年度 （名）	平成29年度 （名）	前年 対比	平成30年度 （円）	平成29年度 （円）	前年 対比
J A関連	1,872	2,164	86.50%	25,730,898	28,543,480	90.10%
協会健保	905	793	114.10%	15,284,431	13,772,880	111.00%
市町村	1,211	1,083	111.80%	13,146,963	10,804,228	121.70%
その他 （企業・ 個人等）	3,583	3,563	100.60%	35,362,671	34,407,420	102.80%
予防接種	624	527	118.40%	2,588,700	2,306,600	112.20%
総合計	8,195	8,130	100.80%	92,113,663	89,834,608	102.50%

### 4. その他

#### (1) 地域健康推進活動について

- ・ J Aメンタルヘルス研修

11月12日（月）

対象：支店長級、中堅職員

保健師1名 派遣

- ・ J A共済健康管理集団保養活動

5月30日（水） 6月29日（金） 9月7日（金） 10月12日（金）

12月12日（水） 1月11日（金） 2月19日（火）

医師・看護師又は保健師派遣

## ■ 地域医療福祉連携部

### 1. 部門目標

- (1) 職場環境の向上
  - ・業務改善・業務の効率化
  - ・計画的な有給休暇の取得
  - ・適正な要員配置
- (2) 地域包括ケアシステムの推進
  - ・福祉・介護事業の充実
  - ・関係機関との連携強化
  - ・患者や住民への啓発活動
  - ・ICT の活用
- (3) 効率的な病床運営
  - ・診療報酬改定への対応

### 2. 地域医療福祉連携部

#### (1) 活動内容と評価

##### 1) 知多半島において、アドバンスケアプランニングとエンドオブライフディスカッションを推進する会

幹事病院として住民講演会、人材育成研修会を開催した。

- ・平成 30 年 7 月 8 日 住民講演会 (参加者 348 名)  
「誰もが迎える最期 ～自分らしく生きるための医療の選択～」
- ・平成 30 年 11 月 4 日  
「人生の最終段階についてアドバンスケアプランニングを推進する人材育成のための研修会」(参加者 83 名)

##### 2) 利用者に活かす医療講座

- ・ケアマネジャーや介護事業所向けの医療講座を企画し、年 3 回開催した。  
第 1 回：平成 30 年 6 月 22 日 認知症について (講義・グループワーク)  
第 2 回：平成 30 年 10 月 26 日 嚥下について (講義・演習)  
第 3 回：平成 31 年 2 月 22 日 終末期における連携について (グループワーク)

##### 3) 全忠寺「花まつり」への参加

- ・地域コミュニティと関わりを持ち、地域住民の健康意識の醸成を図った。  
平成 30 年 4 月 20 日 健康体操、健康相談、介護相談

##### 4) 住民講演会

- ・住民教育を目的に企画課と住民公開講座を 2 回開催した。

5) 地域包括ケアシステム構築への参画について

- ・美浜町と南知多町の地域包括ケアシステム推進協議会に参加し、地域包括ケアシステム構築に必要な連携課題について検討した。

3. 地域連携課

(1) 活動内容と評価

1) 業務の見直しや改善を行い、業務の効率化や協力体制を整える

- ・課内で進捗が悪い業務に対し見直しを行った。
- ・一部の業務についてサポート体制を確立した。次年度も継続して行う。
- ・有給休暇の取得日数について前年度を上回ることができた。

2) 地域の医療機関と福祉施設のニーズを把握し、連携強化に努める

- ・連携強化を図るため訪問先を絞り、医師と共に訪問を実施した。
- ・受診報告書記入の働きかけを継続した。作成率は 92.7%であった。
- ・経過報告書に対する報告書作成の有無を定期的確認し、未作成医師へ記入の働きかけを行った。

3) 地域包括ケアシステムへの取り組みについて

- ・当院でも行政や他医療機関等と連携して行える業務について検討したが、ICTを活用した運用の検討までには至らなかった。

4) 効率的な病床運営について

- ・介護医療院への転換に必要な情報を提供し、検討ワーキンググループへも参加した。

(2) 実績報告

1) 紹介実績

別表にて

2) 患者サポート体制相談窓口 相談件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	15	6	11	10	11	11	10	12	17	7	13	11	134
平成29年度	8	7	12	5	7	4	4	3	6	3	6	15	80

## 3) 入院時支援延べ件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予定入院	6	13	—	—	—	8	23	23	16	22	11	16	138
短期予定入院	1	3	—	—	—	7	8	8	12	12	16	4	71
当日入院	0	0	—	—	—	8	3	0	4	4	0	0	19
入院後 13領域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	20	5	48
入院時支援 加算 算定件数	0	0	0	0	1	0	0	2	2	1	1	0	7

## 4) 国土交通省短期入院利用人数

実人数：2名 延べ人数：6名

## 4. 医療福祉相談課

## (1) 活動内容と評価

## 1) ソーシャルワーカー業務の質向上と効率化について

- ・療養病床や地域包括ケア病棟への転棟前に行う確認事項の定型文を各種作成し、ソーシャルワーカーが誰でも同じ内容で確認や説明ができるよう整備した。
- ・認知症関連疾患における制度利用の案内文を各種作成し利用を開始した。
- ・外来における相談件数が増加傾向にあるため、外来支援体制の再構築が課題となった。

## 2) 退院支援における仕組み定着への取り組みについて

- ・入院早期に担当ケアマネジャーと退院に向けた協議が行えるよう退院支援専従MSWと専任Nsでケアマネジャーへの働きかけを実施した。
- ・入院早期に退院支援が開始できるよう、退院調整フロー図を変更し院内周知した。
- ・上記により、退院支援カンファレンス、介護支援連携指導料1カンファレンス共に前年度より増加した。

(2) 実績報告

1) 相談支援延べ件数 (退院支援カンファレンス含む)

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	641	719	744	751	775	611	771	691	604	705	742	813	8,567
平成29年度	956	959	943	794	913	835	855	874	682	823	789	774	10,197

2) 退院支援加算算定件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	44	36	45	46	48	39	50	52	33	23	37	37	490
平成29年度	27	40	43	26	39	28	40	44	31	40	39	51	448

3) 介護支援連携指導料算定件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	29	25	35	30	34	24	35	24	27	30	27	21	341
平成29年度	32	20	23	18	30	34	22	29	21	37	25	29	320

4) 実習生・学生受け入れ

内容	大学・学年・人数	日程
座学	日本福祉大学 フィールド実践演習 社会福祉学部 社会福祉学科 2年生 12名	平成30年6月21日
実習	日本福祉大学 医療福祉実習 社会福祉学部 社会福祉学科 4年生 1名	平成30年8月8日～24日
座学	日本福祉大学 フィールド実践演習 社会福祉学部 社会福祉学科 2年生 5名	平成30年10月29日

## 5) 主な会義・出張の件数 (件)

会議・出張（開催件数）	
委員会	37
院内会議・ミーティング	114
退院検討会（急性期・地域包括ケア・療養病床）	226
診療科・リハビリ・ケアプランカンファレンス	102
総合相談カンファレンス	25
ソーシャルワーカーミーティング	48
療養病床入退所判定会	40
医療機関・福祉施設・大学等 訪問	4
院外会議	13
院内・院外研修会	19

## 5. 介護管理課

## (1) 活動内容と評価

## 1) 各種届出等の作成

- ・遅滞することなく届出等を作成し、提出できた。

## 2) 監査対応

- ・指摘事項に対して改善策を提案し、関連部署へ周知した。

## (2) 実績報告

## 1) 各種届出内容

## ①訪問看護ステーション（介護）

- ・平成30年4月1日 運営規程 変更
- ・平成30年12月1日 看護体制強化加算Ⅱ→Ⅰ 変更

## ②訪問看護ステーション（医療）

- ・平成30年4月1日 運営規程 変更
- ・平成30年7月1日 機能強化型訪問看護管理療養費2 取り消し
- ・平成30年9月1日 運営規程 変更
- ・平成30年12月1日 運営規程 変更

## 2) 監査

- ・平成30年12月21日 実地指導（美浜町／居宅介護支援事業所）
- ・平成31年1月22日 実地指導（愛知県／介護療養型医療施設・訪問看護）

## 6. 訪問看護ステーション

### (1) 活動内容と評価

#### 1) 安心・安全な看護の提供について

- ・研修に参加し、部署内で伝達講習会や学習会を開催し知識・技術の向上を図った。
- ・ナーシングスキルを用いて技術を確認した。レベル3以上の医療事故の発生はなし。
- ・利用者満足度調査を実施し、ステーションの評価及び問題点の改善に取り組んだ。

#### 2) 働きやすい職場環境について

- ・看護師は1人平均10回の有給休暇、4日以上連続休暇の取得ができた。
- ・10月に看護師が療養休暇となり、記録の時間外が発生したが、勤務交替による増員により時間外は解消された。
- ・リハビリは訪問件数の増加に伴い、記録・管理の時間外が発生している。

#### 3) 診療報酬改正への対応を行い病院経営に参画について

- ・緊急時訪問看護加算算定者50%以上、特別管理加算算定者30%以上、介護の看取り件数5件以上となり、12月から看護体制強化加算Iを要介護者に算定でき増収となった。
- ・医療では、看取り件数15件未達のため7月から機能強化型訪問看護管理療養費の算定が出来なくなり減収となった。
- ・リハビリ利用者の定期的な看護師訪問は7月から10月まで算定した。
- ・利用者確保や連携のため居宅介護支援事業所や開業医を訪問した。
- ・産業まつりに参加し、訪問看護の紹介を行なった。
- ・PT・OTの勤務時間を変更(午前・午後の入れ替え)しリハビリの訪問件数を増やした。

#### 4) 行政、院内、院外医療機関、居宅介護事業所等と連携について

- ・美浜町、南知多町のケア会に参加し、地域の医療機関、居宅介護事業所等と情報共有、連携を行った。
- ・情報共有のツールとして10名以上の利用者にICTを活用できた。

## (2) 実績報告

(件)

		医療			介護			総人数	総件数
		実人数	延件数	平均訪問回数	実人数	延件数	平均訪問回数		
平成 30年	4月	17	94	5.5	83	535	6.4	100	629
	5月	17	105	6.2	84	575	6.8	101	680
	6月	17	113	6.6	88	570	6.5	105	683
	7月	18	107	5.9	86	549	6.4	104	656
	8月	15	99	6.6	89	583	6.6	104	682
	9月	15	85	5.7	95	519	5.5	110	604
	10月	17	115	6.8	95	590	6.2	112	705
	11月	20	138	6.9	92	545	5.9	112	683
	12月	18	110	6.1	92	549	6.0	110	659
平成 31年	1月	16	93	5.8	90	537	6.0	106	630
	2月	16	110	6.9	88	509	5.8	104	619
	3月	19	125	6.6	88	519	5.9	107	644
合計		205	1,294	6.3	1,070	6,580	6.1	1,275	7,874
月平均		17.1	107.8	6.3	89.2	548.3	6.1	106.3	656.2

(件)

		新規						合計
		自宅		医療機関		老人保健施設		
		医療	介護	医療	介護	医療	介護	
平成 30年	4月	1	4	1	1	0	0	7
	5月	1	1	1	1	0	1	5
	6月	1	6	1	1	0	0	9
	7月	0	3	2	2	0	0	7
	8月	1	3	1	3	0	0	8
	9月	0	6	0	3	0	0	9
	10月	0	6	4	2	0	0	12
	11月	2	2	2	3	0	0	9
	12月	0	2	0	1	0	0	3
平成 31年	1月	1	2	0	2	0	0	5
	2月	0	3	1	4	0	0	8
	3月	1	2	2	1	0	0	6
合計		8	40	15	24	0	1	88
月平均		0.7	3.3	1.3	2.0	0.0	0.1	7.3

(件)

		終了						合計
		軽快		死亡			入院・入所	
		医療	介護	自宅	医療施設	施設		
平成 30年	4月	0	1	1	1	0	7	10
	5月	0	1	1	1	0	9	12
	6月	0	1	2	2	0	12	17
	7月	0	0	2	1	0	14	17
	8月	0	0	1	1	0	3	5
	9月	0	2	2	2	0	8	14
	10月	0	3	3	1	0	10	17
	11月	0	2	4	0	0	8	14
	12月	0	3	0	3	0	9	15
平成 31年	1月	0	1	4	6	0	9	20
	2月	0	0	0	0	0	7	7
	3月	0	1	1	4	0	5	11
合計		0	15	21	22	0	101	159
月平均		0.0	1.3	1.8	1.8	0.0	8.4	13.3

## ・住民登録地別利用者数（介護予防を含む）

(件)

		医療			
		南知多町	美浜町	武豊町	合 計
平成 30年	4月	8	8	1	17
	5月	9	7	1	17
	6月	9	8	0	17
	7月	9	9	0	18
	8月	7	7	1	15
	9月	7	7	1	15
	10月	7	9	1	17
	11月	10	9	1	20
	12月	9	9	0	18
平成 31年	1月	7	9	0	16
	2月	7	8	1	16
	3月	8	11	0	19
合計		97	101	7	205
月平均		8.1	8.4	0.6	17.1

(件)

		介護					総人数 (医療+介護)
		南知多町	美浜町	武豊町	常滑市	合 計	
平成 30年	4月	41	40	0	2	83	100
	5月	41	41	0	2	84	101
	6月	44	42	0	2	88	105
	7月	43	40	1	2	86	104
	8月	47	39	1	2	89	104
	9月	46	46	1	2	95	110
	10月	46	46	1	2	95	112
	11月	48	41	1	2	92	112
	12月	46	42	2	2	92	110
平成 31年	1月	49	37	2	2	90	106
	2月	46	40	0	2	88	104
	3月	47	40	0	1	88	107
合計		544	494	9	23	1,070	1,275
月平均		45.3	41.2	0.8	1.9	89.2	106.3

## 7. 居宅介護支援事業所

### (1) 活動内容と評価

#### 1) 職場環境の向上について

- ・知多中南部の研修会、地域包括支援センター主催の研修会などに参加し、個々のケアマネジメント技術及び知識の向上を図った。
- ・主任介護支援専門員更新研修、介護支援専門員更新研修を計画的に受講し、資格更新した。
- ・年度単位で有給休暇の取得希望日を把握することにより、職員間で休暇の予定を把握することができ、私生活と仕事で調和のとれた積極的な有給休暇の取得ができた。

#### 2) 地域包括ケアシステムの充実について

- ・ソーシャルワーカーや他職種と連携し、医療依存度の高い利用者を適切に受け入れ、当院を退院されるターミナル患者の受け入れを積極的に行うことができた。
- ・ターミナル患者の情報交換ツールとして、電子連絡帳（浜カップ・ミーナネット）を積極的に使用し、地域の開業医やサービス事業所との連携を図ることができた。
- ・美浜町、南知多町のケアマネ会議への出席は、当番制であったため事例提供する機会は無かったが、当院の現状や電子連絡帳（浜カップ・ミーナネット）の運用に関しては、積極的に発言・提案を行なった。

#### 3) 効率的な病床（事業所）運営について

- ・介護報酬・診療報酬改定に対応し、適切かつ効率的に居宅介護支援業務を遂行することを心掛け、退院時に多職種と連携し、多機関共同指導加算を算定することができた。

### (2) 実績報告

#### 1) ケアプラン作成件数（予防含む）

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 30年度	95	99	95	92	92	95	93	95	92	90	88	88	1,114
平成 29年度	114	114	115	114	112	110	110	109	110	106	103	102	1,319

## 2) 一人当たり担当件数 (件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成 30年度	38.0	39.6	38.0	36.8	38.6	38.0	37.2	38.0	36.8	36.0	35.2	35.2	37.3
平成 29年度	38.0	38.0	38.3	38.0	37.3	36.6	36.3	36.3	36.7	35.3	34.3	34.0	36.6

## 3) 訪問調査件数 (美浜町委託事業) (件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 30年度	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
平成 29年度	1	4	4	3	3	4	2	5	0	0	5	8	39

※介護保険の訪問調査員が美浜町で採用されたため、本年度は訪問調査を委託されることが無かった。

病診連携 紹介実績

(件)

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計	
美浜町	榊原医院	10				3						13	
	(医) 顕心会 辻医院	1									1	2	
	新美医院	1				9	1			19	0	30	
	(医) 浜田整形外科・内科クリニック	49	1	13	23	21	14	2	6	0	22	151	
	前田医院	76	1	7	8	17	4	1	3	1	9	127	
	美浜クリニック	81		2	4	3	4	1	1	1	2	99	
	渡辺病院	23		6	23	15	1	6	3		7	84	
	さかい接骨院				1								1
	にわ接骨院				3								3
	老人保健施設 サンバーデン	1											1
	鈴木歯科クリニック											1	1
	ときしグリーン歯科											1	1
	橋本歯科				1							1	2
	美浜町保健センター				1								1
南知多町	(医) 上床医院	19		1	1	4		1	1		1	28	
	(医) 大岩医院<豊浜>	52		10	4	14	6		1			87	
	大岩医院<内海>	20			3	1	3			1		28	
	かっぱのお家クリニック	5		1	2	5		1				14	
	篠島診療所	8		3	2	6	2				2	23	
	白井医院	22		1	1	7		2				33	
	夏目医院	2			4				1		1	8	
	日間賀島診療所	6		2	2	3						13	
	みどりの風 南知多病院	55		18	24	12	12	7	1	6	3	138	
	大地の丘	23				1						24	
	特別養護老人ホーム あい寿の丘	12										12	
	特別養護老人ホームひだまり	1										1	
	日間賀島接骨院	3										3	
	柳接骨院				4								4
	アルファクリニック 歯科	1											1
	竹内歯科医院	1										1	2
富歯科医院											1	1	

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
武豊町	AGC株式会社 愛知工場 健康管理センター	1										1
	石川医院	6		3		1	1					11
	石川眼科									9		9
	石川病院	2		1	7	1	1				1	13
	奥村医院	2										2
	榑原整形外科	2			3							5
	じこう医院	8		1		3				1		13
	耳鼻咽喉科武豊醫院					1					3	4
	杉石病院	5		1	3	6	1	1	1		3	21
	すこやかクリニック	2		1		1						4
	ちゅうや整形外科	1			6							7
	内科・外科 渡辺医院	1										1
	なかしまキッズクリニック			1								1
	なしの木眼科									4		4
	毛受医院				1						3	4
	よしかねクリニック	3		1								4
	介護老人保健施設 榑原	6			1	3	1					11
あだち歯科医院											1	1
ファミリー歯科	1											1
半田市	青山外科	2			2	1						5
	酒井内科・皮フ科	2					1					3
	JFEスチール 知多製造所健康管理センター	3						1				4
	せいしろ循環器内科クリニック	2										2
	(医)知多リハビリテーション病院					2						2
	中野整形外科			3	1							4
	花井クリニック	1		2		1		2				6
	春田内科	4									1	5
	半田眼科クリニック					18	1					19
	半田市立半田病院	74		7	46	8	1	3	2	5	2	148
	平岡医院	1									1	2
	藤田病院					1			1			2
	ふたばクリニック								2			2
上記以外	6		2	1	1	1					11	

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
常滑市	内田眼科									1		1
	さかきばら整形外科クリニック				1							1
	鷹津内科・小児科	1		1								2
	瀧田医院										1	1
	常滑いきいきクリニック					1						1
	常滑眼科クリニック										1	1
	常滑市民病院	4	2	17	3	2		2				30
	中村クリニック	2										2
	たんぼぼ接骨院				1							1
阿久比町	あぐい南クリニック							1				1
	浅井外科	3										3
	眼科富田クリニック									1		1
	デンソー阿久比診療所							1				1
	広渡レディースクリニック								1			1
	メディコ阿久比	4				2		1			1	8
知多市	知多小嶋記念病院	1										1
	ナガイセントラル歯科	2										2
	上記以外	1				1	1				2	5
東海市	公立西知多総合病院	5			5			1				11
	愛知製鋼診療所	1										1
	池田耳鼻咽喉科										1	1
大府市	国立長寿医療研究センター	1				3						4
	あいち小児保健医療総合センター		3		1							4
	楓の丘子どもと女性のクリニック		2									2
	上記以外			1					1			2
名古屋市	アイ・レディースクリニック								2			2
	愛知県がんセンター中央病院	3		2				2	1			8
	熱田リハビリテーション病院	1			1							2
	N T T西日本 東海病院	2										2
	眼科杉田病院									3		3
	だいどうクリニック									5		5
	大同病院									9		9

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
名古屋市	中京病院	1	1	1	1	2						6
	中部ろうさい病院			1		1						2
	トラストクリニック	1								1		2
	名古屋市立大学病院	16	1	5	4	2	5			16	10	59
	名古屋医療センター	2			1	1	1	1				6
	名古屋掖済会病院	1			1							2
	名古屋記念病院	8										8
	名古屋市立西部医療センター			2								2
	名古屋市立東部医療センター	2		1								3
	名古屋セントラル病院	1								1		2
	名古屋第一赤十字病院	3	2									5
	名古屋大学医学部附属病院	7			1		1					9
	名古屋通信病院人間ドックセンター							1			1	2
	藤田医科大学ばんだね病院					1				1		2
	名鉄病院	1			1						1	3
上記以外	9		2	6	4		3	1		1	26	
その他県内	愛知医科大学病院	1			3						1	5
	安形医院	2			1							3
	旭労災病院	3				1						4
	渥美病院	0			1		1					2
	安城更生病院	2			1							3
	一宮市立市民病院				1				1			2
	岡崎市民病院		1								1	2
	海南病院	2			1							3
	刈谷豊田総合病院	3		3	2				1			9
	小牧市民病院				1				1			2
	済衆館病院	1			1				1			3
	豊田厚生病院	2										2
	藤田医科大学病院	21		1		2		2		9	8	43
	八千代病院				1	1						2
	上記以外	8		2	3	2		1	1	2	4	23
愛知県外	15	1		9	8		1	3	8	4	49	
合計	750	15	126	234	203	64	45	37	104	105	1683	



# 委員会活動報告

---

篠島診療所運営委員会	105
手術部運営委員会	105
放射線運営委員会	106
救急・診療委員会	106
健康管理支援センター運営委員会	107
臨床検査運営委員会	107
栄養管理委員会	108
保育所運営委員会	108
生活改善センター運営委員会	109
母子支援センター運営委員会	109
地域医療福祉連携センター運営委員会	110
リハビリテーション科運営委員会	110
資材委員会	111
倫理委員会	111
治験審査委員会	112
購買委員会	112
医療安全対策委員会	113
安全衛生委員会	113
防災対策委員会	114
院内感染対策委員会	114
廃棄物管理委員会	115
輸血療法委員会	115
医療ガス安全管理委員会	116
広報委員会	116
教育研修委員会	117
臨床研修管理委員会	117
臨床研修委員会	118
患者サービス向上委員会	118

医療情報システム委員会	119
診療情報管理委員会	119
コンプライアンス委員会	120
在宅療養支援委員会	120
人事考課制度推進委員会	121
クリニカルパス委員会	121
栄養スキンケア委員会	122
糖尿病教育委員会	122
肝臓病教育委員会	123
摂食・嚥下障害委員会	123
緩和ケア委員会	124
化学療法委員会	124
権利擁護対策委員会	125
医師業務軽減検討委員会	125
保険診療委員会	126
DPC コーディング部会	126
D S T 委員会	127
経営改善委員会	127
病床運営管理委員会	128

## ■ 篠島診療所運営委員会

(開催回数：2回)

篠島診療所の運営に関する事項について協議し、離島における病院附属診療所としての円滑な運営を図ることを目的に開催される委員会である。

平成30年度については、診療体制の確保を図るべく、担当医師が不在時の本院からの医師派遣応援を検討し、出来る限り休診としないように取り組んだ。

また、診療所で行った検査結果について、本院でも結果を閲覧出来るようデータ連携を図った。

次年度も島民の医療を確保すべく、安定した診療所運営を継続する。

## ■ 手術部運営委員会

(開催回数：11回)

取り組み内容として、例年行っている医療機器購入状況や手術件数、医療安全に関することを中心に報告し、共通認識を図った。その他関連事項についても必要に応じて協議内容とし、他職種への協力を依頼した。

今年度は、平成26年度より左右間違いが5件/年発生している現状から、左右間違い0件を目指して活動した。WHO「安全な手術のためのガイドライン」を基に、左右のある手術部位のマーキングの再検討を行った。特にリスクが起きやすい眼科に関しては、医師の協力を得ることができ、術野近くへマーキングを実施することとした。また各科医師に関しても説明を行い、意見交換を実施し、現在では全ての医師の協力が得られており、リスク発生の減少につながっている。同じくして、タイムアウトも導入した事により、左右間違い防止に貢献できていると考える。

次年度は、禁煙指導に関する事、手術部として地域住民へのアピールについて検討し、安全・安心な医療が提供できるよう取り組んでいきたい。

## ■ 放射線運営委員会

(開催回数：3回)

第1回の放射線運営委員会では年度初めとして昨年度の放射線技術科の業務報告に続き、平成29年度個人被ばく歴の有無及び評価とガラスバッチ利用者名簿の変更について説明を行った。また院内に読影医が不在となったことから遠隔読影のシステムを構築することにより画像診断について継続して行うことを確認した。

その他「第15次中期計画で整備する高額医療機器」においては平成31年度に行うCT装置の更新について協議を行った。更新にあたり撮影室の改修工事が必要となり、工事期間中もCT検査が可能となるように移動型CT装置をレンタルして準備することを決定した。その後CT装置の機種が決定されると改修工事の工程表が提示され、移動型CT装置の設置場所や患者導線、オーダーの発行方法などについて協議を行いCT装置更新期間中の対応も決定した。

次年度は実際にCT装置の更新を迎える年となるため、滞りなく準備を進めて、円滑な更新作業と新しい装置の運用を開始できるよう取り組んでいきたい。

## ■ 救急・診療委員会

(開催回数：12回)

平成30年6月から医師数が減少するなか、地域の基幹病院として救急・診療体制を見直し診療機能が継続できるよう検討した。

救急外来では、医師の負担軽減を目的に各科待機医師の( )電話対応が導入された。また、9月には知多南部消防署からの搬送率が50%を割り、10月から有志医師による午前中の救急ファーストタッチが開始され救急不応需件数の減少の取り組みが開始されたが、平成30年度の救急受入件数は、1,244件(前年度より-264件)、救急車断り件数は371件(前年度より+294件)、搬送率は77.0%(前年度より-18.3%)となった。

今年度より皮膚科の常勤医が不在となり、週3日の診察のみとなり診療制限に伴う混乱を減少させるため、平成30年10月より完全予約制を導入した。また、皮膚科の診療がない日については外科の協力を得て対応した。

その他、知多南部消防署との合同症例検討会3回/年を開催。BLS部会活動として、各部署全職員にBLS手技確認と、BLS演習を行った。

次年度の課題は、受入患者数の増加を目指し、救急・診療体制の再構築に向け、受け入れ体制の検討を行っていく。

## ■ 健康管理支援センター運営委員会

(開催回数：3回)

今年度は、例年よりも1回少ない3回の開催となった。今年度の協議事項としては、①次年度の途中で消費税が増税させる事への対応、②一般の受診者が増加しているため今年度も職員人間ドックを継続するか検討、③近年見直しをしていなかった胃カメラの問診票の変更について、④ドックの判定基準について 協議した。

また、腹部超音波と頸動脈超音波の専門医による二次読影を行うことが承認された。その他、報告事項として、今年度は日本人間ドック学会の基準値が多くの項目で変更されたこと、南知多町脳ドックに応札したが落札できなかったこと、南知多町・美浜町の乳がん検診の曜日を拡大したこと、そして冬期に実施した受診者アンケートの結果を報告した。

次年度は、料金及びドックの内容（頸動脈・甲状腺エコー）を見直すことを検討していく。また、今ある人的資源を効率的に運用して病院収益に貢献するとともに受診者のためになる取り組みを考えていきたい。

## ■ 臨床検査運営委員会

(開催回数：2回)

平成30年度の協議内容としては

- ① 厚生連臨床検査技師長会主導による統一価格交渉により大幅なコスト削減が達成できたが、当院においては医師不足による検体数の減少によって、コスト削減効果があまり実感できない結果となったこと。
  - ② 輸血管理料の取得のためのアルブミン使用量削減への取り組みとして、使用するアルブミン製剤の濃度を変更することによって、輸血管理料取得基準であるアルブミンの使用比率をおさえ、安定的に輸血管理料の基準をクリアできる体制を整えたこと。
  - ③新しい検査への取り組み  
CGM 検査件数増加への取り組みや、新たに始める認知症検査への準備の他、乳酸測定試薬製造中止に伴う血液ガス分析装置による同時測定への変更などについて協議した。  
認定認知症検査技師の資格取得を機に、臨床検査技術科においても認知症検査に取り組むことが了承された。
  - ④精度管理状況報告  
毎年継続している日臨技、日本医師会、愛知県臨床検査技師会による3つの外部精度管理調査に参加し、いずれも良好な評価を受けたこと。
  - ⑤厚臨技主導による教育プログラム作成  
各部署における業務を作業工程別に分類し、それぞれの習熟度をチェックし新人教育、卒後教育に生かすための資料を作成中であること。
- 今年度は2回のみで開催であったが、次年度は、隔月の開催を目指していく。

## ■ 栄養管理委員会

(開催回数：4回)

患者さんに提供する食事がよりよいものになるよう検討している。

平成30年度より患者の自己負担額が増加しそれにむけ朝食内容等の見直しを行った。大きな問題なく経過している。

年2回実施される喫食率調査、嗜好調査の結果を検証し喫食率の更なる向上を目指し食事内容について検討するため、平成30年度は、普通食だけではなく減塩食を対象とした嗜好調査も実施した。減塩食に対する意見を集約し、その内容について検討し、食事提供へフィードバックすることができた。次年度も患者さんの喫食率向上を目指し取り組んでいきたい。

栄養指導件数増加に向け、入院時の診療計画書に栄養指導実施の有無の記載について検討を行った。入院時に医師や看護師に栄養指導の必要性を説明してもらうことで患者さんに受け入れられやすくなり指導件数の増加に繋がった。次年度も入院、外来ともに栄養指導件数増加にむけ積極的に取り組んでいきたい。

## ■ 保育所運営委員会

(開催回数：4回)

院内保育所「かもめ園」の管理運営に関する事項について協議し、円滑な運営を図ることを目的に開催される委員会である。

平成30年度については、保護者に対するアンケートを継続実施し、保護者の満足度を測るとともに、意見集約を行うことで、さらなるニーズの把握に努めた。

また、預かり児に急な体調変化があった場合にも、働くママを周囲でサポート出来るような体制を検討し、運用していくこととした。

次年度も看護職員を中心に、安心して子供を預けつつ、働くことが出来るよう、安定した保育所運営を継続する。

## ■ 生活改善センター運営委員会

(開催回数：4回)

《目的》

- ①予防、治療、介護という医療、保健、福祉のすべての分野での支援活動に関係し「世界健康半島」の理念に基づき知多半島全域のJA組合員ならびに地域住を対象にした健康づくりに貢献をする。
- ②JA 組合員ならびに地域住民への主体的な参加を支援するための活動に関して検討する。

地域住民の健康支援活動の一貫として、健康を題材とした調理実習、ミニレクチャー（健康講話）を開催している。

委員会では調理実習、ミニレクチャーの内容についての検討、参加人員の分析を行っている。

JA ポイントカードにポイント付与を行っており参加者の約半数の提出がある。

職員食堂のテーブルの上に健康をテーマとしたポップ（ミニポスター）を置き、職員の健康意識の向上に努めている。

次年度も地域住民の健康支援活動に引き続き取り組んでいきたい。

## ■ 母子支援センター運営委員会

(開催回数：3回)

助産師を事務局とし、小児科、産婦人科の連携体制の確認や各種セミナー（母親教室、マタニティーヨガ、ベビーマッサージ、母乳育児相談、妊婦個別指導）の参加状況と分娩件数について月別で報告を行った。また、各種セミナー参加時の院内保育所利用について利用人員や問題点の有無について協議した。

次年度からは美浜町が主催する「パパママ教室」（年4回 美浜町保健センターにて開催）に当院の助産師が講師として参加、武豊町の「産後ケア事業」に参画するなど助産師の活躍の場を広げていく予定です。

さらに、産婦人科常勤医師が1名増員予定であり（常勤2名体制）、分娩についても受入件数の増加を目指していきます。

## ■ 地域医療福祉連携センター運営委員会

(開催回数：4回)

地域医療福祉連携部門の実績（病診連携、総合相談、退院調整、医療福祉相談、介護保険センター、訪問看護、短期入院協力事業）を定例報告した。また、地域医療福祉連携部が携わっている「利用者に活かす医療講座」「住民公開講座」「ACP住民講演会」「ACPの人材育成研修会」「花まつり」の開催要項及び結果を報告する機会とした。

総合相談窓口内規では、初期対応後の記録や初期対応に対するカンファレンスへの参加者について見直した。

## ■ リハビリテーション科運営委員会

(開催回数：2回)

平成30年4月26日に第21回、10月30日に第22回委員会を実施し、以下の事項について報告を行った。

①平成29年度業務実績報告および平成30年度上半期業務実績報告

②平成29年度重点実施事項報告

特に「各領域のスキルアップ」に対する結果として、糖尿病認定指導、認定理学療法士の認定取得等について報告を行った。

③稼働職員数の報告

産休、育休取得などの状況と、稼働職員状況について報告を行った。

④東海北陸厚生局適時調査に関する報告

(1) ガン患者リハビリテーションにかかるとリハビリ計画内容の説明は、開始時と3ヶ月に1回以上であるが、計画書の更新は毎月実施すべきであること

(2) 呼吸器リハビリテーションにかかるカンファレンスに医師が参加すべきであること

(3) 各疾患別リハビリテーションにかかるカンファレンス実施毎の一覧表を作成して、その中に改めて患者氏名および参加者と実施時間を記載すべきであること

(4) 疾患別リハビリテーション毎のカンファレンスは、週1回以上の開催が望ましい事等の指摘事項を報告した。

⑤平成30年度重点実施事項

診療報酬改訂への対応策としての「短時間通所リハビリテーション施設」開設についての経過報告と、前年からの課題であった「訪問リハビリ事業所立ち上げ」についての検討結果報告を行った。

## ■ 資材委員会

(開催回数：12回)

1. 目的：医薬品、検査用試薬、診療材料の採否の決定と効率的利用の検討、医療安全情報の伝達、保険査定状況報告

2. 平成30年度の活動内容

- ・新規医薬品、診療材料の採否について
- ・現採用薬品から後発・先発薬品への変更について
- ・添付文書改訂情報
- ・効能効果、用法・用量の追加変更
- ・新医薬品の投与制限解除
- ・不動態在庫一覧
- ・現在切り替え検討中の後発医薬品
- ・医薬品の供給体制の回復状況について
- ・脂肪乳剤の投与方法について
- ・当院の糖尿病治療薬（配合剤）一覧
- ・製造販売承認の承継と移管について
- ・医薬品の自主回収と代替薬品の案内
- ・医薬品の出荷調整の解除について
- ・保険査定報告

3. 平成30年度の活動要約

- ア) 新規仮採用医薬品は19品目を承認した。  
規格追加・採用復活・剤型変更等は28品目を承認した。医薬品28品目、院外専用医薬品22品目を採用中止とした。
- イ) 新規申請診療材料は45品目を承認し、規格変更は27品目を承認した。診療材料29品目を採用中止とした。
- ウ) 新規申請検査試薬は6品目を承認し、規格変更は15品目を承認した。検査試薬5品目を採用中止とした。
- エ) 後発医薬品への切り替えは4品目を承認した。

## ■ 倫理委員会

(開催回数：0回)

医師・診療に携わる者が行う医学研究及び医療行為において、患者の人権擁護の立場から倫理的配慮が図られているかどうかを審議することを目的に開催される委員会である。

当委員会は、申請がある都度開催する。

## ■ 治験審査委員会

(開催回数：12回)

「医薬品の臨床試験の実施基準に関する省令（GCP省令）」に基づき、医薬品の製造承認、及び一部変更申請時に提出すべき資料の収集、また製造販売後の臨床試験などに関する計画・実施・モニタリング・監査・記録・解析・報告などに関する遵守事項を定めて、被験者の人権・安全及び福祉を保護し、かつ臨床試験の科学的な質と成績の信頼性を確保することを目的とする。

「糖尿病性腎症：対象疾患 ARB又はACE阻害剤の投与を受けている2型糖尿病性腎症患者」

治験薬 選択的ETA（endothelin-A）受容体拮抗剤（内分泌代謝科 丹村敏則）  
※実績 原契約例数：4例、追加契約例数：1例、総同意取得例数：6例、原契約実施例数：5例（うち、観察期脱落例数：1例、治療期例数：3例→4例、完了例数：0例、中止例数：0→1例 ※治験継続について同意撤回）、追加契約実施例数：1例（うち、観察期脱落例数：1例、治療期例数：0例、完了例数：0例、中止例数：0例）、依頼者側の理由にて治験中止（2018年5月31日）

「心房細動：対象疾患 既存の経口抗凝固薬の投与が困難な80歳以上の非弁膜症性心房細動患者」

治験薬 エドキサバン（循環器内科 富本茂裕）

※実績 契約例数：4例、追加契約例数：2例、同意取得例数：6例、治療期移行例数：4例

次年度は、さらなる治験案件を取得し治験業務の拡大に貢献できるよう取り組んでいきたい。

## ■ 購買委員会

(開催回数：1回)

事業年度における固定資産（器械・備品・車輛）取得要望品を適正に審議し、効率的に固定資産取得を行うことを目的に開催される委員会である。

平成30年度固定資産取得状況一覧表に基づき取得結果を報告した。

また、平成31年度固定資産予算枠に対し、各部署申請者より申請理由を説明後、固定資産取得品の選定を委員会として行った。

## ■ 医療安全対策委員会

(開催回数：12回)

委員会は定例開催12回開催している。

平成30年度の医療安全報告提出件数は849件となった。毎月の医療安全報告書から2～3件を事前レポート検討部会で検討し委員会で共有と対策を行った。更に各部署で医療安全カンファレンスを実施しPDCAサイクルを機能させ医療安全の推進、共有、分析から対策を立案し再発予防に努めた。カンファレンス開催件数は146件、対策後の評価カンファレンスは52件となり昨年度より142件増加した。しかし医療安全報告件数も昨年度より58件増加している。

平成30年度医療安全報告書件数(月)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
93	70	95	75	73	47	68	58	80	66	53	71

委員会では年間計画を立案し医療安全対策委員巡視を年12回実施している。結果は委員会で共有し各部署へのフィードバックを行い改善に取り組んだ。今後も継続していく。しかし巡視部署が看護部への偏りがあるため来年度は全部署が目標を提示し、目標に関連した巡視内容で全部署の巡視を実施する。

医療安全全体研修を年2回開催し計画・運営を行った。研修参加率は前期、後期共に57.7%であり、特に医師の参加率が低いことが課題である。来年度は研修内容の見直しと医師への周知方法の徹底を行い参加率の向上を図る。

## ■ 安全衛生委員会

(開催回数：12回)

職員の業務上の災害防止及び健康増進を図ることを目的に開催される委員会である。

平成30年度については、平成29年度保健所立入検査の指摘事項を受け、定期健康診断の受診率100%を目指した案内方法の変更や、未受診者への受診勧奨を行った。その結果として受診率100%を達成することができた。

また、例年同様ストレスチェックやB型肝炎の予防接種、インフルエンザの予防接種を実施した。

## ■ 防災対策委員会

(開催回数：2回)

知多厚生病院における火災、震災その他の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を図ることを目的に開催される委員会である。

災害時の各班における個々の役割を理解するために、班ごとにテーマを設定し机上訓練を実施し、職員の啓発に努めた。また、災害時にどの役割になっても行動ができるようアクションカードを使用した地域災害拠点病院災害連係訓練を行ない、検証を行うとともに、地域の2病院にも参加いただき、当該地域における医療体制の連携構築に努めた。

## ■ 院内感染対策委員会

(開催回数：12回)

1. 下記の内容で報告・協議を行った
  - ・院内感染症報告について
  - ・院内感染対策リンクナース委員会報
  - ・抗菌剤使用報告
  - ・手指消毒剤の使用量について
  - ・部署別検出菌出現頻度報告
  - ・厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業の新着情報について
  - ・ICT ラウンドについて
  - ・針刺し・切創事故報告について
  - ・知多半島医療圏感染対策連携会議について
  - ・マニュアルの変更について
  - ・抗菌薬と消毒薬の採用・削除について
  - ・研修会のお知らせ

### 2. その他の活動

全体研修として、1回目が平成30年5月15日、30日に「インフルエンザ、院内環境ラウンドの報告・薬剤耐性（AMR）対策アクションプランについて」を、2回目は、平成30年12月18日、27日に「薬剤耐性菌の検出状況について、院内ラウンドの報告・抗菌薬の使用状況と薬剤耐性（AMR）対策アクションプランについて」を開催した。

季節性インフルエンザについては、年末・年始に受診患者が激増する異例の流行状況ではあったが、病棟を閉鎖しなければいけないほどのアウトブレイクはなかった。

## ■ 廃棄物管理委員会

(開催回数：1回)

廃棄物処理及び清掃に関する法律に従って、適正に管理及び処理することを目的とする。

昨年度の委員会にて検討を行った費用削減のために感染性廃棄物容器の変更についての効果報告をした。感染性廃棄物以外のゴミを捨てないように周知徹底した効果が高く、費用削減に繋がったと考えられる。

感染性廃棄物の収集運搬および廃棄業者の値上げ要求に対して、新たな業者も模索検討した。

## ■ 輸血療法委員会

(開催回数：6回)

今年度の活動としては、例年通り輸血製剤・血漿分画製剤の使用報告、輸血感染症の実施状況、廃棄血の本数及び廃棄金額の報告、輸血用製剤の査定・再審結果報告、輸血時副作用発生報告を2ヶ月ごとに行った事に加え、①製剤使用時の副作用観察記録のテンプレート化②高張アルブミン製剤の濃度変更(25%→20%)③無輸血を希望する患者への病院対応(マニュアル)変更への働きかけなどがあげられる。

①は個人により異なっていた観察記録をテンプレート化することにより、簡便かつ統一された書式で作製することができるようになった。臨床からもおおむね好評の声を頂いている。

②は近年アルブミン製剤の使用量が増加しており、輸血管理料の取得が危ぶまれるほどに至ったため実施した。その効果もあってか、昨年はゆとりを持って基準を満たすことができた。

③の無輸血を希望する患者への対応は非常に繊細であり、たとえ患者の希望どおり治療しても訴えられることさえある。職員を守るためには現行の病院方針(マニュアル)では不十分と考え1年かけて素案を作成した。今後、倫理委員会や管理者会議に諮る予定である。

来年度は医療安全など他の委員会とも協力し、臨床に『血液製剤を適正に使用する意識』を根付かせ、安心して安全な輸血環境が整うよう取り組んでいきたい。

## ■ 医療ガス安全管理委員会

(開催回数：1回)

医療ガス（診療の用に供する酸素・各種麻酔ガス・吸引・医療用圧縮空気・窒素等）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

医療ガス設備保守点検結果の報告および翌年度の年間計画について協議を行なった。医療ガスに関する啓蒙教育として「ヒヤリハット事故事例」について職員教育を実施した。

## ■ 広報委員会

(開催回数：12回)

主な取り組み内容として、例年通り外部向けの広報誌を4回、院内向けの広報誌を3回発刊した。今年度の外部向け広報誌では、手術内容や産婦人科について、2ページでの特集内容を掲載し、PRに繋がるよう意識して作成した。

その他、年報の見直しとホームページのリニューアルについて取り組みを行った。年報は、長年見直しがされていなかったため、統一かつ充実した内容になるよう検討を行った。今後も定期的に見直しを行い、より良い年報を作成していきたいと考えている。

ホームページリニューアルでは、現行のホームページとなってから約10年が経過し、スマートフォン非対応に加え、ページ階層を多さにより閲覧がしにくいなどの問題点が多く挙がっていた。そこで、今回のリニューアルでは、閲覧者の視点になり、シンプルで明るいデザインを意識して見直しを行った。更新は平成31年5月を予定している。

次年度は、ホームページのスムーズな更新と広報誌の充実を図り、病院PRに貢献できるよう取り組んでいきたい。

## ■ 教育研修委員会

(開催回数：2回)

当委員会は

- ① 全職員に共通して必要と考えられる教育・研修について、その体制・計画立案・実施・結果評価・評価フィードバックをすることで、より高度なチーム医療の構築を目指すこと。
- ② 患者自身の医療への主体的な参加を支援するための活動（講演会・健康教室開催等）に関して検討すること。
- ③ 図書室運営に関する事項について協議し、円滑な運営を図ること。
- ④ 図書の購入・貸し出しについて必要な手続きを定め、遂行することを目的に開催される委員会である。

平成30年度については、4月に新規採用者オリエンテーションを実施し、7月から8月にかけて地元中学生、高校生を対象とした職場体験実習の受け入れを行うとともに、12月には日本農村医学会報告会を開催した。

## ■ 臨床研修管理委員会

(開催回数：1回)

知多厚生病院及び関連病院、関連施設における医師臨床研修を統括管理することを目的に開催される委員会である。

平成30年度については、在籍する初期研修医の1年間のローテーション結果について報告するとともに、研修医確保に向け様々な取り組みを行った結果として、初期研修医1名を確保したことを報告した。

また、2020年度より施行される臨床研修に関する省令の一部改正に伴い、2020年度以降の臨床研修プログラムについて見直しを検討した。

次年度も、在籍する研修医の研修がより一層充実するようなサポートを継続するとともに、研修医確保に向けて、多くの説明会への参加や医学生等の病院見学及び病院実習の受け入れを継続する。

## ■ 臨床研修委員会

(開催回数：1回)

研修医が初期の目的を達成するために、臨床研修プログラム、部署間・職種間との連携、研修医の処遇等を充実させることを目的に開催される委員会である。

主な取り組みとして、2020年度より施行される臨床研修に関する省令の一部改正に伴い、2020年度以降の臨床研修プログラムについて見直しを検討した。

また、臨床研修指導医について、指導医講習会の未受講の医師に対して受講促進を図った（平成30年度1名受講）。

その他、研修医確保への取り組みとして、各種病院説明会等へ参加するとともに、医学生について多数の病院見学や病院実習を受け入れた。

なお、当院では初期研修医のへき地医療研修について積極的に受け入れを行っており、平成30年度については20名を受け入れた。

次年度も、在籍する研修医の研修がより一層充実するようなサポートを継続するとともに、研修医確保に向けて、多くの説明会への参加や医学生等の病院見学及び病院実習の受け入れを継続する。

## ■ 患者サービス向上委員会

(開催回数：10回)

患者サービス向上委員会は、『患者さんから選ばれる病院』を目指し、より良い患者サービスを提供し、患者満足度の向上を図ることを目的とする委員会である。

平成30年度については、マナーブックの更新を行い、職員に周知活動を行った。更新に伴い、各部署へ現状の運用を確認し、更新案を募ることで、より良いものとする事が出来た。

## ■ 医療情報システム委員会

(開催回数：12回)

例年通り月間の NEC 作業内容の報告と、システム障害への対応について報告を行いながら、各々の部署で類似した、対応が必要な案件がないか確認を行った。

他に、「注意メモ」機能の運用について検討を行った。権利擁護対策委員会から、虐待をしていると疑われる患者について、職員への注意喚起のため電子カルテに表示したいと相談があった。見つけやすく、かつ患者に電子カルテを覗き込まれるリスクを考慮した上で検討した結果、「注意メモ」機能を使用することが最良であると委員会で判断し決定した。

また篠島診療所から本院で検査を実施するよう依頼し、篠島診療所に返した結果データについて、本院を受診した際にそのデータが参照できるような環境にしてほしいと要望があった。部門システムメーカーと連携して、電子カルテ内にはない、実施した際の検査結果データを電子カルテ端末から参照できるようにしている。委員会では実際の現場での運用について検討した。

次年度も、医療情報の管理・運営の向上を目指し、医療情報システムが円滑かつ安定稼動することにより、病院の発展に寄与できるよう取り組んでいきたい。

## ■ 診療情報管理委員会

(開催回数：12回)

退院サマリーの記載率向上を目指し、各医師に督促を行った結果を委員会にて報告、更衣室や医局に貼り出すことで、意識向上を目指した。その結果記載率の向上が数字に表れたため、14日以内の退院サマリー作成率が100%に近づくよう督促活動は今後も継続していく。

診療録に関しても、開示の際に原本を紙媒体でファイリングし、保管場所を確保して管理を行っていたが、原本をデータ化して管理することで用紙費・ファイル費の削減や保管場所の問題を解決することができた。

また、診療録開示要領に関しても現状を踏まえた上で修正を行った。

今後も、退院サマリー記載率向上や診療録に関して改善すべき点があれば改善を行っていく。

次年度の課題として診療録の保管場所や管理状況の現状を把握し、話し合っていく必要があると考えている。

タイムスタンプや QR コード等のシステムの対応も考えており、次年度は予算や運用等を考えていく必要がある。

## ■ コンプライアンス委員会

(開催回数：4回)

法令、道徳、社会規範、倫理、内部規定について公正かつ公平な業務遂行を行うために、全職員がコンプライアンスに関する認識を深め、共通に遵守することを目的に開催される委員会である。

平成30年度については、コンプライアンス事案発生時の報告態勢について、再度の徹底を図るため、チェック機能を強化するとともに、全職員を対象に報告方法等に係る周知活動を行った。

このことに加え、各事業所における発生事例を院内で共有し、当院での未然防止に向けて検討を行った。

また、平成30年度より、コンプライアンスに係る自己点検を従来のペーパーではなく、WEBで実施し、職員においては回答時間の短縮、また、用紙の配布、回収、集計等においても省力化、効率化が図られた。なお、当該結果については、当委員会を通じて職員へフィードバックしている。

次年度も、職員教育を継続し、コンプライアンスに係る意識醸成に努めることとする。

## ■ 在宅療養支援委員会

(開催回数：12回)

毎月定例の訪問看護・居宅介護支援事業所からの退院後の経過報告により、退院後の振り返りを行った。入院中の退院困難事例を随時共有し、課題を整理し対策を検討した。

診療報酬改定に伴い、入退院支援の流れを見直した。退院調整フロー図は修正し、宇都宮宏子氏による退院支援に関するビデオ上映の開催により、退院支援促進を働きかけた。入院時支援は、運用決定後に周知を図り、実績を示した。

「利用者に活かす医療講座」に参加しグループワークを通して、ケアマネジャーや施設相談員等の地域の関係者と、それぞれの専門性や立場を理解し合うことができた。

その他に、マニュアルの「訪問看護利用の手順」を確認、退院指導パンフレットの「気管切開されている方の吸引」「気管切開（チューブの取り扱い）」を修正した。「療養病床入所の流れ」のマニュアルは、平成31年4月に見直しを終える予定である。

次年度は、入退院支援の質が向上し、効率的な病床運営へつながるように取り組んでいきたい。

## ■ 人事考課制度推進委員会

(開催回数：2回)

人事考課制度の運用面に関する課題・問題点を協議・検討し、制度の円滑な運用を図ることを目的に開催される委員会である。

平成30年度については、人事考課及び目標課題の設定を円滑に行えるよう、制度周知を行った。

また、前年度の考課結果をフィードバックする中で、他職種による評価の困難性等について意見交換を行い、改善に繋がった。

次年度においても、適正な制度運用に向けて周知活動を継続する。

## ■ クリニカルパス委員会

(開催回数：7回)

今年度はまず委員会のあり方を検討した。今までは、パスデータ管理やパス使用件数などの報告が多かったため、委員会は1回/奇数月とし、その代わりに偶数月をパス分析の月とした。分析には、医師、看護師だけではなく他職種もメンバーとし、専門的な立場から意見交換が行えるようにした。パス分析にはDWHを使用し、その結果を基に評価、見直しを行った。医事課にはパスがDPCとリンクし、妥当か否かの評価について協力を依頼した。平成30年度は3つのパス分析を行ったが、次年度は分析数を増やし、また患者用パスやアセスメントも見直しを行い、使いやすいパス作成をしていきたい。

今年度も新人への教育のひとつとして、パスについての講義を、パス委員の医師と看護師で行った。次年度も継続していく。

## ■ 栄養スキンケア委員会

(開催回数：6回)

知多厚生病院に関わるすべての患者を対象として、栄養障害のある患者を抽出し、統一した基準にて栄養管理を行うこと、また褥瘡発生の予防およびスキントラブルにおける創部の処置方法と栄養管理について検討を行うことを目的として活動を行っている。

週1回のNSTラウンド、週1回のスキンケアラウンド、月2回の栄養サポート外来、月1回の褥瘡外来を実施した。また、知識の向上および情報共有を目的とし年6回のNST栄養スキンケア勉強会および、年9回ランチミーティングを開催した。その他Webセミナー等も開催し、知識習得の場を提供できたと考える。7月には知多半島圏内で作る栄養サポートフォーラムの当番世話人病院を務めた。10月には地域に向けた勉強会として「第20回 高齢者の褥瘡と栄養を考える会」を主催し、参加者72名と盛況であった。

今年度の院内新規褥瘡発生率は0.83%であり、やや高い傾向であった。次年度は0.6%まで下げることが目標に、よりいっそうの予防ケアおよび周知教育を行っていききたい。

院内全体の栄養とスキンケアに関する知識の向上を図った。次年度も引き続き、学会参加や発表、勉強会の開催等を積極的に行い、院内だけでなく院外へも新たな情報を発信し貢献できるよう努めていきたい。

## ■ 糖尿病教育委員会

(開催回数：6回)

主な取り組み内容として、例年通り委員会を6回、糖尿病教室を6回開催した。

医師、栄養士、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士が専門知識を活かして連携し、外来糖尿病教室の運営を行っている。講義4回と食事会2回を実施した。糖尿病教室終了後アンケートを実施して、委員会で評価している。参加者の生の声を聞く事で、次回も参加したいと思えるより良い教室を運営していきたいと考える。また、正しい知識を習得し糖尿病と共に生活できるように他職種と支援したいと考える。

次年度は、教室の講義内容の見直しを行うことと、糖尿病についての勉強会を定期的で開催する計画とし、糖尿病患者さんへのケア向上に努めていきたい。

## ■ 肝臓病教育委員会

(開催回数：5回)

肝臓病教育委員会は、肝臓病を患っている患者さんに正しい知識や治療情報を提供する事で、患者さん自身に自分の病気について正しく理解していただく事を目的とし、平成14年に結成された。内科医師、内科系看護師(外来)、薬剤部、栄養科、臨床検査技術科、医事課より選出され7名で構成されている。

当委員会では、年5回肝臓病教室を開催し肝臓病について各委員が専門的な立場から参加者に有益となる講義を行い、平成14年9月に第一回を開催し今年度中に開催回数も100回を超えます。

C型肝炎ウイルスの一部には、治療薬に耐性であるウイルスも存在していたが、近年新しい治療薬が次々に開発され、高い治療効果も望める時代へ移ろうとしている。また、de-novo肝炎や非アルコール性肝疾患患者の増加など新たな肝疾患対策が必要とされ始めている。

今後も肝臓病委員会に関わるスタッフが、新しい治療法の正しい知識を習得し肝臓病教室で地域の皆さまに伝えていきたいと考えます。

一方、課題として開催当初50名近くいた参加者が、講義内容を大きく変更できないこともあり、参加者が年々減っているのが現状である。今後は、地域性を考慮し院外での実施などの新しい試みを行っていきたい。

今後もこの地域の肝臓病診療の中心となれるよう努力していく。

## ■ 摂食・嚥下障害委員会

(開催回数：9回)

主な活動として、対象患者の昼食ラウンドを行った。入院時摂食・嚥下障害アセスメントシートで必要とされる患者をピックアップし、ST、管理栄養士とともにダイニング、部屋での姿勢、食形体、食事摂取状況の確認を行った。食事介助方法や姿勢などその場で委員会メンバーを通じて助言、指導を行った。管理栄養士もラウンドに参加しているため、食形体についての意見などタイムリーに実際の食事で見えし伝えることができた。

委員会の中では、栄養科から相談、提案があった嚥下食の試食を行い、より安全においしく食べられる食形体について検討を行った。また、実際に入院中の患者さんに対して口腔ケア、嚥下評価など実践し嚥下障害患者に対する知識や技術の確認を行った。

次年度も引き続き食事ラウンドを継続し、加えて以前実施していた口腔ケアラウンドを行い口腔内環境を整えていく。

## ■ 緩和ケア委員会

(開催回数：6回)

緩和ケアチームの構成メンバーとして、身体症状担当医師、精神症状担当医師、薬剤師、管理栄養士、がん性疼痛看護認定看護師を中心にコンサルテーションを受けた院内のがん・非がん患者に対して身体的苦痛・精神的苦痛など全人的苦痛への緩和ケアに対する提案、副作用の確認などを毎週月曜日にラウンドを通して実施している。また、緩和ケアへの具体的な介入方法などについて周知を継続している。

平成30年度の緩和ケアチームへの依頼は、109名で主な疾患は胃がん、大腸がん（手術不適応患者含む）、乳がん、肺がん、膵臓がんなどだった。依頼内容は、がん性疼痛が主で、その他にせん妄や悪心や呼吸困難感の対応についての依頼も多かった。

自己研鑽において、薬剤師は日本緩和医療薬学会、がん性疼痛看護認定看護師は日本緩和医療学会へ参加し、それぞれ最新の動向を委員会メンバーに周知した。

次年度は、非がん患者（心不全など）の緩和ケアにも取り組んでいきたいと考えている。また、院内の緩和ケア学習会を企画・開催し、委員会メンバーを含め、職員が緩和ケアの知識を深められるように支援していきたい。

## ■ 化学療法委員会

(開催回数：6回)

主な取り組み内容としては、新規申請のあった化学療法レジメンの妥当性を委員会で検証・承認を行ない、レジメン登録を行った。今年度の新規レジメン登録件数は8件であった。また、新たな効能・効果を得た薬剤、レジメン登録対象ではない内服抗癌剤について情報提供に努めた。

その他、抗癌剤に関わったインシデント報告及び対処について協議の上解決策を決定した。

また、医療スタッフの知識向上を目的とした抗癌剤に関する勉強会を委員会主催にて開催した。

開催日、演題、発表者を以下に記す。

- 第一回 2018/6/5 「化学療法の理論」  
村元 雅之 副院長
- 第二回 2018/10/2 「薬剤について」  
薬剤部 大平勇二
- 第三回 2019/2/5 「副作用について」  
看護部 山本和美

免疫チェックポイント阻害剤など新たな系統薬剤が臨床にて使用され始めているが、新たな副作用、運用の難しさなど取り組むべき課題が増加している。当院抗癌剤治療の安全面を担うよう邁進していく。

## ■ 権利擁護対策委員会

(開催回数：2回)

「虐待対策委員会」の名称を、虐待というフレーズにより患者・家族に伝わるリスクを回避するために、「権利擁護対策委員会」へ変更した。

主な取り組みとして、虐待疑いのある患者への対応が円滑に行われるような仕組み作りを行った。対応する職員が判別できるように、電子カルテ上に注意情報を表示する運用を開始した。また、虐待疑いのある患者への対応経過が、関係スタッフ間で共有できるように経過記録「権利擁護対応に関する経過記録」を作成して、電子カルテ上で入力・閲覧できるようにした。

その他に、虐待事例の対応について検討し、児童相談所との連携について委員会として支援方針を決定した。他に次年度の委員長、診療部からの委員の選任について検討した。委員会内で対応した事例は2件であった。

次年度は情報共有のための仕組みが適切に運用されているか検証していきたい。

## ■ 医師業務軽減検討委員会

(開催回数：12回)

主な取り組み内容として、医師の事務作業の代行・補助業務をすることにより、医師の業務負担軽減に繋がり、診療業務に専念できる環境をつくり、またそれに伴い勤務医負担軽減計画（見直し）を作成・進捗確認している。

勤務医負担軽減計画より勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施と短時間正規雇用医師の活用の計画が実施される。勤務医負担軽減に係る達成度評価より栄養指導の予約入力の実成状況90%であったが、診察前の栄養指導の場合、医師に予約入力を依頼しているため100%は難しく、現状維持となる。

平成30年度は医師減少に伴い、11月に医師へ業務内容に関するアンケートをとり、医師の要望を聞き業務負担軽減に努めている。その中でも、主治医意見書の作成に時間がかかるとの意見があり、要望のある医師には介護保険更新の患者であれば基本情報を入力し、医師へ依頼することで業務負担軽減に繋がった。

医師減少・病棟再編もあったためか全体的に書類件数の減少もみられたが、平均作成日数は7日以内で完了している。

次年度の課題としては、勤務医負担軽減計画を中心に活動し、医師の要望に応え、書類平均作成日数も7日間以内を目指し取り組んでいきたい。

## ■ 保険診療委員会

(開催回数：12回)

主な取り組み内容として、査定、返戻、再審査結果を毎月報告した。査定、返戻に対して、アクセスによる機械的チェックを行い、査定・返戻件数減少に努めた。また、医師と協議し、積極的に再審査請求をかけた。その結果、同規模病院や病院合計と査定率を比較しても、一番低い数値となった。

支払基金、国保連合会からの通知文書について委員会で周知し、協議を行い、対策を立てていくことで査定・返戻の減少に繋がった。

後発医薬品使用体制加算について、資料を用いて周知した。委員会にて協議し当院は現状の後発医薬品使用体制加算4を維持することが決まった。3ヶ月平均で後発医薬品の使用割合60%を維持するため、毎月報告を行った。

転院時の退院処方について査定が多く資料を用いて協議した。転院時の退院処方は原則算定不可であるが、転院先との調整が必要となるため、他病院の状況を鑑みて残薬含め3日間の投与まで認める方針となった。

次年度は、経営改善・業務調整委員会の一部として各部門に査定・返戻の報告を行う。

### 【平成30年度】病院計査定比較結果

	当院	病院計
社保	0.20%	0.29%
国保	0.15%	0.35%
通計	0.16%	0.33%

## ■ DPC コーディング部会

(開催回数：12回)

本部会は、DPC対象病院の要件として、適切なコーディング(適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう)を行う体制を確保することを目的に、年4回開催しなければならない。

主な取り組み内容として、医療資源を最も投与した病名変更例の資料を作成し、ICDコードの正しい選択、手術・処置等がありとなる症例等を報告した。

「DPC出来高差マイナス10万円以上」をヒラソルで抽出し、正しいコーディングが選択されていたか、協議・確認をした。

包括評価対象や包括評価対象外(出来高)になるケースを資料を用いて周知した。

次年度は、経営改善・業務調整委員会の時間を利用し、コーディング部会として、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的に、年4回開催する。

以下、平成30年度報告件数

- ①医療資源を最も投与した病名変更例
- ②DPC出来高差▲10万円以上の症例

開催年度	内容	合計件数
平成30年度	①	34件
	②	18件

## ■ D S T委員会

(開催回数：12回)

平成26年度に愛知県の認知症対応力向上事業に参加したことを契機に院内でDSTサポートチームを結成し、サポートチームを中心にワーキンググループにて認知症患者対応マニュアルの作成や院内ラウンドを実施するなど、年々増加する認知症患者へ対応してきた。

認知症ケアの質的向上が必須となってきたことと診療報酬改定において「認知症」に対する評価がされたことに伴い、平成29年度より、これまでのワーキンググループからDST委員会として活動を開始した。

平成30年度は毎月DSTメンバーと病棟看護師によるDSTラウンドを行い、認知症患者に対する看護の負担軽減策やケアについてアドバイスをを行った。また、委員会メンバーを中心に年5回の認知症全体研修会を開催し、当院での事例報告やユマニチュードについて学び、職員に対する認知症ケアの知識と質向上に努めた。毎月の委員会では認知症ケア加算の算定状況や算定に必要な看護計画の立案状況などを報告し加算に対する意識向上を図った。

次年度も継続して活動を行うとともに、認知症患者対応マニュアルの内容充実を検討していきたい。

### ・平成30年度 研修会

6月 16日	ユマニチュードについて	認知症患者の運転免許について
8月 21日	せん妄について	せん妄患者の看護
10月 16日	高齢者の特徴と認知症の世界	認知症対象事例
11月 20日	認知症対応事例	認知症診断に関わる諸検査
2月 19日	脳梗塞後の脳血管性認知症	眠剤について

## ■ 経営改善委員会

(開催回数：12回)

平成29年度より当院の経営改善を主な目的として、様々な増収策や費用削減策を多職種で検討するために業務検討委員会を改称し経営改善委員会とした。

平成30年度の主な取り組みは今年度より開始した費用削減策の検証（清掃とごみ回収頻度の削減による費用削減、医薬品在庫定数の見直し）、業務の効率化（院内巡視の簡略化）や業務改善報告会の開催である。

費用削減策の清掃・ごみ回収頻度の削減では各部署協力のもと、年間で約560千円の削減ができた。その後の検証でも各部署より問題点や不都合が出ることなく現在も継続出来ている。在庫定数の見直しでは薬剤部主導のもと、使用頻度の低い医薬品等の外来や病棟の配置定数の見直し（削減）を行った。

また、業務改善報告会は今年度は5題の発表があり、その多くが費用削減を意識した発表となった。

当委員会では上記の取り組みのほか、毎月定例で損益計算書を用いた収支報告を行っており、費用削減など職員の経営改善の意識醸成が出来つつあると感じている。

次年度からは各部門の室長クラスを集め、経営改善・業務調整委員会と名称変更し経営改善はもとより各部門間で業務がスムーズに行えるよう業務調整機能も含めた委員会へと改組する予定となっている。

## ■ 病床運営管理委員会

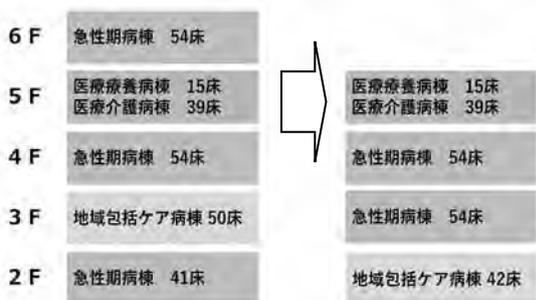
(開催回数：13回)

平成30年度は医師不足（常勤医の減少）がより一層顕著となった年であった。医師不足の影響から入院患者数が減少し、空床が目立ち、平成30年7月頃から本格的に病床再編を検討した。具体的には12月より1病棟を休床することにより、職員の集約化と病棟の効率的運用を図った。

当委員会が中心となり、12月の病床再編に向け、患者移動検討部会（当日の大移動の際、どの患者をどの病室へ移動させるか等を検討）・設備改修検討部会（再編に伴い病床機能の転換も行うため設備面の検討）・病室整理部会（個室料金等の整理）を下部組織として編成し、急ピッチで再編を進めた。当委員会では、各部会からの報告を元に各部会で問題となっている事項について協議、検討してとりまとめを行い、再編についての職員周知会も主催し、職員への理解を求めた。

病床再編以外にも各病棟の入退院の状況や医療看護必要度の管理を行うとともに、DPCデータを用いた各種病床運営の指標となる数値について毎月報告を行った。

平成30年度は病床再編を行い、当院にとっても大きな変革の年となったが、診療部、診療協同部、看護部、事務部等一体となって病床運営の効率化や経営危機の脱却に向けて取り組むことができた。



# 學術統計

---

患者教室・院内講座 .....	131
学会・研究会発表 .....	134
院外講演会・勉強会講師 .....	137
論文・雑誌掲載 .....	143



## ■ 患者教室・院内講座

### 1. 住民公開講座

日時	テーマ	講師	人数
9月1日 14:00～15:00	認知症を知る	福島庸行（医師）	88
2月1日 14:00～15:00	睡眠時無呼吸症候群について	小森克彦（医師）	25

### 2. ミニレクチャー

日時	テーマ	講師	人数
4月20日 13:00～14:00	食後高血糖にご用心	丹村敏則（医師） 吉田健一（薬剤師）	21
5月18日 13:00～14:00	高血圧から始まる怖い病気	富本茂裕（医師） 伊藤美香利（管理栄養士）	13
6月15日 13:00～14:00	健康診断からわかること	青山晃士（保健師） 山本来夢（管理栄養士）	13
7月20日 13:00～14:00	転倒予防で寝たきり予防	村元雅之（医師） 服部香那子（理学療法士）	8
8月17日 13:00～14:00	アンチエイジングとエクササイズ	栞山碧（理学療法士） 伊藤美香利（管理栄養士）	14
9月21日 13:00～14:00	薬と上手にお付き合い	鈴木咲芳（薬剤師） 内田理恵子（管理栄養士）	11
10月19日 13:00～14:00	脂質異常症	丹村敏則（医師） 深見沙織（管理栄養士）	17
11月16日 13:00～14:00	脳梗塞の予防	福島庸行（医師） 横田剛裕（看護師）	16
12月14日 13:00～14:00	花粉症に関連する食物アレルギーについて	安井奈津子（医師） 山本来夢（管理栄養士）	3
1月18日 13:00～14:00	認知症予防のためのエクササイズ	榊原実希（作業療法士）	19
2月15日 13:00～14:00	あなたの生活習慣大丈夫ですか	青山晃士（保健師） 伊藤美香利（管理栄養士）	6

日時	テーマ	講師	人数
3月15日 13:00～14:00	乳がんの予防	村元雅之（医師） 奥本由紀枝（放射線技師）	6

### 3. 調理実習

日時	テーマ	講師	人数
4月20, 27日	血糖をあげにくい食事	山本来夢（管理栄養士）	9
5月18, 25日	高血圧を予防する食事	中井瑛恵（管理栄養士）	12
6月15, 22日	健康食を考える～地中海料理～	内田理恵子（管理栄養士）	13
7月20, 27日	夏バテ予防の健康食	中井瑛恵（管理栄養士）	12
8月17, 24日	夏野菜活用術	山本来夢（管理栄養士）	12
9月24, 28日	腸から健康に	内田理恵子（管理栄養士）	13
10月19, 26日	健康食を考える～和食～	片岡千咲（管理栄養士）	13
11月16, 30日	血管をさびさせない食事	内田理恵子（管理栄養士）	12
12月14, 21日	食物アレルギーについて考える	山本来夢（管理栄養士）	13
1月18, 25日	風邪に負けない体をつくる食事	片岡千咲（管理栄養士）	15
2月15, 22日	飲み込みが悪くなった人の食事	内田理恵子（管理栄養士）	10
3月15, 22日	脂肪は質が大事！！	山本来夢（管理栄養士）	11

### 4. 糖尿病教室

日時	テーマ	講師	人数
4月21日 10:00～11:30	糖尿病について 検査について 食事療法について	丹村敏則（医師） 山下愛（臨床検査技師） 片岡千咲（管理栄養士）	37
6月16日 11:00～12:00	食事会	片岡千咲（管理栄養士）	28
8月18日 10:00～11:30	糖尿病と歯周病について 合併症について 食事療法について	榊原武（歯科医師） 吉田健一（看護師） 片岡千咲（管理栄養士）	29
10月6日 10:00～11:30	糖尿病について 運動療法について	丹村敏則（医師） 栗山碧（理学療法士）	28

日時	テーマ	講師	人数
12月15日 11:00~12:00	食事会	片岡千咲（管理栄養士）	28
2月16日 10:00~11:30	糖尿病について フットケアについて 薬物療法について	丹村敏則（医師） 吉田健一（看護師） 末吉真樹（薬剤師）	35

## 5. 肝臓病教室

日時	テーマ	講師	人数
5月19日 10:30~12:00	アルコールと肝臓病	高橋佳嗣（医師）	13
7月21日 10:30~12:00	血液検査結果について 慢性肝炎について	（臨床検査技師） 高橋佳嗣（医師）	12
9月15日 10:30~12:00	お薬について 慢性肝炎の治療について	（薬剤師） 高橋佳嗣（医師）	15
11月17日 10:30~12:00	食事療法について 肝硬変について	（管理栄養士） 高橋佳嗣（医師）	9
1月19日 10:30~12:00	日常生活の注意点 肝がんについて	（臨床検査技師） 高橋佳嗣（医師）	8
3月16日 10:30~12:00	自己免疫性肝炎	高橋佳嗣（医師）	10

## ■ 学会・研究会発表

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第67回 日本農村医学会 ランチョンセミナー 「家族介護者を含めた広義のチーム医療連携」	丹村敏則 (医師)	平成30年10月10日 東京ファッションタウンビル (東京都)
第7回日本くすりと糖尿病学会 ランチョンセミナー 「高齢者糖尿病におけるチーム医療の意義」	丹村敏則 (医師)	平成30年10月13日 ウインクあいち (愛知県名古屋市)
日本緩和医療学会東海北陸支部 学術大会 パネルディスカッション 「地域で生きるために」	丹村敏則 (医師)	平成30年11月3日 名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)
平成30年度日本東洋医学会東海地方学会 「高齢者の睡眠薬の適正使用及び減量・中止をめざした診療」	丹村敏則 (医師)	平成30年11月18日 名古屋大学 (愛知県名古屋市)
第67回 日本農村医学会 診療放射線技師が常駐していない離島診療所の放射線機器管理への取り組みと課題	高橋 健太 (診療放射線技師)	平成30年10月10日～12日 TFT ホール (東京都江東区)
第68回日本病院学会 血液ガス分析装置 Rapid Point 500 における塩化ベンザルコニウムの影響	村上 智美 (臨床検査技師)	平成30年6月28～29日 石川県金沢市
第20回知多半島栄養サポートフォーラム 二次性サルコペニアによる摂食嚥下障害から2度回復し3食経口摂取可能となった症例～NST・リハビリが早期に介入して	石川 ゆき (言語聴覚士)	平成30年7月7日 セントレアホール (愛知県常滑市)

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第10回知多中南部訪問リハ情報交換会 医療介護同時改訂における取り組み状況	大崎 浩 (理学療法士)	平成30年 7月14日 半田市福祉文化会館 (愛知県半田市)
愛知県理学療法士会 知多ブロック症例検討会 脳梗塞により体幹機能低下が予測された症例に対する体幹機能評価とアプローチ～Trunk impairment scale を用いて	内田 周汰 (理学療法士)	平成30年 9月27日 星城大学 (愛知県東海市)
第67回 日本農村医学会 当院における持続性選択的DPP-4阻害剤使用患者の実態調査	高松 真衣 (薬剤師)	平成30年10月10日～12日 TFTホール (東京都江東区)
第20回 日本骨粗鬆症学会 各骨吸収抑制剤の血清カルシウム値に与える影響	後藤 恵利佳 (薬剤師)	平成30年10月20日～21日 長崎ブリックホール (長崎県長崎市)
平成30年度 第2回 厚生連薬剤師会 相互啓発研修会 当院における外来化学療法患者への電話相談の取り組み	石川 奈央佳 (薬剤師)	平成30年9月15日 JA愛知厚生連 足助病院 (愛知県豊田市)
平成30年度 第2回 厚生連薬剤師会 相互啓発研修会 当院における外来化学療法患者への電話相談の取り組み	石川 奈央佳 (薬剤師)	平成30年9月15日 JA愛知厚生連 足助病院 (愛知県豊田市)
第20回日本褥瘡学会 「NST とスキンケア委員会の統合によるチーム活動」	近藤貴代 (看護管理室・看護師)	平成30年9月29, 30日 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
第67回日本農村医学会学術集会 「労働環境の改善～救急外来当直制から夜勤制へ～」	近藤貴代 (看護師管理室・看護師)	平成30年10月10, 11日 TFTビル (東京都江東区)

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第 67 回日本農村医学会学術集会 「労働環境の改善～時間外削減 の取り組み～」	鈴木康子 (中央手術室・看護 師)	平成 30 年 10 月 10、11 日 TFT ビル (東京都江東区)
第 67 回日本農村医学会学術集会 「労働環境の改善～休暇取得の 取り組み～」	田中美穂 (外来・看護師)	平成 30 年 10 月 10、11 日 TFT ビル (東京都江東区)
第 46 回厚生連看護師会研修会看 護研究発表会 「乳児期の子どもが受ける採 血・点滴時の同席に関する母親の 認識」	小西梨紗子 (外来・看護師)	平成 30 年 11 月 3 日 名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)
第 18 回中部地方会固定チームナ ーシング研究会 「受け持ち看護師を中心とした 退院支援」	牧野千紘 (6F 病棟・看護師)	平成 30 年 12 月 4 日 ウインクあいち (愛知県名古屋市)

## ■ 院外講演会・勉強会講師

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
奈良医大臨床医学セミナー 「臨床に役立つ漢方医学・part 2」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 4 月 12 日 奈良県立医科大学 (奈良県)
奈良医大臨床医学セミナー 「臨床に役立つ漢方医学・part 3」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 10 月 11 日 奈良県立医科大学 (奈良県)
奈良医大臨床医学セミナー 「臨床に役立つ漢方医学・まとめ」	丹村敏則 (医師)	平成 31 年 2 月 7 日 奈良県立医科大学 (奈良県)
奥州市医師会講演会 「地域医療とチーム医療」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 4 月 13 日 水沢グランドホテル (岩手県奥州市)
各務原市医師会講演会 「高齢者疾患について」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 4 月 18 日 コパン各務原 (岐阜県各務原市)
四日市市市医師会講演会 「プライマリケア疾患について」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 4 月 25 日 プラトンホテル四日市 (四日市市)
岐阜県病院薬剤師会学術講演会 「病棟で活用する漢方薬」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 10 月 27 日 長良川国際会議場 (岐阜県)
常滑市薬剤師会講演会 「糖尿病の最新の治療」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 11 月 15 日 常滑市民病院 (常滑市)
伊那地域連携講演会 「チーム医療と地域連携」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 4 月 27 日 伊那中央病院 (長野県伊那市)
海南地域連携講演会 「病診連携での漢方薬の活用」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 5 月 11 日 海南病院 (愛知県弥富市)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
南大高地域連携講演会 「病診連携・チーム医療」	丹村敏則 (医師)	平成30年6月28日 南生協病院 (愛知県名古屋市)
知多地区マンモミーティング 第8回勉強会 症例検討「読んでみよう腫瘍」	岩佐 菜美 (診療放射線技師)	平成30年11月2日 半田市医師会健康管理センター (愛知県半田市)
南知多町介護予防事業 ふれあいクラブ	佐野 貴洋 (理学療法士) 瀧瀬 真之介 (理学療法士) 山岸 幸平 (理学療法士)	平成30年12月11日、 平成31年 3月12日 日間賀島 東老人憩いの家 (愛知県南知多町) 平成30年12月14日、 平成31年 3月7日 篠島 老人憩いの家 (愛知県南知多町) 平成30年12月3日、 平成31年 3月5日 日間賀島 西老人憩いの家 (愛知県南知多町)
医師会合同カンファレンス (協和発酵キリン株式会社) 当院における糖尿病のリハビリ 指導について	栗山 碧 (理学療法士)	平成31年 1月10日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)
心不全勉強会 (大塚製薬株式会社) 心不全のリハビリについて	栗山 碧 (理学療法士)	平成31年 2月20日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)
全忠寺 花まつり実行委員会 「健康体操」	森本 和宏 (理学療法士)	平成30年 4月20日 全忠寺 (愛知県美浜町)
南知多町 地域包括支援センター 「百歳体操の再指導」	森本 和宏 (理学療法士)	平成30年 5月17日 内海東端公民館 (愛知県南知多町)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
美浜町 健康・子育て支援課 古布敬老会「健康体操」	森本 和宏 (理学療法士)	平成 30 年 9 月 9 日 古布老人憩いの家 (愛知県美浜町)
南知多町 地域包括支援センター 「介護予防・筋力強化・ストレッチ」	森本 和宏 (理学療法士)	平成 30 年 10 月 10 日 豊浜中村公民館 (愛知県南知多町)
美浜町福祉課 介護予防サポーター養成講座「介護予防」	森本 和宏 (理学療法士)	平成 30 年 11 月 12 日 美浜町保健センター (愛知県美浜町)
南知多町 百歳体操実行委員会 百歳体操の再指導	森本 和宏 (理学療法士)	平成 31 年 2 月 21 日 サポートイン南知多 (愛知県南知多町)
南知多町老人クラブ連合会 ことぶき大学中央講座 介護予防と百歳体操、そして地域づくり	森本 和宏 (理学療法士)	平成 31 年 2 月 22 日 南知多 JA 会館 (愛知県南知多町)
南知多町 介護予防サポーター養成講座 第 1 回 介護予防と筋力強化の意義、百歳体操の指導	森本 和宏 (理学療法士)	平成 31 年 3 月 1 日 南知多町総合体育館 (愛知県南知多町)
南知多町 介護予防サポーター養成講座 第 2 回 百歳体操指導時の注意点と認知症に対する運動	森本 和宏 (理学療法士)	平成 31 年 3 月 8 日 南知多町総合体育館 (愛知県南知多町)
美浜町 健康講演会 生涯現役！めざせ 100 歳 健康長寿美浜～健康長寿の鍵は筋力の維持・向上	森本 和宏 (理学療法士)	平成 31 年 3 月 18 日 美浜町保健センター (愛知県美浜町)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
障害児等療育支援事業 南知多町どんぐり園 立ち上げ研修	仲林 八重 (理学療法士)	平成 30 年 6 月 18 日 10 月 29 日 平成 31 年 1 月 28 日 どんぐり園 (愛知県南知多町)
障害児等療育支援事業 美浜町事例検討会	仲林 八重 (理学療法士)	平成 30 年 7 月 24 日 平成 30 年 12 月 25 日 立野保育所 (愛知県美浜町)
特別養護老人ホーム大地の丘 感染予防研修会（麻疹について）	仮屋小百合 (看護師)	平成 30 年 6 月 14 日 特別養護老人ホーム大地の丘 (愛知県南知多町)
特別養護老人ホーム大地の丘 感染予防研修会（インフルエンザ・ノロウイルス予防）	仮屋小百合 (看護師)	平成 30 年 11 月 6 日 特別養護老人ホーム大地の丘 (愛知県南知多町)
AF Network Meeting in 美浜 循環器疾患合併の高齢者糖尿病患者の管理指導	末吉 真樹 (薬剤師)	平成 30 年 12 月 5 日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)
知多郡医師会 美浜・南知多 医師団 合同カンファレンス 当院における透析予防外来の薬剤指導	高松 真衣 (薬剤師)	平成 31 年 1 月 10 日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)
生活改善支援 ミニレクチャー 薬と上手にお付き合い	鈴木 咲芳 (薬剤師)	平成 30 年 9 月 21 日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)
平成 30 年度 第 2 回 チーム医療 に役立つ漢方医学入門 「五苓散」について	佐藤 友世 (薬剤師)	平成 30 年 9 月 5 日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
平成 30 年度 第 3 回 チーム医療 に役立つ漢方医学入門 「抑肝散」について	佐藤 友世 (薬剤師)	平成 30 年 12 月 5 日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)
平成 30 年度 第 4 回 チーム医療 に役立つ漢方医学入門 「麻黄湯」について	佐藤 友世 (薬剤師)	平成 31 年 3 月 6 日 知多厚生病院 (愛知県美浜町)
社会福祉法人あぐりす実りの会 「感染予防研修～麻疹について ～施設での感染症対策の疑問」	仮屋小百合 (感染管理認定看護 師)	平成 30 年 6 月 14 日 特別養護老人ホーム大地の 丘 (愛知県南知多町)
知多半島医療圏がん看護連携会 「平成 30 年度知多半島がん看護 基礎研修」	大井初江 (がん性疼痛看護認 定看護師)	平成 30 年 7 月 28 日 半田市立半田病院 (愛知県半田市)
八千代病院 「病院祭：八千代祭 地域住民レ クチャー」	横田剛裕 (脳卒中リハビリテ ーション看護認定看 護師)	平成 30 年 7 月 29 日 八千代病院 (愛知県安城市)
社会福祉法人あぐりす実の会 「ポジショニング」	荻巣昌子 (皮膚排泄ケア認定 看護師)	平成 30 年 8 月 28 日 特別養護老人ホーム大地の 丘 (愛知県南知多町)
知多半島医療圏がん看護連携会 「平成 30 年度知多半島がん化学 療法看護研修 I・II」	山本和美 (がん化学療法看護 認定看護師)	平成 30 年 9 月 8 日 半田市立半田病院 (愛知県半田市) 平成 30 年 12 月 8 日 公立西知多総合病院 (愛知県知多市)
第 20 回日本褥瘡学会学術集会 「一般演題在宅医療・地域医療 2 座長」	近藤貴代 (皮膚排泄ケア認定 看護師)	平成 30 年 9 月 28 日 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
あいちスキンケアセミナーin 名古屋（持田ヘルスケア） 「知っておきたい高齢者のスキンケアトラブル」	近藤貴代 （皮膚排泄ケア認定看護師）	平成 30 年 10 月 13 日 今池ガスビル （愛知県名古屋市）
第 46 回厚生連看護師会研修会 「看護研究発表会 座長」	近藤貴代 （看護部長）	平成 30 年 11 月 3 日 名古屋国際会議場 （愛知県名古屋市）
社会福祉法人あぐりす実の会 「感染予防研修～インフルエンザ・ノロウイルス～」	仮屋小百合 （感染管理認定看護師）	平成 30 年 11 月 6 日 特別養護老人ホーム 大地の丘 （愛知県南知多町）
すみれ訪問看護ステーション 「在宅ケアにおける褥瘡事例検討会」	近藤貴代 （皮膚排泄ケア認定看護師）	平成 30 年 11 月 17 日 半田市住吉福祉文化会館 （愛知県半田市）
日本福祉大学看護実践研究センター 「保健医療福祉における多職種連携～病院地域に果たす役割：事例による有機的連携と実践を目指して～」	大和優子 （急性期病棟看護係長）	平成 31 年 1 月 26 日 日本福祉大学東海キャンパス （愛知県東海市）
公益社団法人日本脳卒中協会 「第 30 回日本医学会総会市民啓発事業 脳卒中のすべてを知ろう」	横田剛裕 （脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）	平成 31 年 3 月 30 日 ポートメッセナゴヤ （愛知県名古屋市）
平成 30 年度 看護実践研究センターシンポジウム 「保健・医療・福祉における多職種連携について」	藤田 牧子 百合草 智恵子 村田 こず恵 鈴木 直子 宮地 清美	平成 31 年 1 月 26 日 日本福祉大学 （愛知県東海市）

## ■ 論文・雑誌掲載

発行／タイトル	掲載者／職種	日付／ページ
腎臓内科・泌尿器科 7 卷 (5) 「糖尿病腎症の診断と治療」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 5 月 1 日 p 4 4 8 - 4 5 2
漢方と最新治療 2 7 卷 (3) 「高齢者糖尿病とフレイル」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 8 月 25 日 p 2 2 7 - 2 3 2
漢方と最新治療 2 7 卷 (4) 「糖尿病薬 SGLT2 阻害剤の 肥満 2 型糖尿病患者に対する 防風通聖散の併用効果の検討」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 11 月 25 日 p 3 4 3 - 3 4 8
漢方と最新治療 2 8 卷 (1 号) 「高齢者の様々な疾患に漢方薬 シャーベットの有効であった 5 例の検討」	丹村敏則 (医師)	平成 31 年 2 月 25 日 p 6 3 - 6 7
漢方医学雑誌 2 6 卷 (3) 「鼎談：多領域で活用される補中 益気湯」	丹村敏則 (医師)	平成 30 年 9 月 1 日 p 4 ~ 1 4
医療タイムス No. 2385 「目指せ！戦略的広報！限られ た資源で院内・院外広報の働き方 改革を目指す」	田實直也 (事務)	平成 31 年 2 月 4 日 p 2 1 ~ 2 3





